

若い世代が住みやすいまちに関するアンケート

報告書（案）

平成28年2月9日時点

大 口 町

目 次

序章 調査の概要	1
第1章 あなたやあなたのご家族などについて	2
(1) 性別・年齢 (問1)	2
(2) 職業 (問2)	3
(3) 勤務地 (問3)	4
(4) 居住地 (自治組織) (問4)	6
(5) 住宅の種類 (問5)	8
(6) 居住年数 (問6)	10
(7) 世帯のタイプ (問7)	11
(8) 家族の人数 (問8)	13
(9) 同居の家族 (問9)	14
第2章 結婚について	17
(1) 結婚の有無 (問10)	17
(2) 結婚・再婚の意向 (問11)	19
(3) 結婚していない理由 (問12)	21
(4) 婚活の有無 (問13)	24
(5) 行政による結婚支援 (問14)	26
第3章 子ども・子育てについて	30
(1) 現在の子ども数 (問15)	30
(2) 理想的な子ども数 (問16)	32
(3) 現在の子ども数の方が少ない理由 (問17)	38
(4) 子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項 (問18)	42
(5) 子育てしやすいまちとしての評価 (問19)	45
(6) 子育てする上での負担や悩み (問20)	49
(7) 将来の子どもの居住地 (問21)	51
第4章 仕事について	52
(1) 現在の仕事を選択した理由 (問22)	52
(2) 仕事に対する満足度 (問23)	54
(3) 仕事に対する満足度の理由 (問24)	57
(4) 雇用機会等を充実するための取組 (問25)	59

第5章 大口町の住みやすさや定住意向について	61
(1) 大口町における住みやすさの評価 (問26)	61
(2) 大口町への定住意向 (問27)	63
(3) 大口町から転出することになった場合の理由 (問28)	65
(4) 若い世代の移住・定住促進のために力を入れるべき事項 (問29)	66
■調査票	69

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

大口町では、『みんなで進める自立と共助のまちづくり』を基本理念として掲げた第6次大口町総合計画に基づいて町政運営を進めてきました。また、全国的に人口減少や少子高齢化が進んでいる中、本町では、住みやすいまちづくりを進めるための戦略（計画）づくりをスタートさせたところです。

そこで、より一層住みやすいまちづくりを進めていくための基礎資料を得ることを目的に、大口町内にお住まいの20～40歳の若い世代の方を対象にアンケートを実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象

平成27年11月1日現在、大口町内に在住している20歳～40歳の町民約2,500人

②調査方法

郵送配布・郵送回収方式

③調査期間

平成27年11月25日から平成27年12月10日までの期間

(3) アンケート票の配付・回収状況

配付・回収状況は、下表の通りです。

(3) アンケート票の配付・回収状況

表0-1 配付・回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,488	857	34.4 (%)

(4) グラフの見方等

グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。

図中の構成比 (%) は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入していますので、合計は必ずしも100.0%にはなりません。

一部のグラフにおいては、「不明（回答なし）」は省略してあります。また、設問のカテゴリー（選択肢）などの表現は、一部省略してある場合があります。

第1章 あなたやあなたのご家族などについて

(1) 性別・年齢 (問1)

問1 あなたの性別・年齢をお教えてください。

回答者の性別は、「女性」が53.9%、「男性」が45.6%となっており、年齢については、20歳代よりも30歳代・40歳の方が多くを占めています。

【回答者の性別】

○回答者の性別は、「男性」が45.6%、「女性」が53.9%と、「女性」が8.3ポイント上回っています(図1-1-1)。

【回答者の年齢】

○「35～40歳」が35.4%と最も多く、次いで「30～34歳」が27.0%と多く、30歳代・40歳は合わせて62.4%を占めています。20歳代は、37.2%（「20～24歳」：19.1%、「25～29歳」：18.1%）となっています。(図1-1-2)。

図1-1-1 「性別」

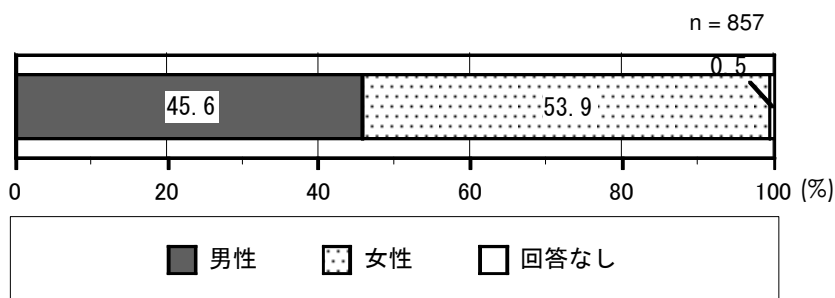
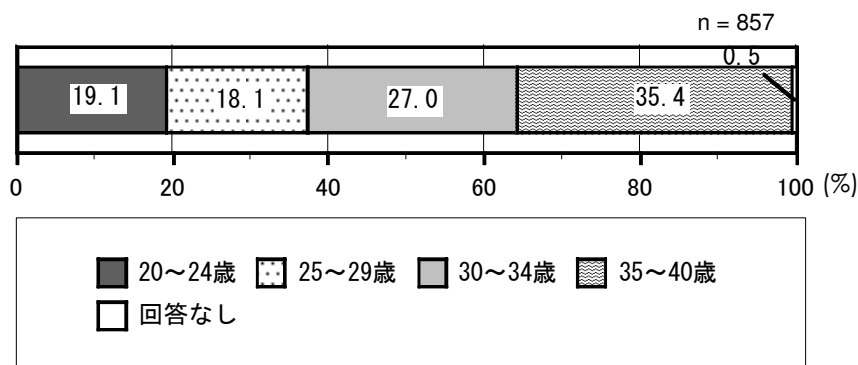


図1-1-2 「年齢」



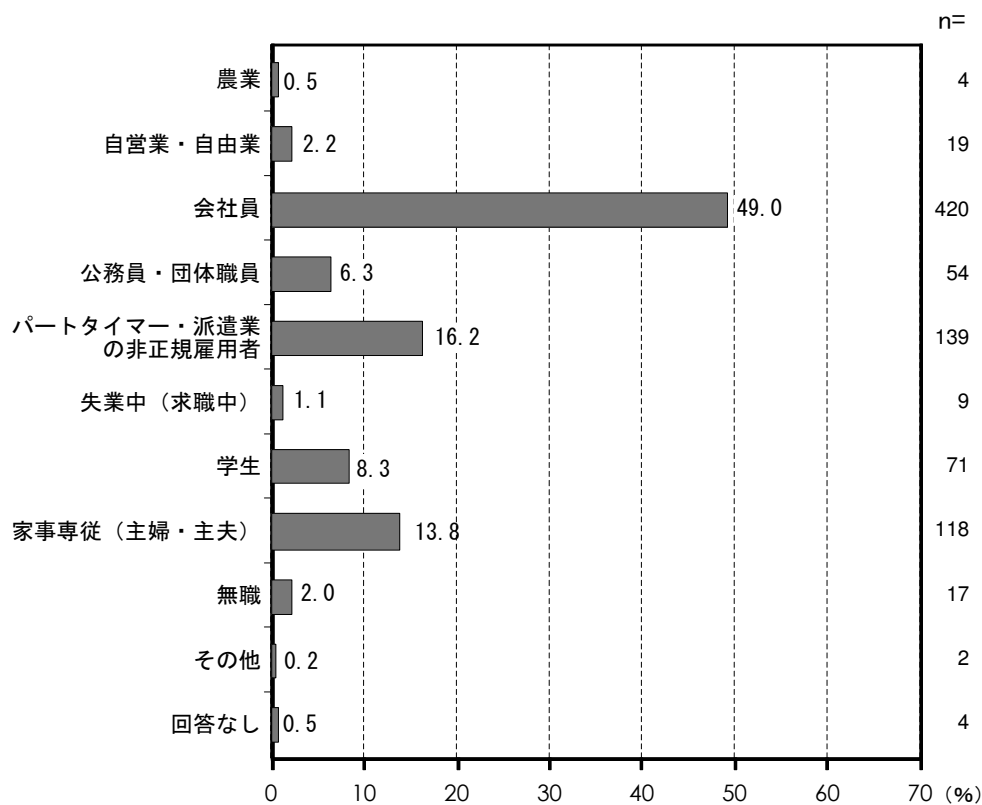
(2) 職業 (問2)

問2 あなたの職業は何ですか。

回答者の職業については、「会社員」が、約半数を占めています。

○回答者の職業については、「会社員」が、49.0%を占め最も多くなっています。これに次いで、「パートタイマー・派遣業の非正規雇用者」(16.2%)や「家事専従(主婦・主夫)」(13.8%)が多くなっています(図1-2)。

図1-2「職業」



(3) 勤務地 (問3)

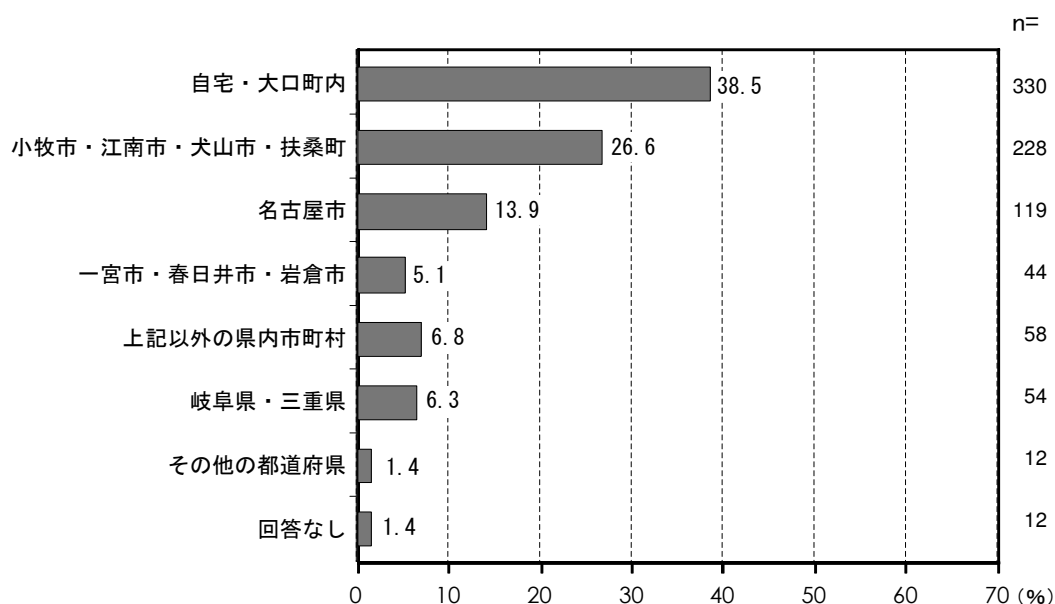
問3 あなたの勤務地 (働いているところ) 又は通学しているところはどこですか。

自宅・大口町内を含めて近隣市町に勤務・通勤している人 (「家事専従」や「無職」等も含む) が大半 (8割超) を占めています。

○回答者の勤務地・通学地については、「自宅・大口町内」(「家事専従」や「無職」等も含む) が 38.5%で最も多く、次いで、「小牧市・江南市・犬山市・扶桑町」(26.6%)、「名古屋市」(13.9%) が多くなっています。

○自宅・大口町内および隣接・近隣市町 (名古屋市を含む) に勤務・通勤している人 (「家事専従」や「無職」等も含む) は、84.1%を占めています (図1-3)。

図1-3 「勤務地」



【参考】表 1-3-1 カテゴリ「上記以外の市町村」内訳

その他県内市町村	件数
日進市	8
長久手市	6
豊山町	6
北名古屋市	5
刈谷市	5
豊橋市	3
稲沢市	3
豊田市	3
大府市	2
瀬戸市	2
岡崎市	1
清須市	1
みよし市	1
愛西市	1
半田市	1
あま市	1
東海市	1
安城市	1
豊明市	1
弥富市	1
東浦町	1
美浜町	1
西春町	1
合計	56

【参考】表 1-3-2 カテゴリ「その他の都道府県」（岐阜県・三重県含む）内訳

その他の都道府県	件数
岐阜県	51
滋賀県	5
三重県	2
東京都	2
神奈川県	1
京都府	1
大阪府	1
合計	63

(4) 居住地（自治組織）（問4）

問4 あなたのお住まいはどの自治組織にありますか。

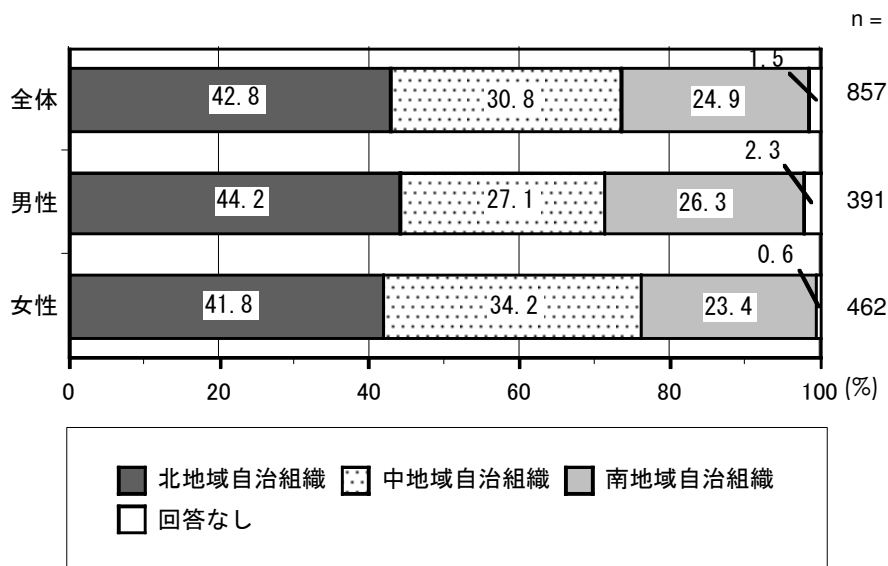
回答者の居住地（自治組織）については、「北地域自治組織」が42.8%と最も多く、次いで、「中地域自治組織」（30.8%）、「南地域自治組織」（24.9%）の順になっています。

○回答者の居住地（自治組織）については、「北自治組織」が42.8%と最も多く、次いで、「中地域自治組織」（30.8%）、「南地域自治組織」（24.9%）の順となっています。

【性別】

○性別でみると、男性に比べて女性の方が「中地域自治組織」の占める割合が若干多くなっています（図1-4-1）。

図1-4-1 性別「居住地（自治組織）」



【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳において「北自治組織」の割合が34.8%と少なくなっています。また、25～29歳において「中地域自治区」の割合(25.2%)が、30～34歳において「南地域自治組織」の割合(19.0%)が全体値と比べて若干少なくなっています(図1-4-2)。

図1-4-2 年齢別「居住地(自治組織)」

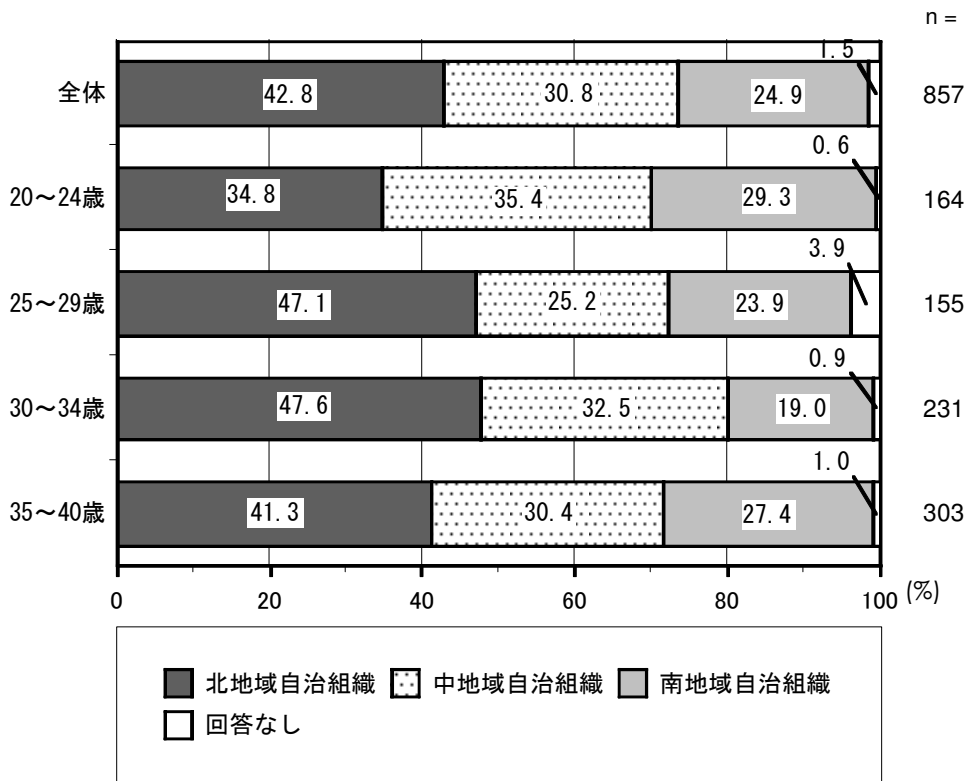


表1-4 自治組織-行政区対照表

自治組織	行政区
北地域自治組織	外坪、河北、上小口、中小口、下小口
中地域自治組織	余野、垣田、さつきヶ丘
南地域自治組織	秋田、豊田、大屋敷

(5) 住宅の種類 (問5)

問5 あなたがお住まいの住宅の種類は、次のうちどれですか。

住宅の種類については、「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」(35.5%) が最も多く、「一戸建ての持ち家（本人または配偶者の所有）」(34.1%)、「賃貸アパート等（建物が2階建以下）」(18.0%) の順となっています。

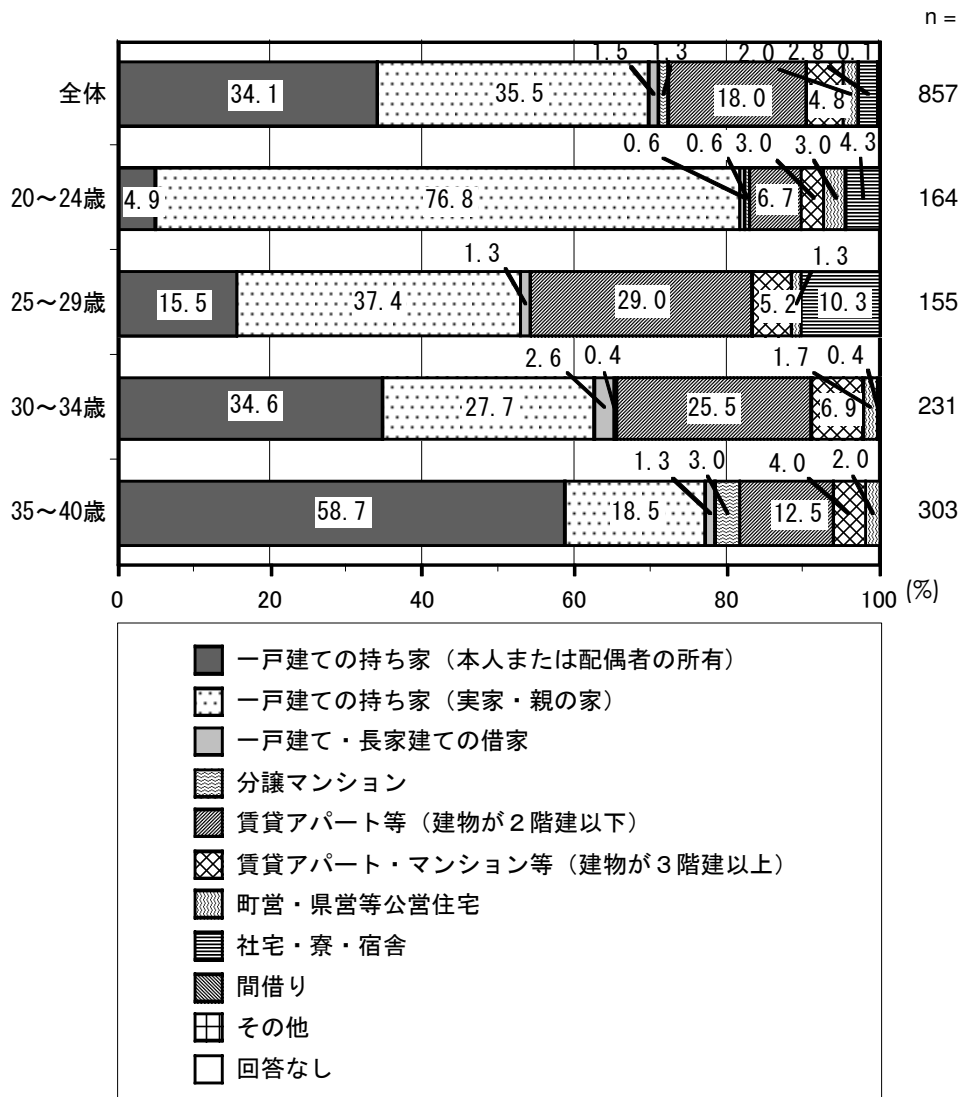
○住宅の種類については、「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」(35.5%) が最も多く、次いで、「一戸建ての持ち家（本人または配偶者の所有）」(34.1%)、「賃貸アパート等（建物が2階建以下）」(18.0%) が多くなっています。(図1-5-1)。

【年齢別】

○年齢別にみると、「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」は、20～24歳では76.8%と大半を占めていますが、年齢層が高くなるにしたがって減少していく傾向が顕著にみられます。「一戸建ての持ち家（本人または配偶者の所有）」については、それとはまったく逆の傾向が顕著にみられます。

○「賃貸アパート等（建物が2階建以下）」に住んでいる人の割合は、25～29歳(29.0%) で多くっており、同年代以降、減少していく傾向がみられます(図1-5-1)。

図1-5-1 年齢別「住宅の種類」

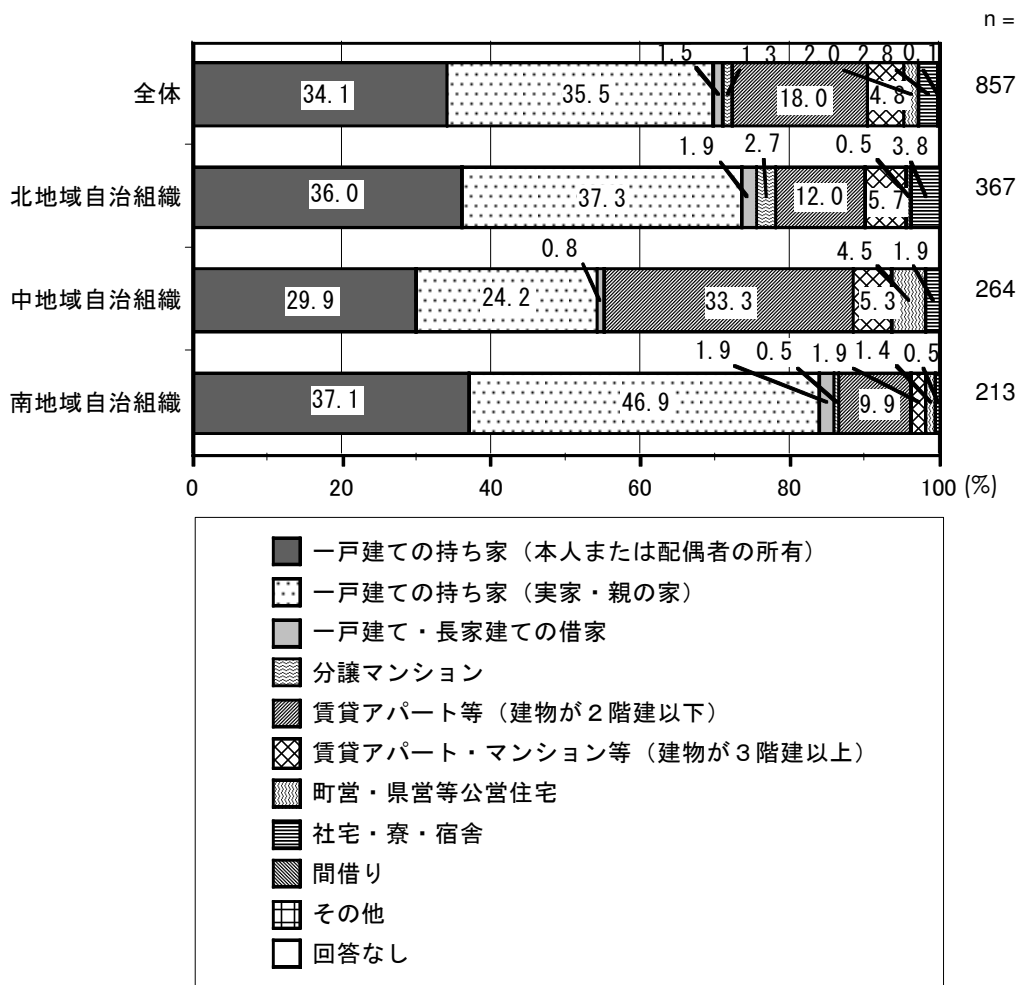


【居住地（自治組織）別】

○居住地別にみると、中地域自治組織では「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」（24.2%）が全体と比べて11.3ポイント少ない一方で、「賃貸アパート等（建物が2階建以下）」（33.3%）では、全体と比べて15.3ポイント程度多くなっています。

○南地域自治組織では「一戸建ての持ち家（実家・親の家）」（46.9%）が全体と比べて11.4ポイント多い一方で、「賃貸アパート等（建物が2階建以下）」（9.9%）と全体と比べて8.1ポイント少なくなっています。（図1-5-2）。

図1-5-2 居住地（自治組織）別「住宅の種類」



(6) 居住年数 (問6)

問6 あなたは、大口町にお住まいになって何年ぐらいになりますか。

居住年数については、「20年以上30年未満」が22.1%と最も多く、「30年以上」(13.2%)と合わせると35.3%になります。この中には、生まれてからずっと大口町内で住んでいるという若い人がかなり含まれています。

○回答者の大口町での居住年数については、「20年以上30年未満」が22.1%と最も多く、次いで、「5年以上10年未満」(21.2%)、「3年未満」(16.9%)、「10年以上20年未満」(15.8%)と続いています(図1-6-1)。

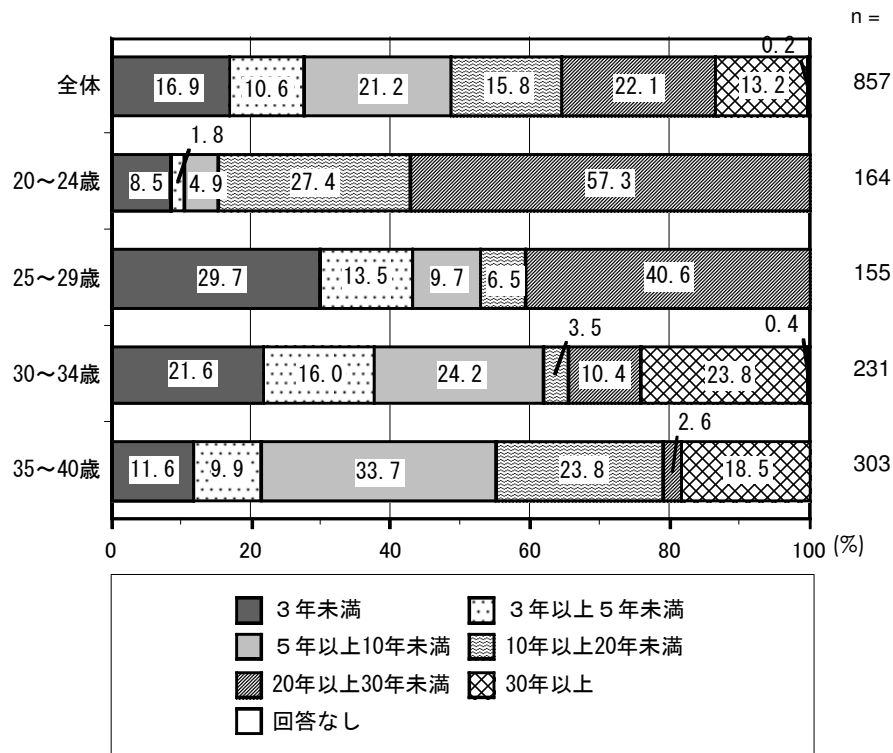
【年齢別】

○年齢別にみると、親の持ち家等に同居している割合が多い20~24歳では、「20年以上30年未満」が57.3%と、生まれてからずっと、あるいは生まれて間もない頃から大口町内で住んでいるが過半数を占めています。また、若い頃から大口町内に住んでいると思われる「10年以上20年未満」(27.4%)という人も比較的多くを占めています。

○25~29歳でも同様に、「20年以上30年未満」(40.6%)の割合が多いものの、その一方で、「3年未満」といった、最近になってから大口町に住み始めた人も29.7%と多くなっています。

○「3年未満」というここ最近から大口町に住み始めた人は、このように25~29歳(29.7%)で最も多く、それ以降の年齢層になるにつれて次第に少なくなる傾向がみられます(図1-6-1)。

図1-6 年齢別「居住年数」



(7) 世帯のタイプ (問7)

問7 あなたの世帯のタイプは次のどれに該当しますか。

回答者の過半数 (55.8%) が「2世代同居世帯」であり、特に、35～40歳で67.3%と多くなっています。

○回答者の世帯のタイプについては、「2世代同居世帯のうち「本人や配偶者+子ども」からなる世帯」が38.9%を占め最も多くなっています。

○次いで、「2世代同居世帯のうち「本人や配偶者+本人や配偶者の親」からなる世帯」(16.9%)が多くなっており、2世代同居世帯の合計は、全体の55.8%を占めています (図1-7-1)。

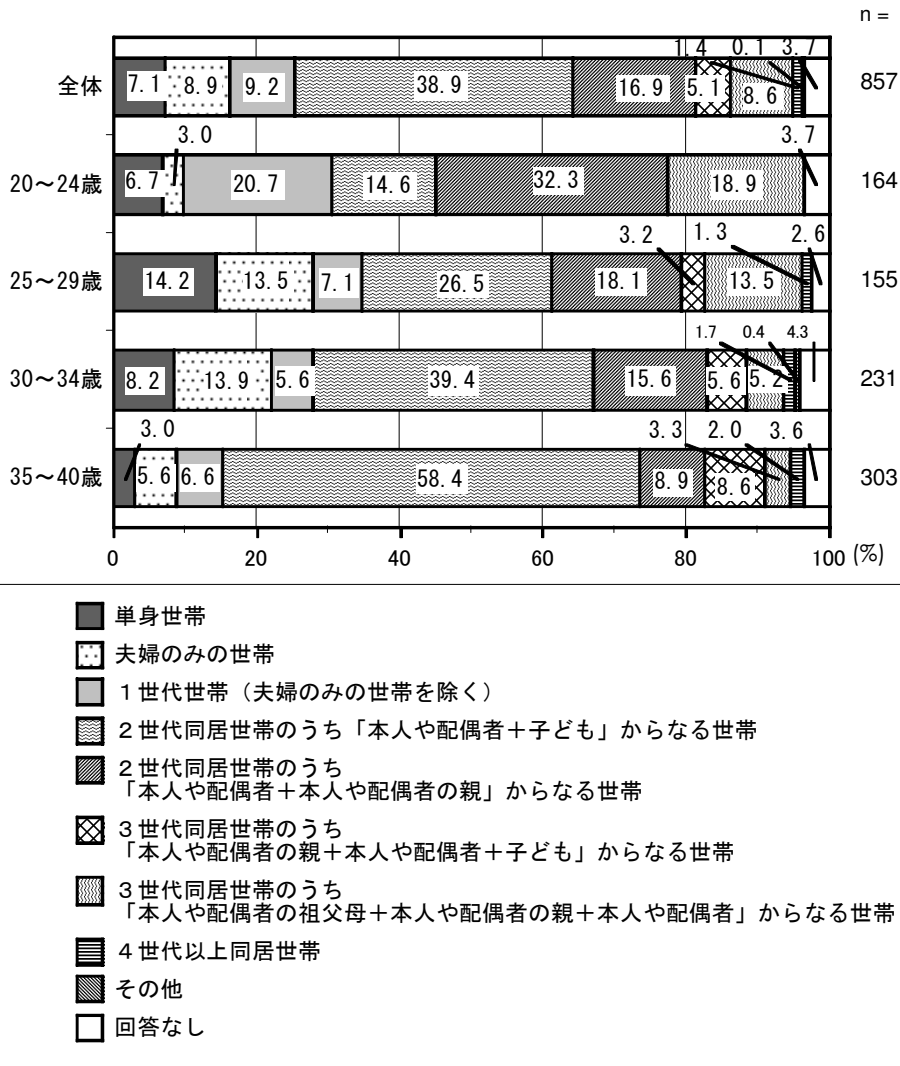
【年齢別】

○年齢別にみると、年齢が上昇するにしたがって「2世代同居のうち「本人や配偶者+子ども」からなる世帯」の割合が多くなる傾向みられ、35～40歳では58.4%を占めています。「2世代同居のうち「本人や配偶者+本人や配偶者の親」からなる世帯」(8.9%)を加えると、2世代同居家族は67.3%となり30ます。

○逆に、「2世代同居のうち「本人や配偶者+本人や配偶者の親」からなる世帯」の割合は、20～25歳において32.3%と最も多く、年齢が上昇するにしたがって少なくな傾向がみられます。

○その他、20～24歳では、「1世代世帯 (夫婦のみの世帯を除く)」(20.7%)や「3世代同居世帯のうち「本人や配偶者の祖父母+本人や配偶者の親+本人や配偶者」からなる世帯」(18.9%)が全体値に比べて、それぞれ、11.5ポイント、10.3ポイント多くなっていることが特徴としてみられます (図1-7-1)。

図1-7-1 年齢別「世帯のタイプ」



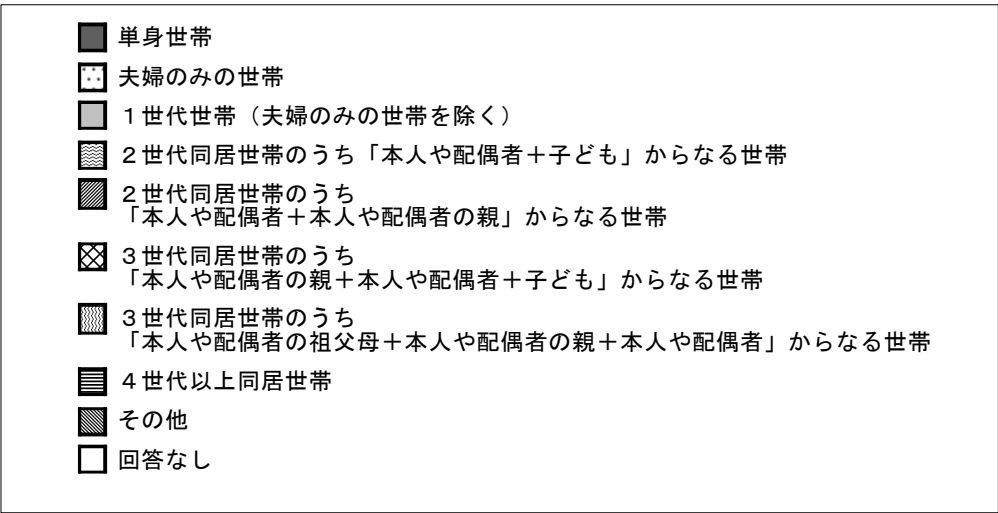
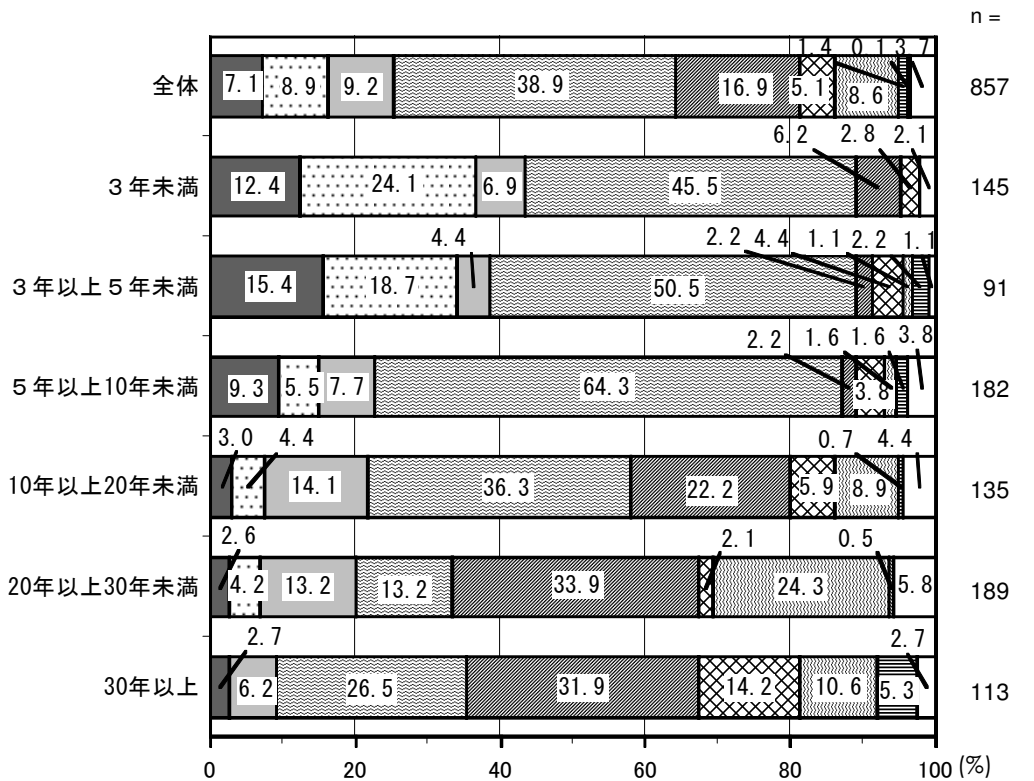
【居住年数別】

○居住年数別にみると、「2世代同居世帯のうち「本人や配偶者+子ども」からなる世帯」の割合は、3年未満では45.5%、3年以上5年未満では50.5%、5年以上10年未満では64.3%であり、居住年数の短い人において多くなっています。しかも、居住年数が3年未満よりも3年以上5年未満の方が、さらに、居住年数が3年以上5年未満よりも5年以上10年未満の方がその割合が多いという傾向がみられます。

○その分、3年未満と3年以上5年未満では、「夫婦のみの世帯」がそれぞれ、24.1%、18.7%を占め、全体値や居住年数が5年以上10年未満という人に比べて多くなっています。また、「単身世帯」の割合についても同様に、全体値や居住年数が5年以上10年未満という人に比べて多くなっています。

○このことから、結婚後に子どもが生まれてから大口町に転入して子育てをしている世帯が比較的多い状況がうかがえるとともに、大口町に単身で、あるいは、結婚してから夫婦で転入し、その後に子ども産んでいる世帯も少なくない状況がうかがえます(図1-7-2)。

図1-7-2 居住年数別「世帯のタイプ」



(8) 家族の人数 (問8)

問8 あなたと同居している家族全員の人数は、何人ですか。あなた自身も含めた家族人数をご記入ください。

自分自身も含めた同居家族の平均人数は、3.70 人となっています。

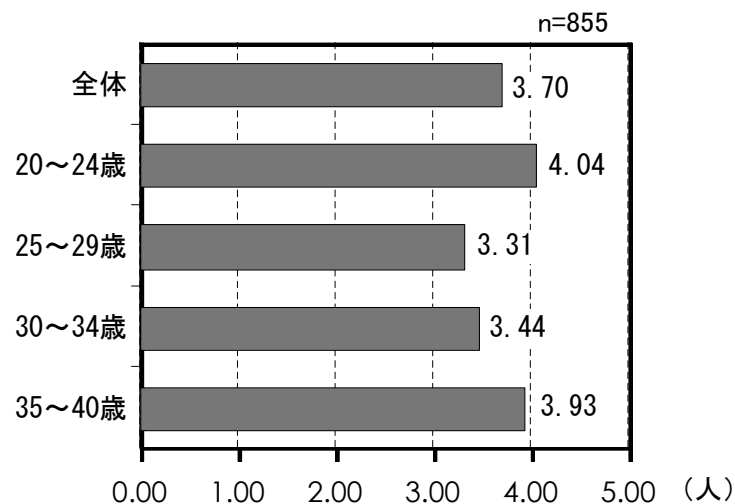
○自分自身も含めた同居家族の平均人数についてみると、3.70 人となっています。これは、大口町の平成27年11月1日現在の平均世帯人員(2.86人)を大きく上回る数字です(図1-8)。

【居住年数別】

○年齢別にみると、20～24歳において4.04人と一番多くなっています。図1-7-1で示したように、年齢が若いため、まだ親の家に同居している、あるいは3世代同居の割合が多いことによるものと考えられます。

○また、2世代同居のうち「本人や配偶者+子ども」からなる2世代の割合が多い35～40歳でも3.93人と20～24歳に次いで平均世帯人員が多くなっています(図1-8)。

図1-8 回答者年齢別「家族の人数(平均)」



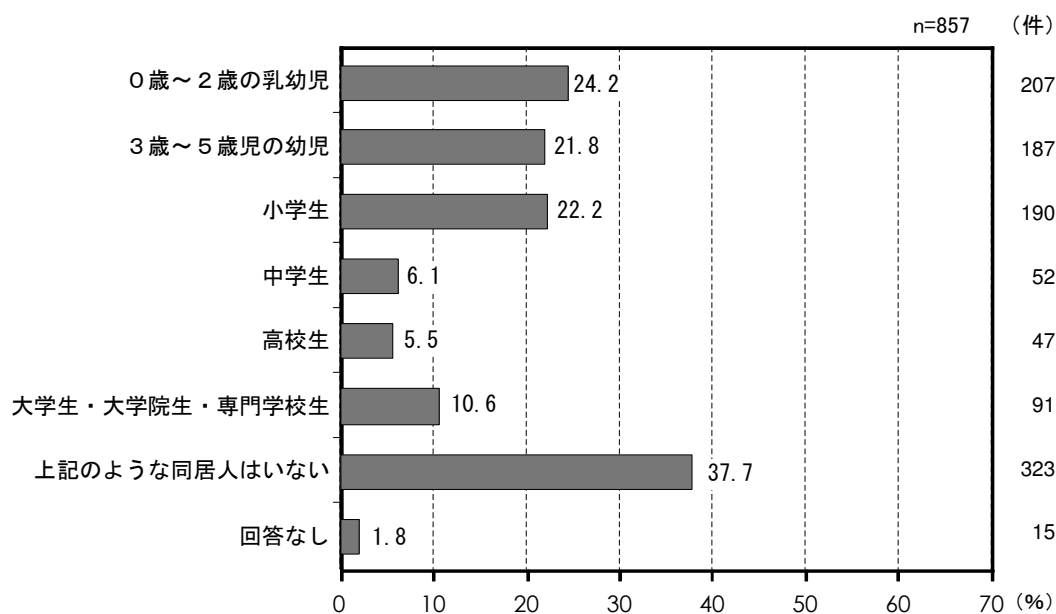
(9) 同居の家族 (問9)

問9 あなたと同居している家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなた自身も含めて回答してください。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

同居の家族に大学生・大学院生等以下の子どもがいないとする回答が37.7%を占め多いものの、30～34歳や35～40歳の年齢層を中心に幼児や小学生がいる人の割合も多くなっています。

○同居している家族（大学生・大学院生等以下の子どもの有無）については、「大学生・大学院生等以下の子どもがいない（上記のような同居人はいない）」が、37.7%と多くを占めているものの、これを除くと、「0歳～2歳の乳幼児」がいる人が24.2%と最も多く、次いで、「小学生」がいる人（22.2%）、「3～5歳児の幼児」がいる人（21.8%）となっています（図1-9-1）。

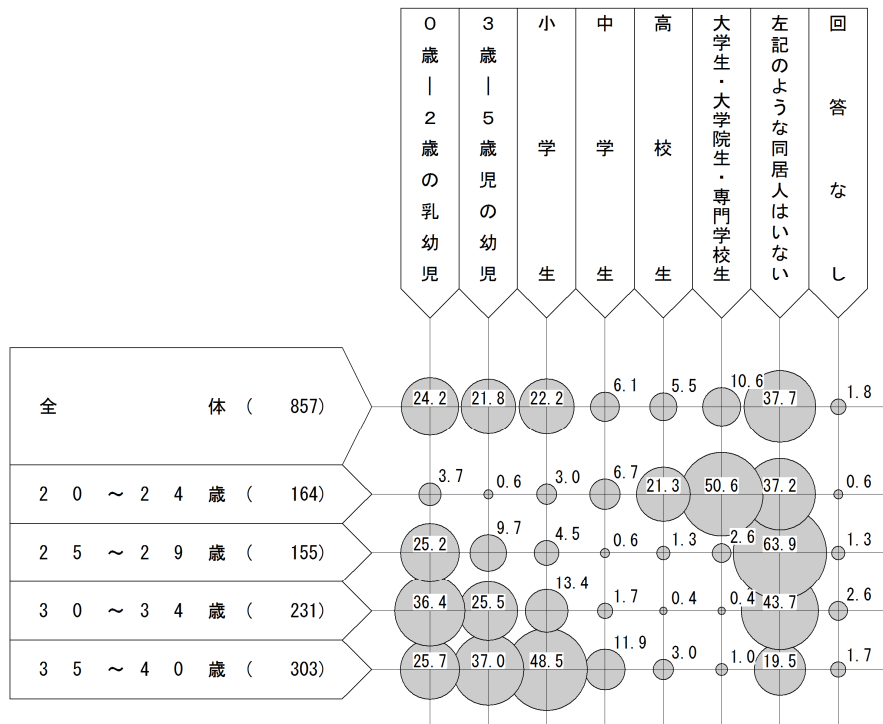
図 1-9-1 「同居の家族」



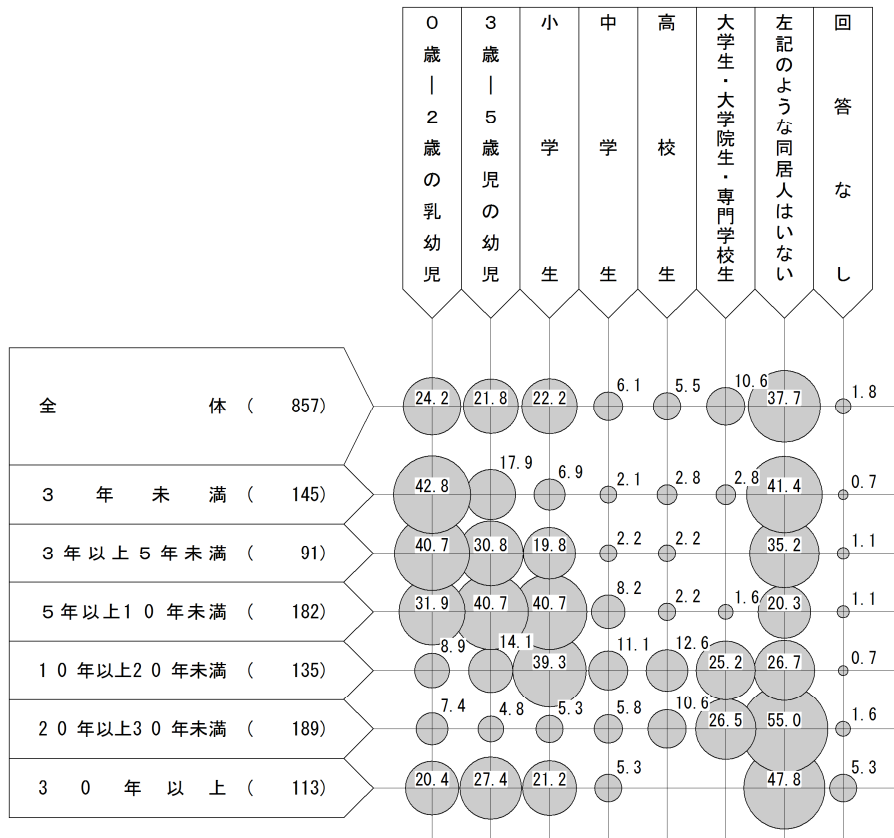
【年齢別】

- 年齢別にみると、20～24歳では、「大学生・大学院生・専門学校生」が50.6%と目立って多くなっています。これは、本人や本人の兄弟姉妹を指しているものと思われます。
- 25～29歳では、「大学生・大学院生等以下の子どもがいない（左記のような同居人はいない）」が63.9%と目立って多くなっています。
- 30～34歳では、「0歳～2歳の乳幼児」（36.4%）や「大学生・大学院生等以下の子どもがいない（左記のような同居人はいない）」（43.7%）が多くなっています。
- 35～40歳では、「大学生・大学院生等以下の子どもがいない（左記のような同居人はいない）」が19.5%と他と比べてかなり少なくなっています。その分、「小学生」が48.5%と目立って多くなっており、また、「3～5歳児の幼児」（37.0%）も多くなっています（図1-9-2）。

図1-9-2 年齢別「同居の家族」



【参考】図1-9-3 居住年数別「同居の家族」



第2章 結婚について

(1) 結婚の有無 (問10)

問10 あなたは結婚していますか。

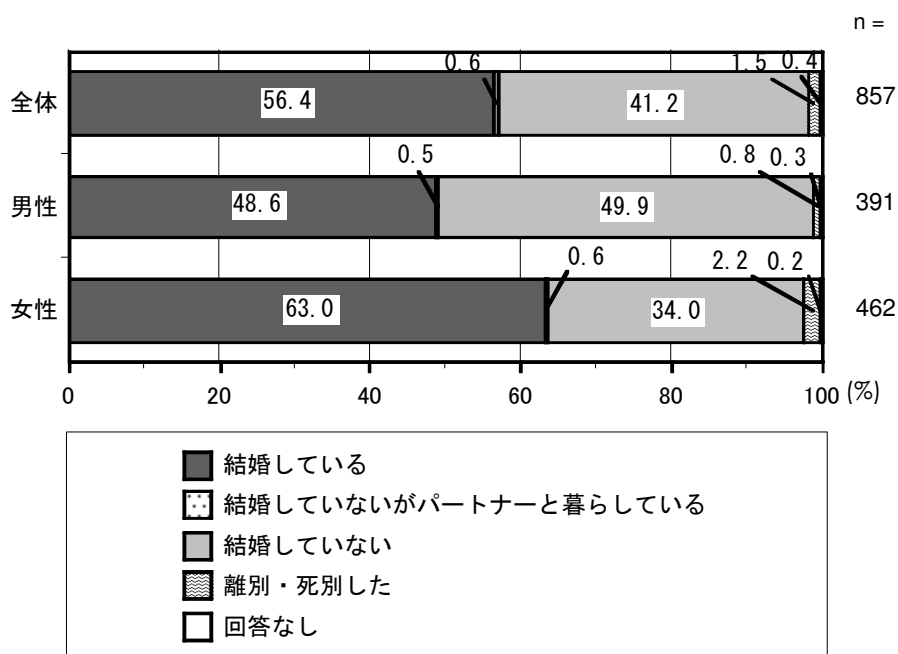
既婚者は、56.4%を占めています。20～24歳では、既婚者は、僅か4.9%ですが、年齢が上昇するにしたがって既婚者が多くなる傾向が顕著にみられ、35～40歳では83.2%になっています。

○結婚の有無については、「結婚している」は、56.4%であるのに対して、「結婚していない」は41.2%で、既婚者が未婚者を上回っています(図2-1-1)。

【性別】

○性別でみると、男性の方が女性よりも未婚者が多くなっています(図2-1-1)。

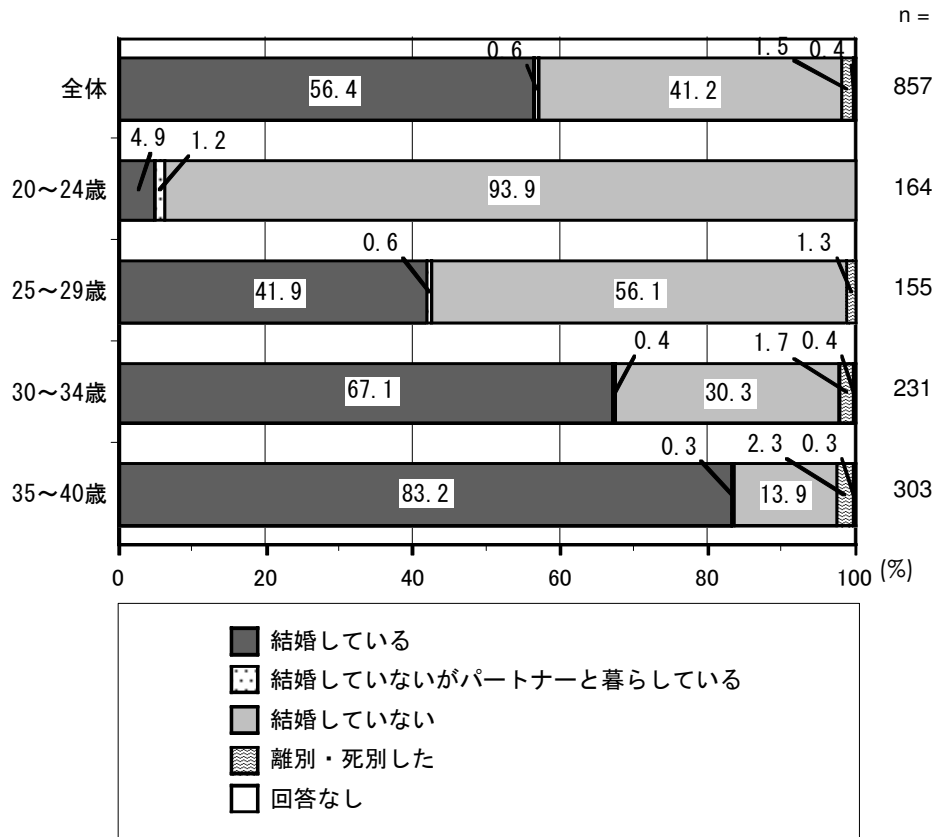
図2-1-1 性別「結婚の有無」



【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳では、既婚者は、僅か4.9%ですが、年齢が上昇するにしたがって既婚者が多くなる傾向が顕著にみられ、35～40歳では83.2%が既婚者となっています（図2-1-2）。

図2-1-2 年齢別「結婚の有無」



(2) 結婚・再婚の意向 (問11)

問11 あなたは、将来、結婚・再婚したいと思いますか。

未婚者のうち、「いずれは結婚・再婚するつもりである」が44.7%を占め最も多く、「できるだけ早く結婚・再婚したい」や「既に婚約している」と合わせると、70.8%が結婚・再婚の意向を示しています。

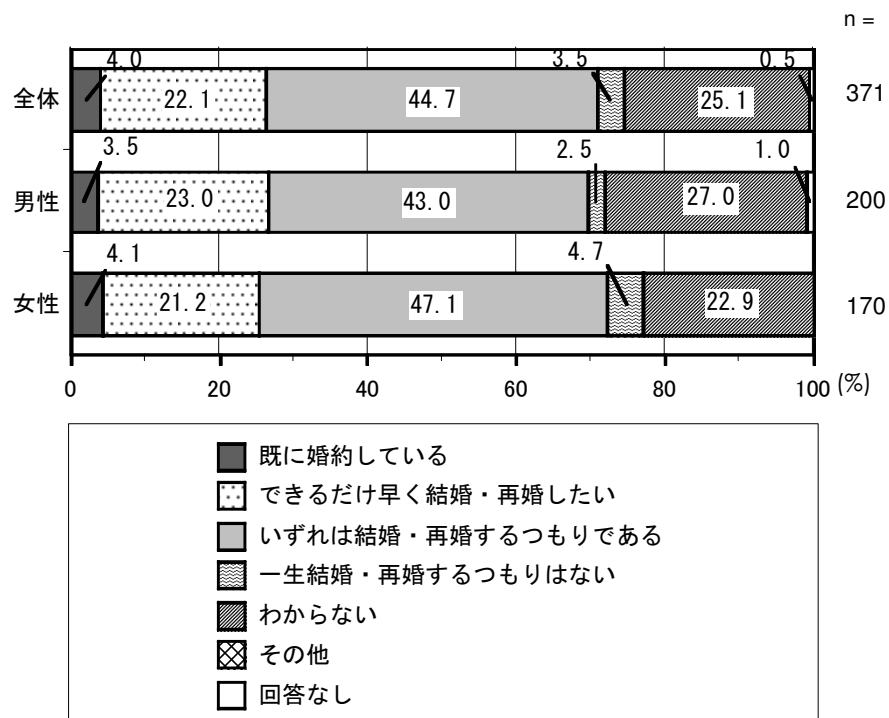
○未婚者（「結婚していないがパートナーと暮らしている」と「離別・死別した」も含む）と回答した371人に対して、結婚・再婚の意向を尋ねたところ、「いずれは結婚・再婚するつもりである」が44.7%と最も多く、「できるだけ早く結婚・再婚したい」(22.1%)や「既に婚約している」(4.0%)と合わせると、70.8%が結婚・再婚の意向を示しています。

○一方、「一生結婚・再婚するつもりはない」は3.5%と少なくなっています。また、「わからない」という人は、25.1%となっています(図2-2-1)。

【性別】

○性別による有意な差はみられません(図2-2-1)。

図2-2-1 性別「結婚・再婚の意向」

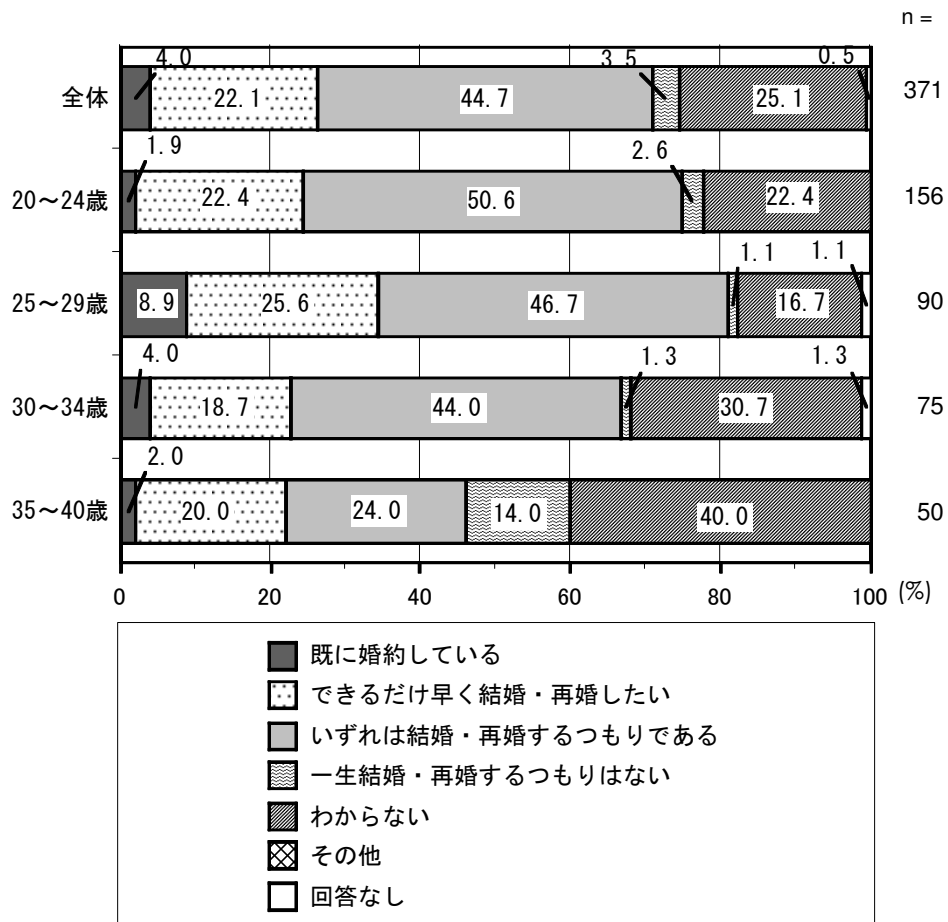


【年齢別】

○年齢別にみると、35～40歳では、「わからない」という回答が40.0%と他に比べて多くなっており、逆に「いずれは結婚・再婚するつもりである」が24.0%と他に比べて少なくなっていることが特徴としてみられます。

○年齢層が上昇するのにしたがって「いずれは結婚・再婚するつもりである」が順次少なくなり、その分、「わからない」の割合が多くなる傾向がみられます（図2-2-2）。

図2-2-2 年齢別「結婚・再婚の意向」



(3) 結婚していない理由 (問12)

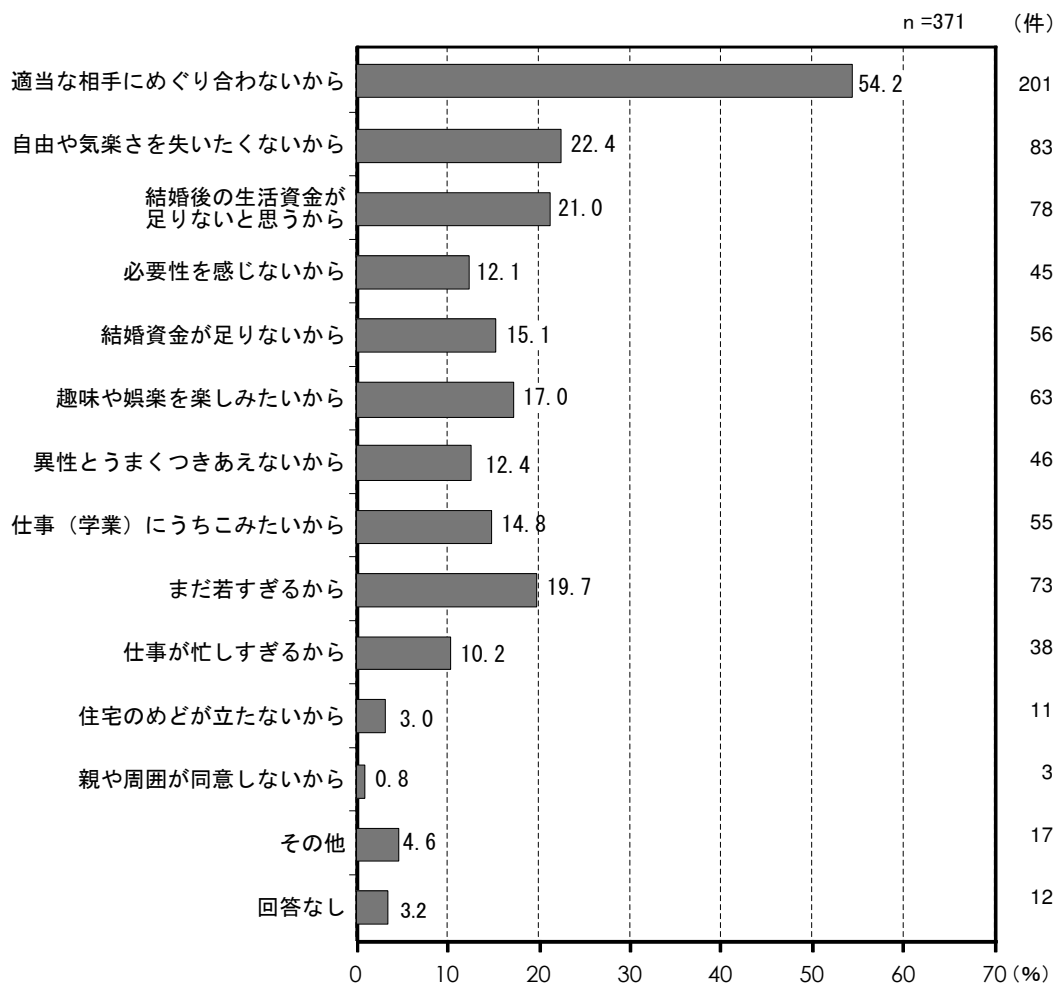
問12 あなたが結婚していない理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

未婚の理由を尋ねたところ、「適当な相手にめぐり合わないから」が理由のトップになっています。2番目は、「自由や気楽さを失いたくないから」、3番目は、「結婚後の生活資金が足りないと思うから」となっています。

○未婚者（「結婚していないがパートナーと暮らしている」と「離別・死別した」も含む）と回答した 371 人に対して、未婚の理由を尋ねたところ、「適当な相手にめぐり合わないから」（54.2%）が理由のトップになっています。2番目は、「自由や気楽さを失いたくないから」（22.4%）、3番目は、「結婚後の生活資金が足りないと思うから」（21.0%）、4番目は、「まだ若すぎるから」（19.7%）、5番目は、「趣味や娯楽を楽しみたいから」（17.0%）、6番目は、「結婚資金が足りないから」（15.1%）となっています。

○めぐり合いのなさや自由や気楽さを失いたくないことを理由としている一方で、結婚後の生活資金といった資金的なことについても結婚の阻害要因になっていることがうかがえます（図2-3-1）。

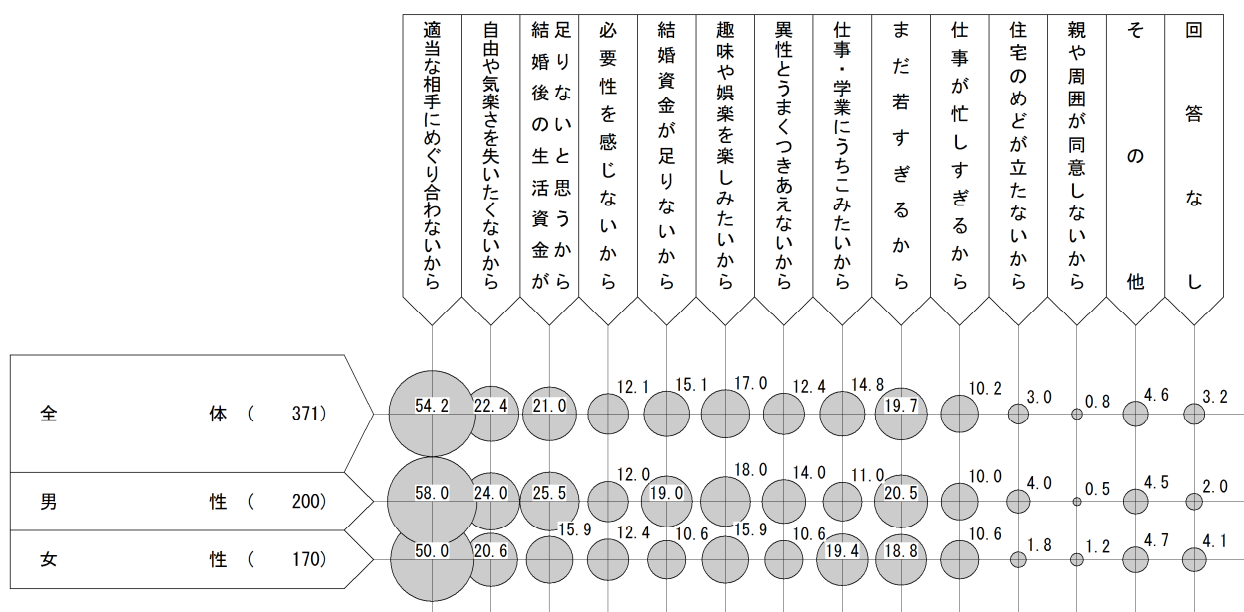
図2-3-1 「結婚していない理由」



【性別】

○性別でみると、「結婚後の生活資金が足りないと思うから」（男性：25.5%、女性：15.9%）と「結婚資金が足りないから」（男性：19.0%、女性：10.6%）については、男性に多い傾向が、逆に、「仕事・学業にうちこみたいから」（男性：11.0%、女性：19.4%）については、女性に多い傾向がみられますが、全般的にみて性別による大きな差はみられません（図2-3-2）。

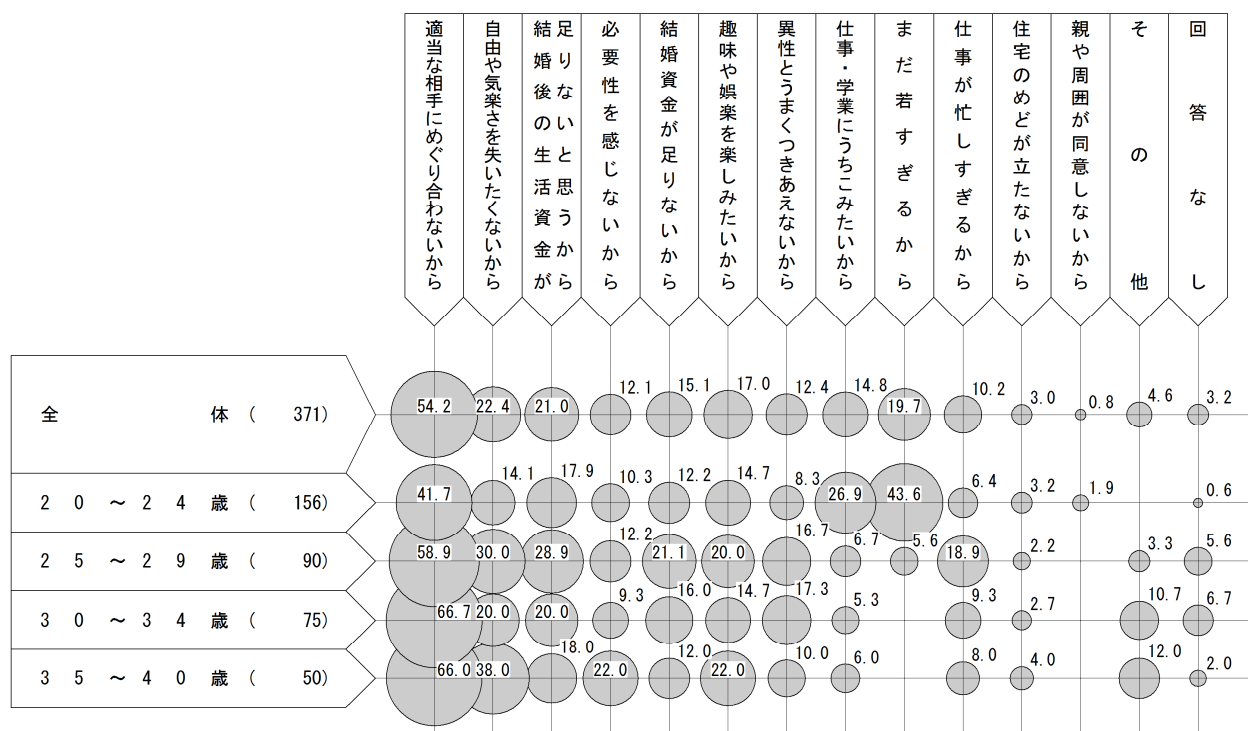
図2-3-2 性別「結婚していない理由」



【年齢別】

- 年齢別にみると、20～24歳では、「まだ若すぎる」(43.6%)や「仕事・学業にうちこみたい」(29.9%)が全体値に比べ多くなっています。
- 25～29歳では、「自由や気楽さを失いたくないから」(30.0%)や「結婚後の生活資金が足りないと思うから」(28.9%)、「結婚資金が足りないから」(21.1%)が全体値に比べ若干多くなっていることが特徴としてみられます。
- 30～34歳では、「適当な相手にめぐり合わないから」(66.7%)が全体値に比べて多くなっていることと、「異性とうまくつきあえないから」(17.3%)が全体値に比べ若干多くなっていることが特徴としてみられます。
- 35～40歳では、「適当な相手にめぐり合わないから」(66.0%)に加えて、「自由や気楽さを失いたくないから」(38.0%)が全体値に比べて多くなっています。また、「必要性を感じないから」(22.0%)と「趣味や娯楽を楽しみたいから」が全体値に比べ若干多くなっています(図2-3-3)。

図2-3-3 年齢別「結婚していない理由」



(4) 婚活の有無 (問13)

問13 あなたは、婚活をしていますか。

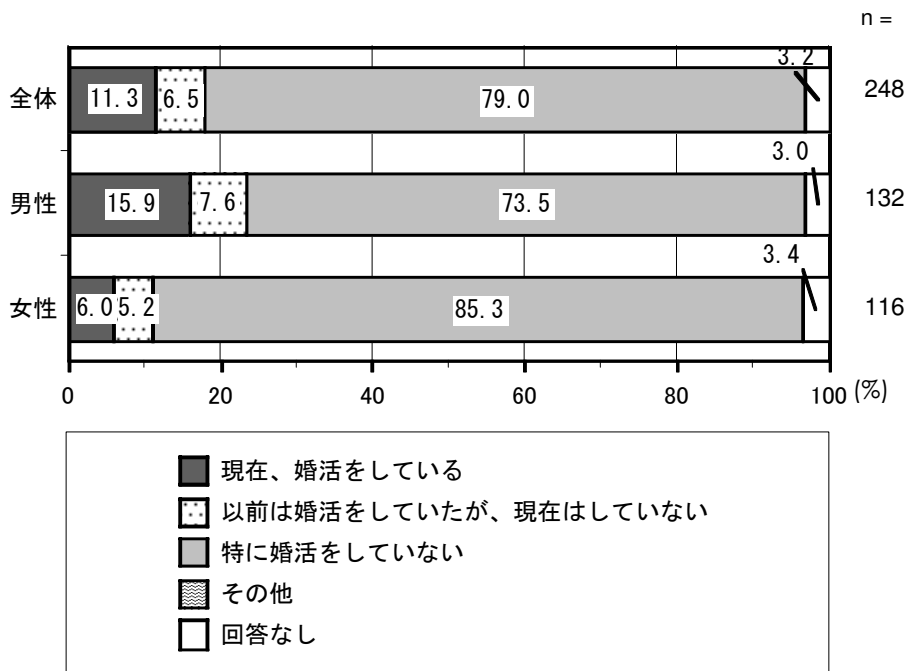
「できるだけ早く結婚したい」と「いずれは結婚するつもりである」と回答した未婚者のうち、「特に婚活をしていない」という人は79.0%を占めており、「現在、婚活をしている」という人は、11.3%と少数派となっています。

○未婚者のうち、問11において「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚するつもりである」と回答した248人に対して婚活の状況について尋ねたところ、「特に婚活をしていない」が79.0%と最も多くなっており、「現在、婚活をしている」(11.3%)や「以前は婚活をしていたが、現在はしていない」(6.5%)という人は、少数派となっています。

【性別】

○性別で見ると、「現在、婚活をしている」とい人は、男性では、15.9%を占め、女性よりも9.9ポイント上回っているものの、少数派であることには変わらない状況です(図2-4-1)。

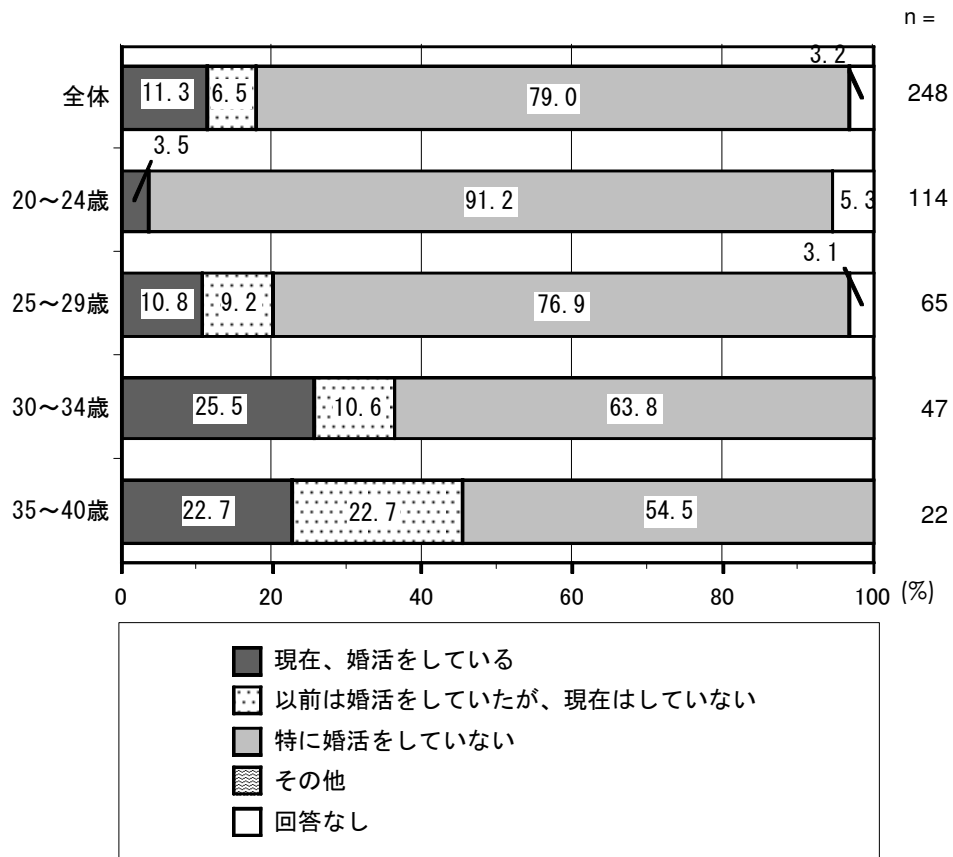
図2-4-1 性別「婚活の有無」



【年齢別】

○年齢別にみると、年齢が上昇するにしたがって「現在、婚活をしている」や「以前は婚活をしていたが、現在はしていない」の割合が多くなる傾向がみられます（図2-4-2）。

図2-4-2 年齢別「婚活の有無」



(5) 行政による結婚支援 (問 14)

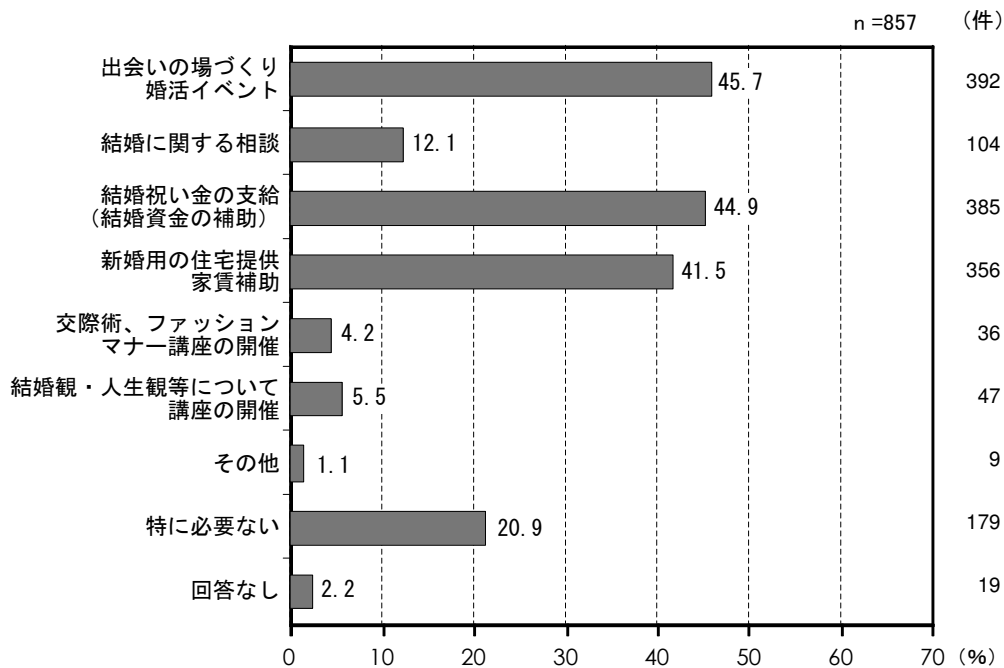
問 14 あなたは、行政による結婚支援として、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるもの3つまで選んで番号に○印をつけてください。

行政による婚活支援としては、「出会いの場づくり・婚活イベント」や「結婚祝い金の支給（結婚資金の補助）」、「新婚用の住宅提供、家賃補助」などが多くなっています。相談や講座の開催以上に、資金面での支援を望む人の方が多い結果です。

○全員に対して、行政による婚活支援方策について尋ねたところ、「特に必要ない」と回答した人が 20.9% みられるものの、これと「回答なし」(2.2%) を除いた残りの8割近くの人が、なんらかの婚活支援が必要と回答しています。

○具体的には、「出会いの場づくり・婚活イベント」(45.7%)、「結婚祝い金の支給（結婚資金の補助）」(44.9%) や「新婚用の住宅提供、家賃補助」(41.5%) などが多くなっています。(図 2-5-1)。

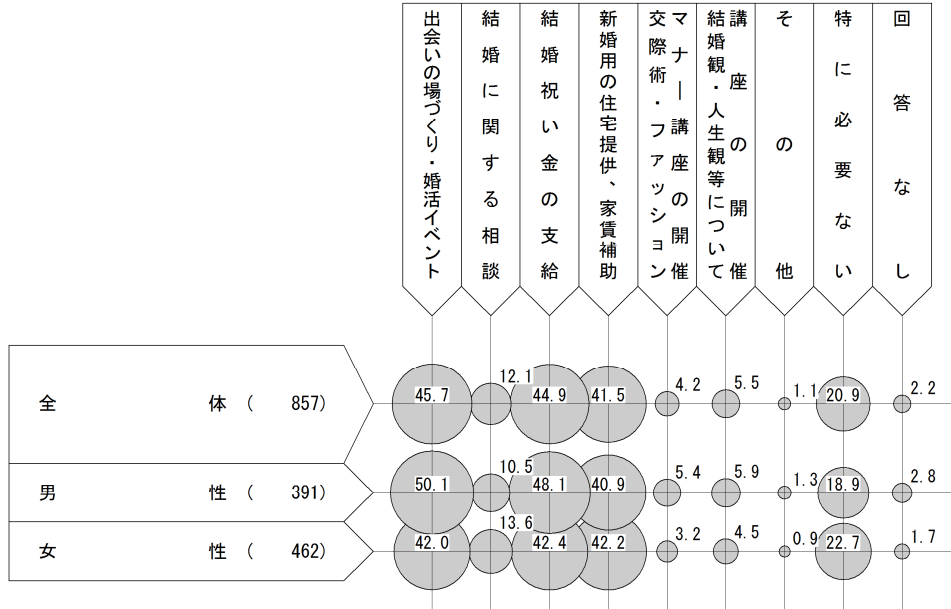
図 2-5-1 「行政による結婚支援」



【性別】

○性別にみると、「出会いの場づくり・婚活イベント」が女性よりも男性の方が若干多くなっている以外は、性別による有意な差はみられません（図2-5-2）。

図2-5-2 性別「行政による結婚支援」



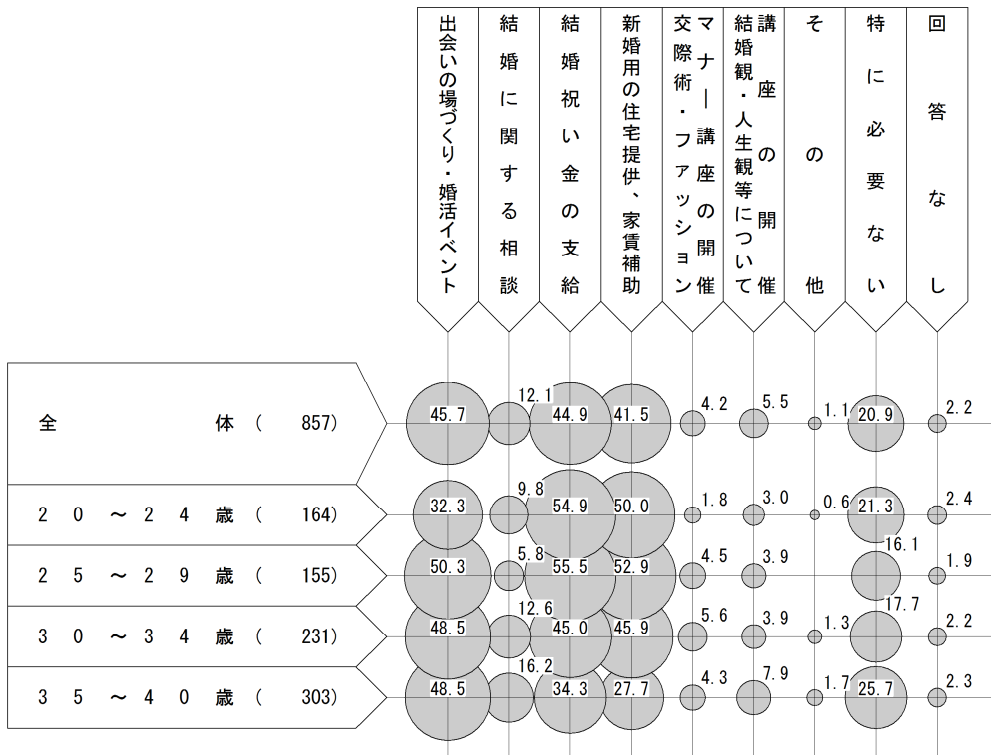
【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳では、「結婚祝い金の支給」(54.9%)が全体値に比べて多く、また、「新婚用の住宅提供、家賃補助」(50.0%)についても全体値に比べて若干多くなっている一方で、「出会いの場づくり・婚活イベント」(32.3%)が目立って少なくなっています。

○25～29歳では、「結婚祝い金の支給」(55.5%)に加えて、「新婚用の住宅提供、家賃補助」(52.9%)が全体値に比べて多くなっている一方で、「結婚に関する相談」(5.8%)が若干少なくなっています。

○35～40歳では、「新婚用の住宅提供、家賃補助」(27.7%)と「結婚祝い金の支給」(34.3%)といった資金面の支援に対するニーズが、全体値に比べ少なくなっていることが特徴としてみられます(図2-5-3)。

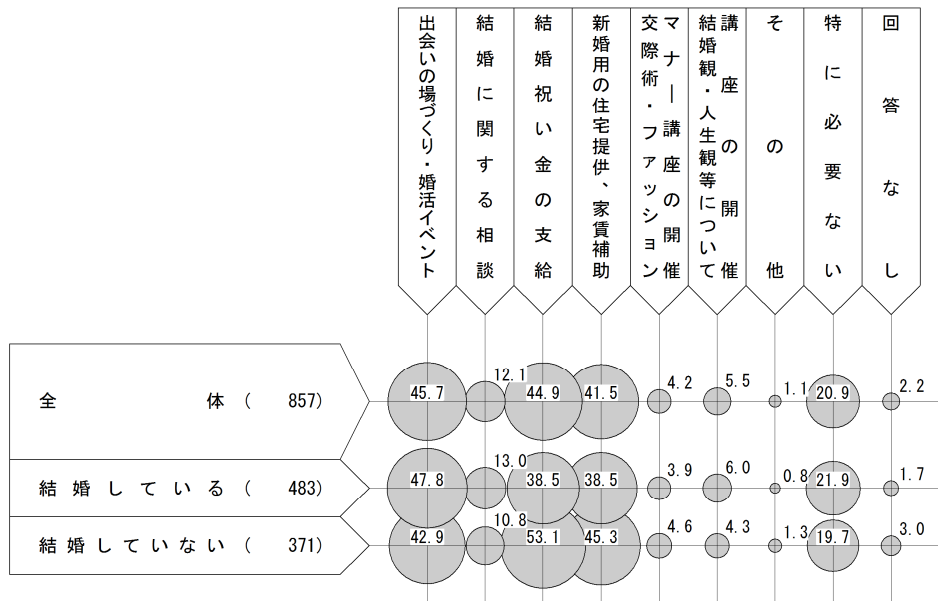
図2-5-3 年齢別「行政による結婚支援」



【既婚・未婚別】

○既婚・未婚別にみると、「結婚祝い金の支給」が既婚者(38.5%)で全体値に比べて少なく、未婚者(53.1%)で全体値に比べて若干おおおくなっているものの、既婚か未婚かによって、結婚支援ニーズに大きな差はみられません(図2-5-4)。

図2-5-4 既婚・未婚別「行政による結婚支援」



第3章 子ども・子育てについて

(1) 現在の子ども数 (問 15)

問 15 あなたには、現在、お子さんがいますか。お子さんがいる場合は、何人のお子さんがいますか。

「子どもはいない」という人も含めた場合の世帯当たりの子ども数は、0.89 人です。一方、「子どもはいない」という人を除いた場合の世帯当たりの子ども数は、1.81 人となっています。

○現在の子ども数についてみると、「子どもはいない」という人も含めた場合の世帯当たりの子ども数は、0.89 人です。一方、「子どもはいない」という人を除いた場合の世帯当たりの子ども数は、1.81 人となっています (図 3-1-1、図 3-1-2)。

図 3-1-1 性別「現在の子ども数 (「子どもはいない」含む : 平均値)」

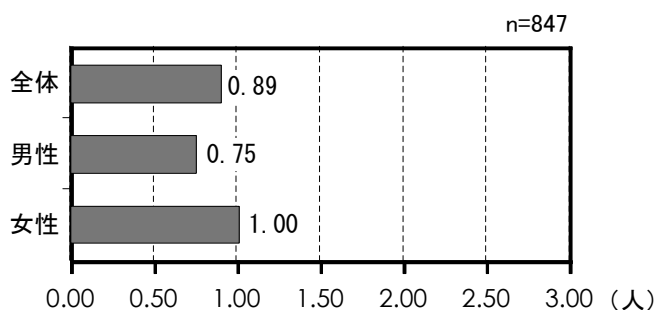
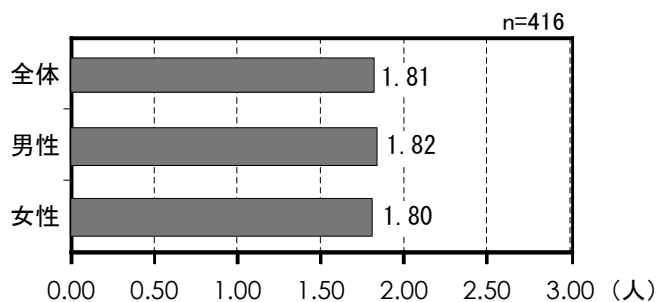


図 3-1-2 性別「現在の子ども数 (「子どもはいない」除く : 平均値)」



【年齢別】

○年齢別にみると、既婚率と正比例し、どちらの場合も年齢が上昇するにしたがって子ども数が増える傾向がみられます（図3-1-3、図3-1-4）。

図3-1-3 年齢別「現在の子ども数（「子どもはいない」含む：平均値）」

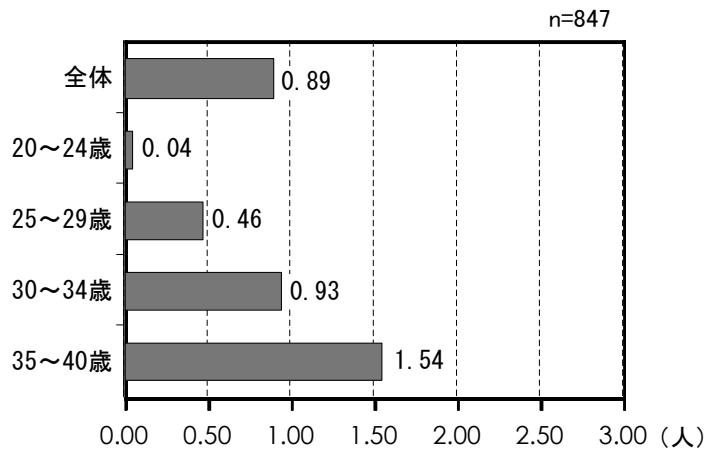
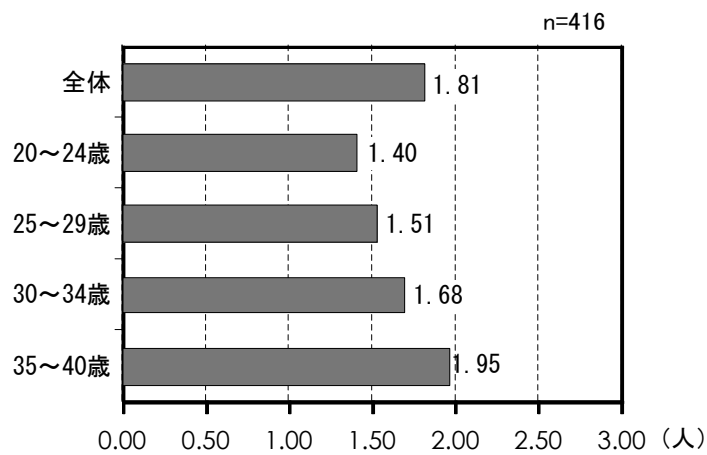


図3-1-4 年齢別「現在の子ども数（「子どもはいない」除く：平均値）」



(2) 理想的な子ども数 (問16)

問16 あなたが、将来的に何人ぐらい子どもが欲しいと考えていますか。既にお子さんがいるという方は、今いるお子さんの数と合わせて全員で何人のお子さんが欲しいですか。理想的な子ども数をご記入ください。

「子どもが欲しいとは考えていない」という人も含めた場合の世帯当たりの理想的な子ども数は、1.60人です。一方、「子どもが欲しいとは考えていない」という人を除いた場合の世帯当たりの理想的な子ども数は、2.39人となっています。

○理想の子ども数についてみると、「子どもが欲しいとは考えていない」という人も含めた場合の世帯当たりの理想的な子ども数は、1.60人です。一方、「子どもが欲しいとは考えていない」という人を除いた場合の世帯当たりの理想的な子ども数は、2.39人となっています。

【性別】

○「子どもが欲しいとは考えていない」という人を除いた場合は、女性の方が男性よりも理想的な子ども数が僅かに多くなっています (図3-2-1、図3-2-2)。

図3-2-1 性別「理想の子ども数 (子どもが欲しいとは考えていない) 含む : 平均値)」

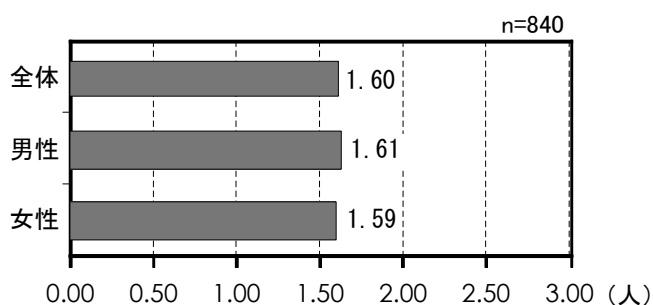
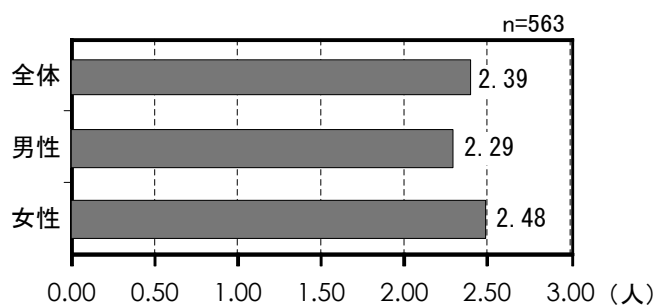


図3-2-2 性別「理想の子ども数 (子どもが欲しいとは考えていない) 除く : 平均値)」



【年齢別】

○年齢別にみると、「子どもが欲しいとは考えていない」という人を含めた場合は、25～29歳以降、年齢の上昇とともに理想の子ども数が減少する傾向がみられます。これは、年齢の上昇とともに結婚に対して「わからない」という人の割合が増加すること（図2-2-2）などが要因として考えられます（図3-2-3）。

○一方、「子どもが欲しいとは考えていない」という人を除いた場合は、年齢が上がるにつれて理想的な子ども数が増える傾向がみられます（図3-2-4）。

図3-2-3 年齢別「理想の子ども数（「子どもが欲しいとは考えていない」含む：平均値）」

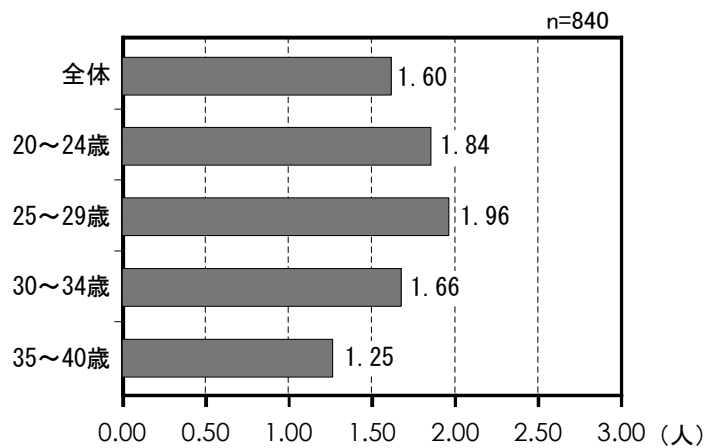
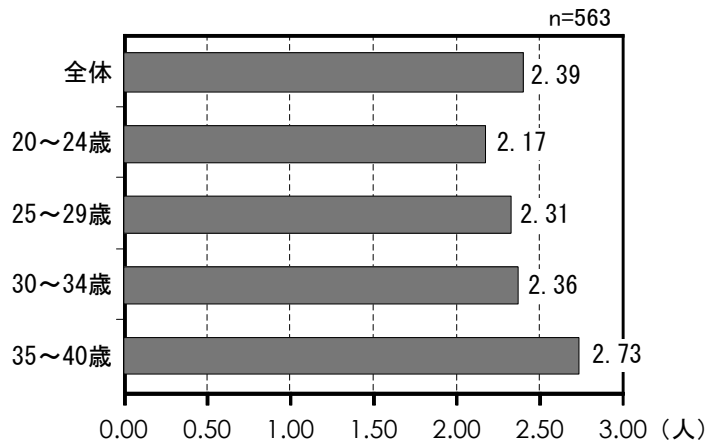


図3-2-4 年齢別「理想の子ども数（「子どもが欲しいとは考えていない」除く：平均値）」



■現在の子ども数と理想の子ども数との差（「子どもがいない」という人を除いた場合）

○世帯当たりの現状の子ども数（「子どもはいない」という人を除いた場合）と理想的の子ども数（「子どもはいない」という人を除いた場合）との差をみると、-0.71 人となっています。

○既に子どもがいるという若い世代の大人1人当たり平均 0.71 人の子どもをさらに産みたいという意向を示していることとなります（図 3-2-5）。

【性別】

○現状の子ども数と理想的な子ども数のギャップは男女でまったく同じ値になっています（図 3-2-5）。

【年齢別】

○年齢別にみると、20～29 歳においてギャップが一番大きくなっています。これから 2 子以降の子どもを産む年齢層にあるためであると考えられます。

○なお、20～24 歳については、該当者（現在子どもがおらず、かつ、将来的に子どもを欲しいとは思っていない人を除いた人）が 5 人と少ないため、他の年齢層とは一概に比較できません（図 3-2-6）。

図 3-2-5 性別「現状子ども数と理想の子ども数の差（「子どもはいない」という人を除いた場合）」

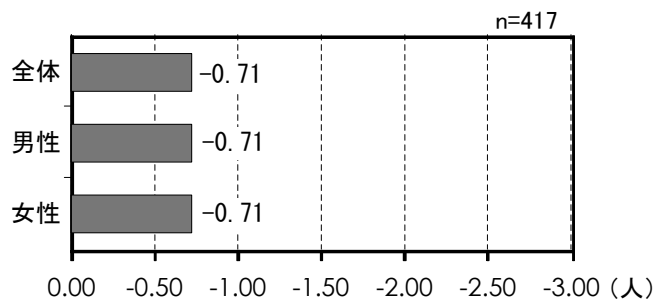
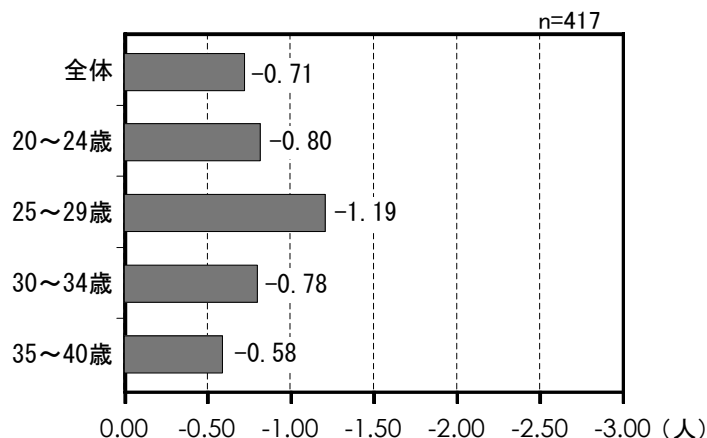


図 3-2-6 年齢別「現状子ども数と理想の子ども数の差（平均値）「子どもはいない」という人を除いた場合」



■現在の子ども数と理想の子ども数との差（「子どもがいない」という人を含めた場合）

○世帯当たりの現状の子ども数（「子どもはいない」という人を含めた場合）と理想的の子ども数（「子どもはいない」という人を含めた場合）との差をみると、-1.34 人となっています。

○「子どもがいない」という人を含めると、若い世代の大人1人当たり 1.34 人の子どもをさらに産みたいという意向を示していることとなります（図 3-2-7）。

【性別】

○現状の子ども数と理想的な子ども数のギャップは男性の方が若干大きくなっています（図3-2-7）。

【年齢別】

○年齢別にみると、年齢層が上昇するにしたがってギャップが小さくなる傾向が顕著にみられます。これは、年齢層が高いほど既に子どもがいる人の割合が多いことによるものです（図3-2-8）。

図3-2-7 性別「現状子ども数と理想の子ども数の差（「子どもはいない」という人を含めた場合）」

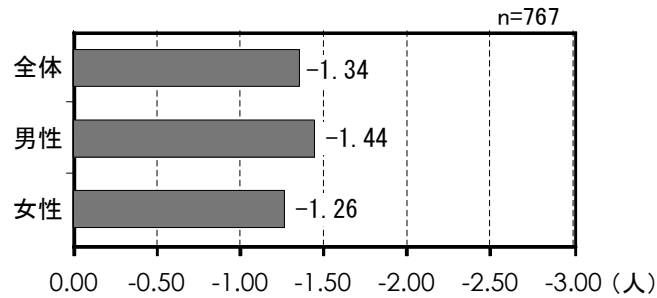
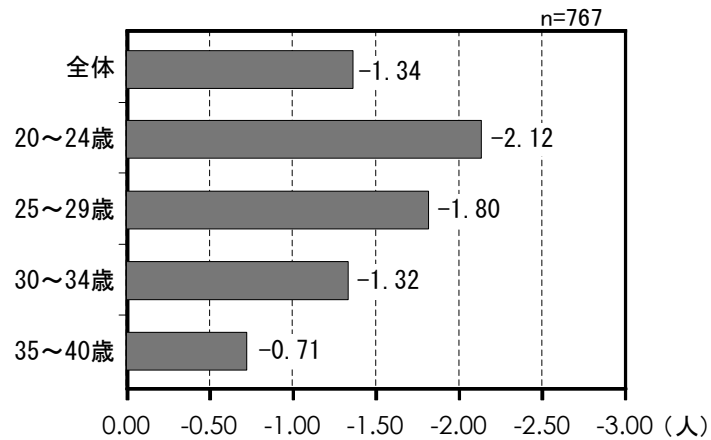


図3-2-8 年齢別「現状子ども数と理想の子ども数の差（「子どもはいない」という人を含めた場合）」



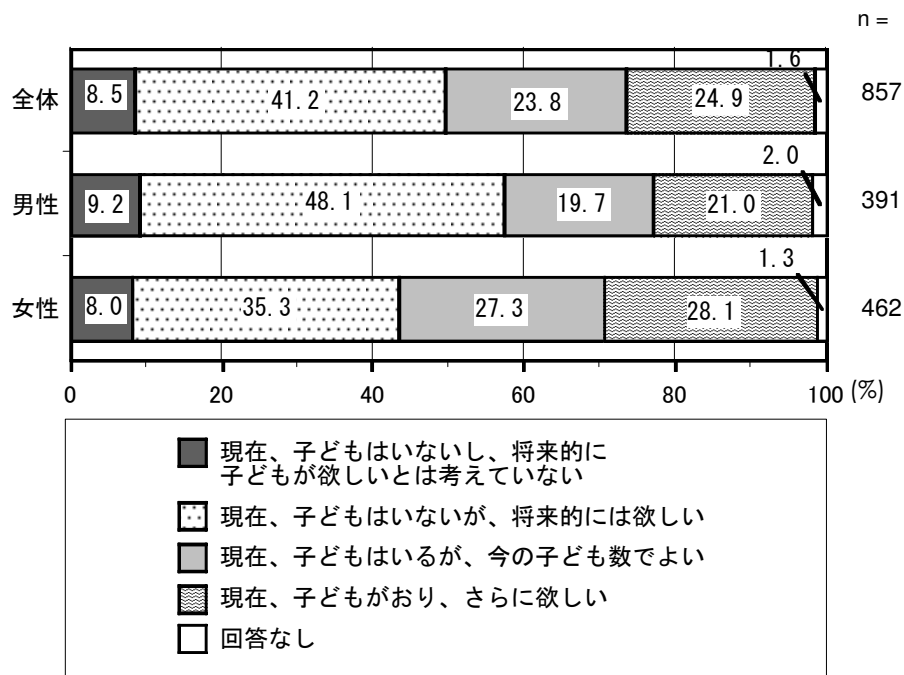
■現在の子どもの有無と子どものニーズ

○子どもの有無については、子どもがいないという人は、49.7% (8.5%+41.2%) を占めています。その内訳は、「子どもはいないし、将来的に子どもが欲しいとは考えていない」が8.5%、「現在、子どもは子どもはいるが、将来的に欲しい」が41.2%と、子どもがいない人の8割以上が子どもを欲しいと回答しています。

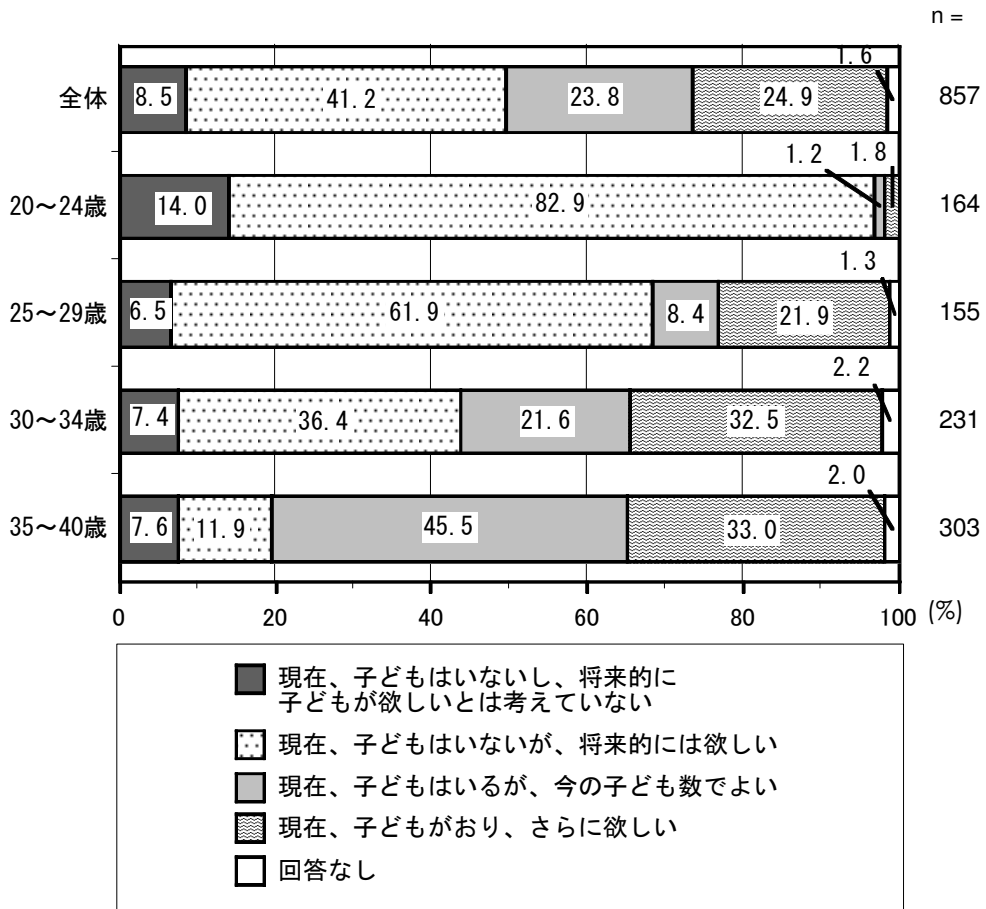
○また、現在、子どもがいるという人は、48.7% (23.8%+24.9%) で、その内訳は、「現在、子どもがおりさらに欲しい」が24.9%、「現在子どもはいるが、今の子ども数でよい」が23.8%で、子どものいる人では半数以上がさらに欲しいと回答しています。

○なお、性別による差は、既婚率 (図2-1-1) の差が要因になっていると推察されます (図3-2-7)。

図3-2-7 性別「理想的な子ども数」



【参考】図 3-2-8 年齢別「理想的な子ども数」



(3) 現在の子ども数の方が少ない理由 (問17)

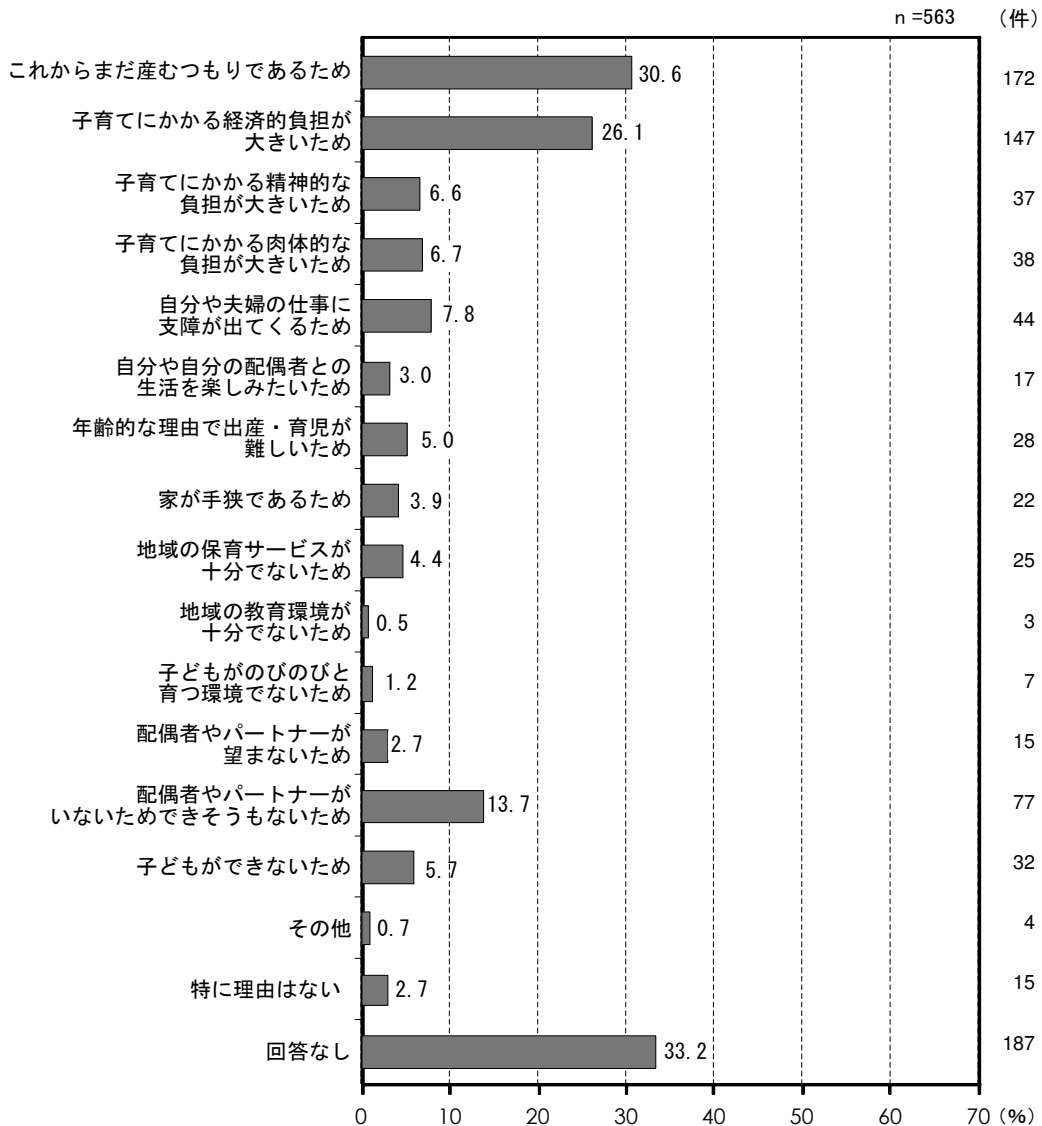
問17 理想とする子ども数よりも、現在の子ども数が少ないのは、どのような理由からですか。主な理由を3つまで選んで番号に○印をつけてください。

現在の子ども数の方が少ない理由については、「これからまだ産むつもりであるため」が最も多く、次いで、「子育てにかかる経済的負担が大きいため」が多くなっています。

○現在子どもがいないという人も含めて、理想の子ども数よりも現在の子ども数の方が少ない563人に対して、現在の子ども数の方が少ない理由について尋ねたところ、「これからまだ産むつもりであるため」が30.6%と最も多く、次いで、「子育てにかかる経済的負担が大きいため」(26.1%)が多くなっており、この2つが理想の子ども数よりも現在の子ども数の方が少ない主な理由になっています。この2つの理由に次いで、「配偶者やパートナーがいないため、できそうもないため」が13.7%となっています。

○このように、現実の子ども数を理想の子ども数に近づける、すなわち、子どもを産みたいと思える人が子どもを産み育てるようにするためには、「子育てにかかる経済的負担が大きいため」が必要であることを示唆する結果になっています。しかし、一つの自治体として直接的に経済的な支援をしていくことは難しい面もあることから、子育ての精神的・肉体的な負担軽減を図るなど、子育て支援を総合的に展開していくことで対応していくことが求められると考えられます(図3-3-1)。

図3-3-1 「現在の子ども数が少ない理由」

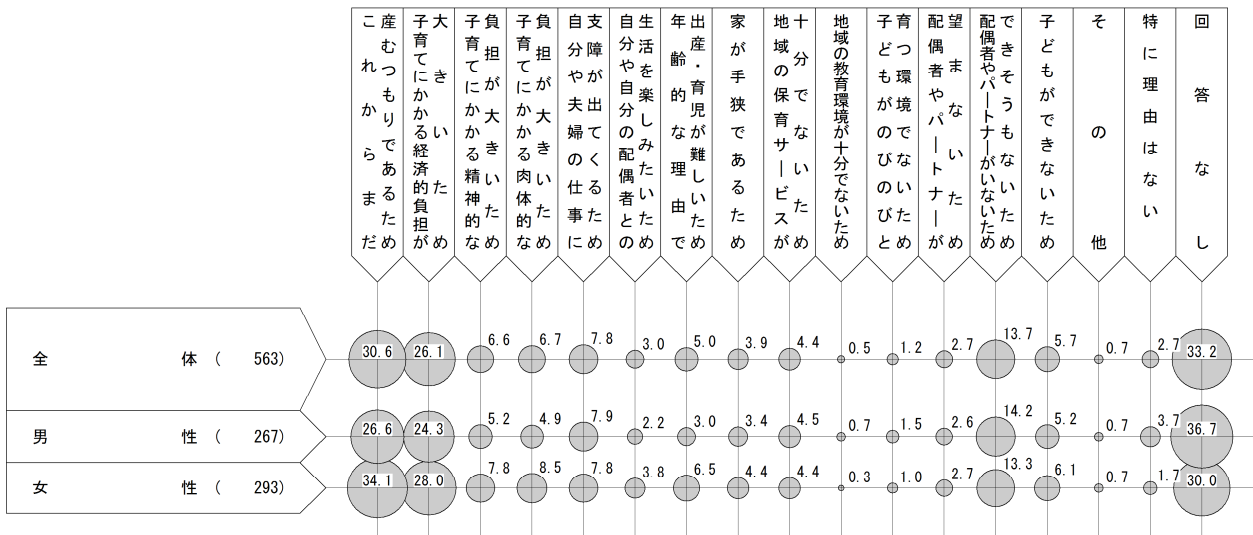


○なお、「回答なし」は33.2%と少なくありませんが、その内訳をみると187人中、156人が未婚者（離婚・死別等含む）であり、配偶者やパートナーがおらず、現在は子どもを産むような家族状況でないために回答できなかったという人が多分に含まれているものと考えられます（図3-3-1、図3-3-5）。

【性別】

○性別による有意な差はみられません（図3-3-2）。

図3-3-2 性別「現在の子ども数が少ない理由」



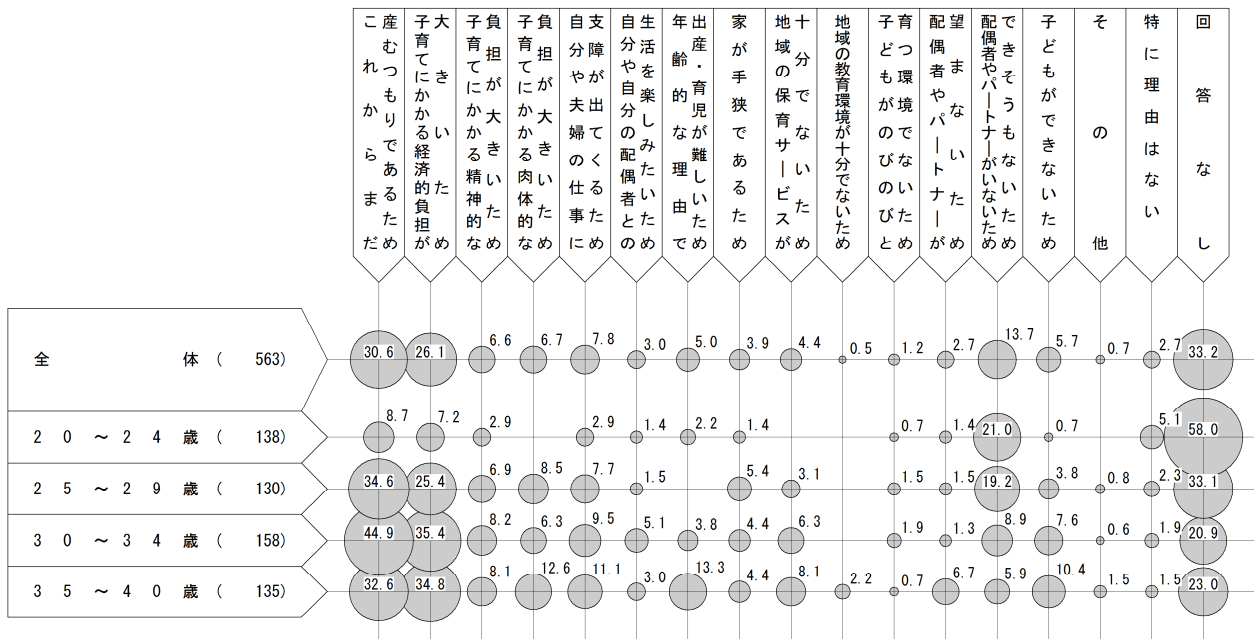
【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳や25～29歳では、「配偶者やパートナーがいないため、できそうにないため」がそれぞれ、21.0%、19.2%と全体値に比べて若干多くなっています。

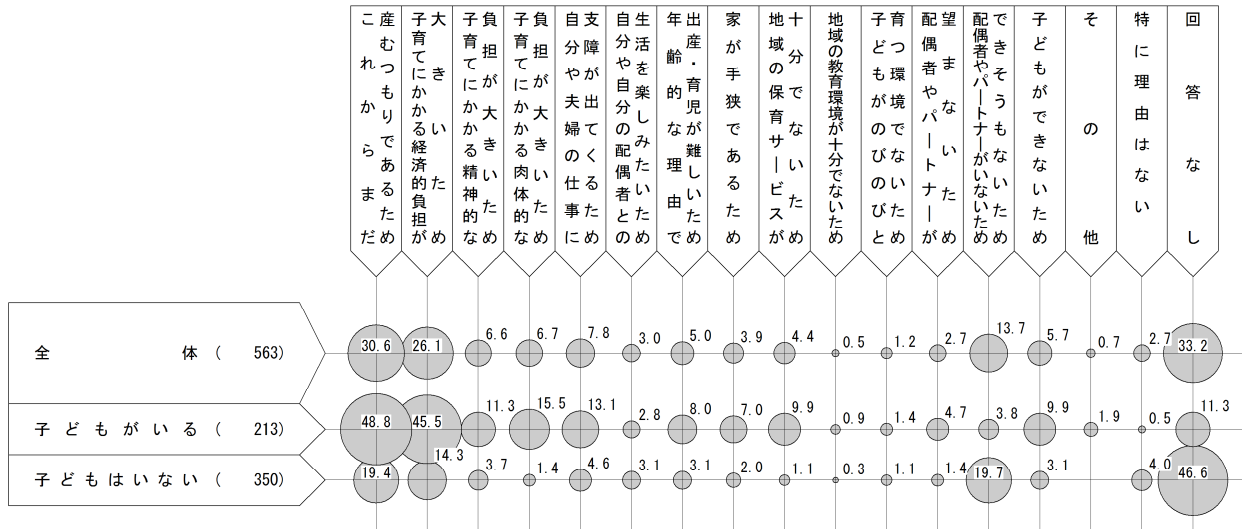
○30～34歳では、これに加えて、「これからまだ産むつもりであるため」(44.9%)が全体値に比べて多くなっています。20～24歳では「これからまだ産むつもりであるため」が8.7%と極めて少なくなっていますが、これは、まだ結婚しておらず、子どもがいない人が多く含まれていることによるものと考えられます。(図3-3-3、図3-3-4)

○30～34歳や35～40歳では、「子育てにかかる経済的負担が大きいため」が全体値に比べて若干多くなっています。加えて、35～40歳では、「子育てにかかる肉体的負担が大きいため」(12.6%)と「年齢的な理由で出産・育児が難しいため」(13.3%)が全体値に比べて若干多くなっています(図3-3-3)。

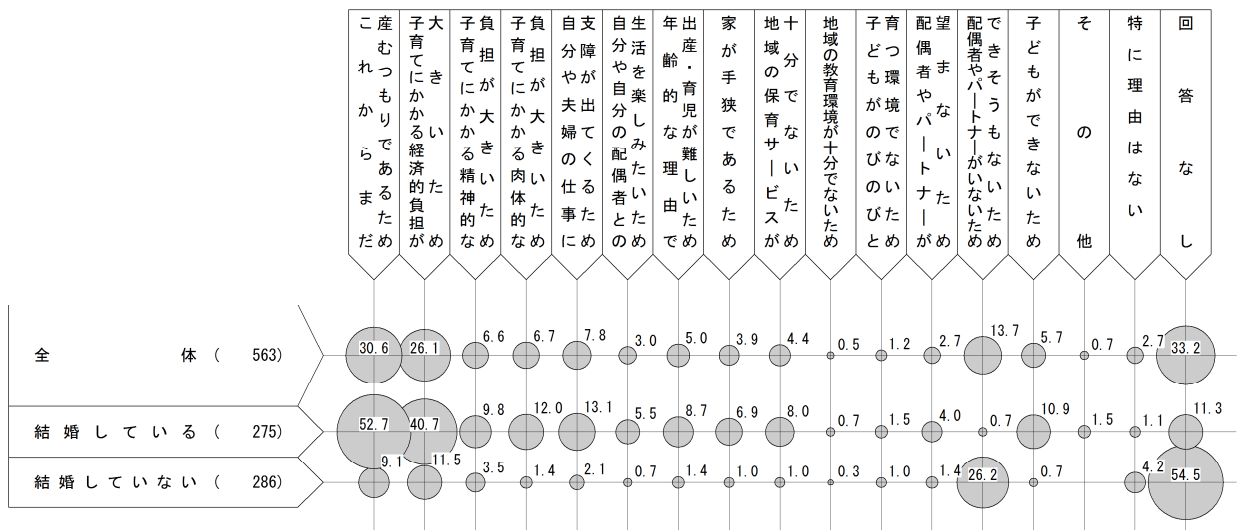
図3-3-3 年齢別「現在の子ども数が少ない理由」



【参考】図3-3-4 子どもの有無別「現在の子ども数が少ない理由」



【参考】図3-3-5 結婚の有無別「現在の子ども数が少ない理由」



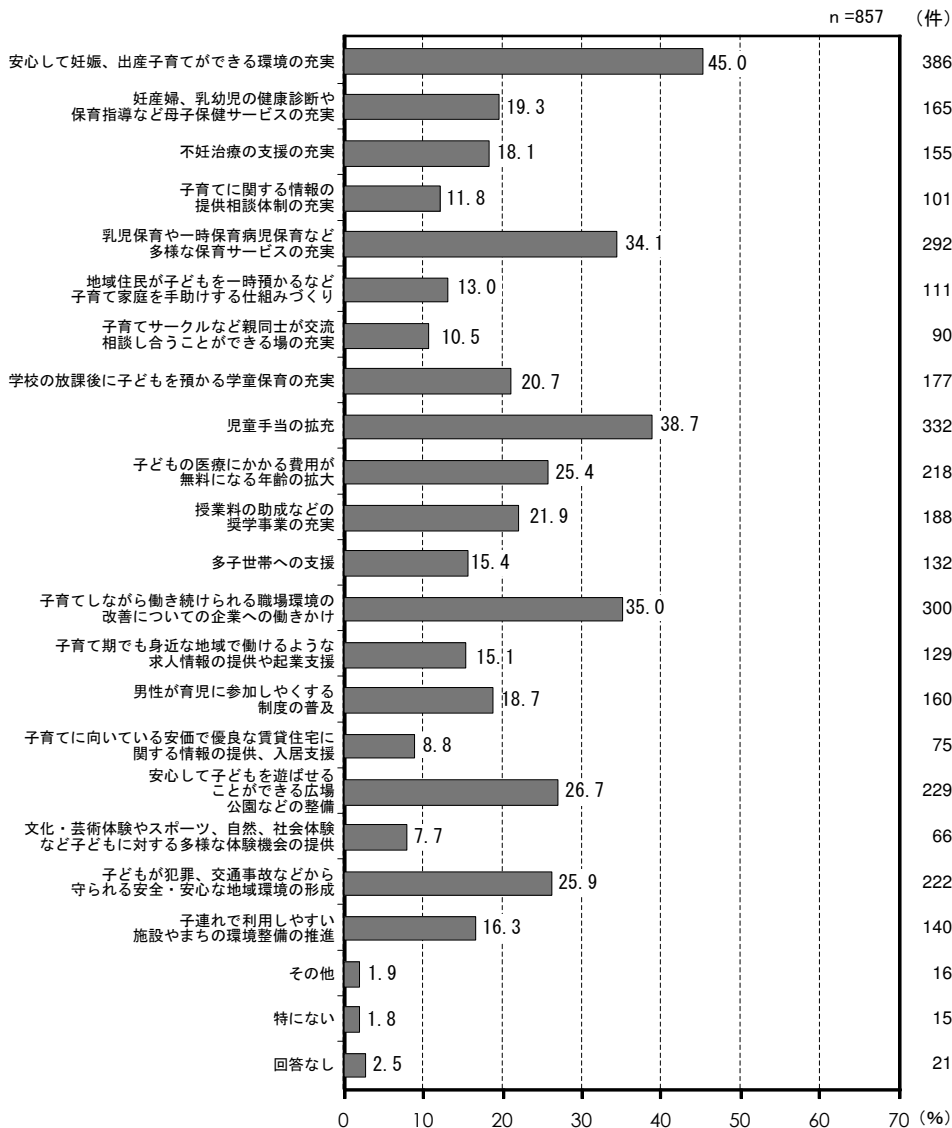
(4) 子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項 (問18)

問18 あなたは、子どもを産み育てやすい環境を整えるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるもの5つまで選んで番号に○印をつけてください。

「安心して妊娠、出産、子育てができる環境の充実」が最も多く、次いで、「児童手当の拡充」や「子育てしながら働き続けられる職場環境の改善についての企業への働きかけ」が多くなっています。

○子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項については、「安心して妊娠、出産、子育てができる環境の充実」が45.0%と最も多く、次いで、「児童手当の拡充」(38.7%)、「子育てしながら働き続けられる職場環境の改善についての企業への働きかけ」(35.0%)、「乳児保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実」(34.1%)が多くなっています。以下、「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」(26.7%)、「子どもが犯罪、交通事故などから守られる安全・安心な地域環境の形成」(25.9%)、「子どもの医療にかかる費用が無料になる年齢の拡大」(25.4%)の順で多くなっています(図3-4-1)。

図3-4-1 「子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項」



【性別】

○性別による大きな差はみられません（図3-4-2）。

【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳では、「安心して妊娠、出産、子育てができる環境の充実」（61.0%）が全体値に比べて多くなっています。この項目については、年齢層が上るにしたがって少なくなる傾向がみられ、35～40歳では、34.7%になります。

○また、20～24歳では、「授業料の助成などの奨学事業の充実」（28.7%）や「妊産婦、乳幼児の健康診断や保育指導など母子保健サービスの充実」（25.6%）も若干多くなっています。

○25～29歳では、「乳児保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実」（40.6%）が全体値に比べて若干多くなっています。

○35～40歳では、「不妊治療の支援の充実」（24.4%）が全体に比べ若干多くなっています。また、「児童手当の拡充」についても44.9%と全体値に比べて若干多くなっています（図3-4-3）。

○「不妊治療の支援の充実」や「多子世帯への支援」、「子育て期でも身近な地域で働けるような求人情報の提供や起業支援」、「安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備」については、年齢層が上がるにしたがって回答割合が多くなる傾向がみられます。

○逆に、前述の「安心して妊娠、出産、子育てができる環境の充実」に加えて、「子育てしながら働ける職場環境改善についての起業への働きかけ」については、年齢層が上るにしたがって少なくなる傾向がみられます（図3-4-3）。

図3-4-2 性別「子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項」

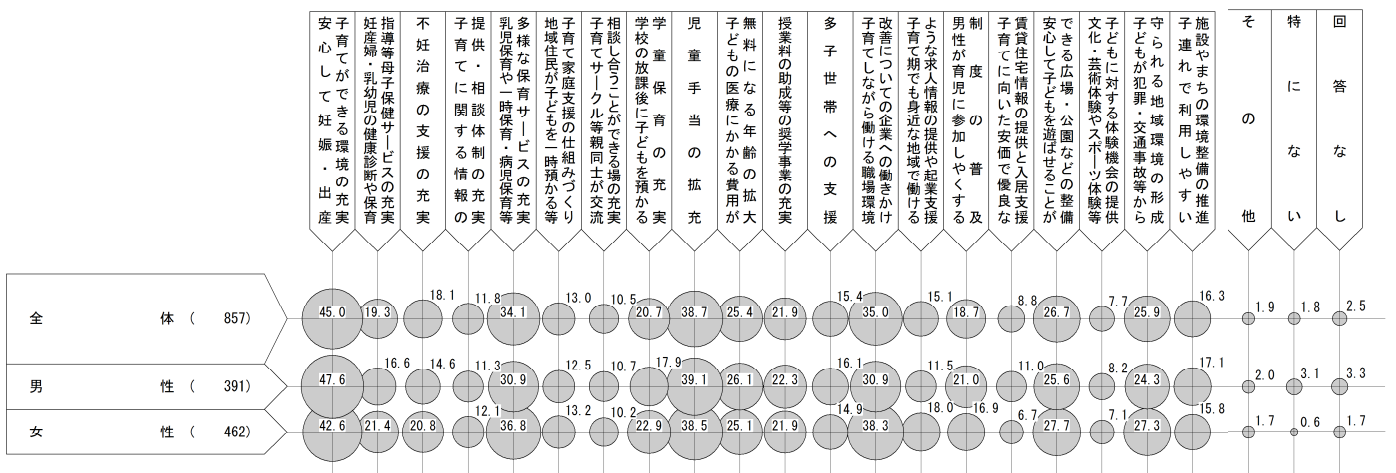
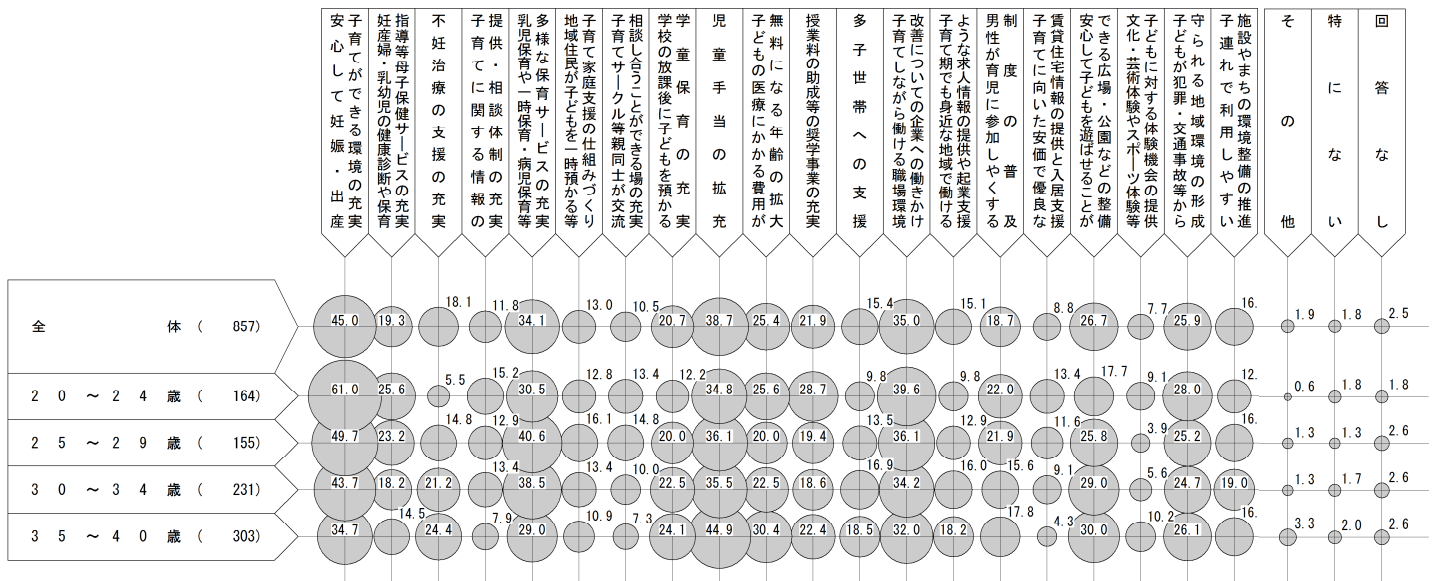


図3-4-3 年齢別「子どもを産み育てやすい環境を整えるために力を入れるべき事項」



(5) 子育てしやすいまちとしての評価 (問 19)

問 19 総合的にみて大口町は、子育てしやすいまちだと思いますか。

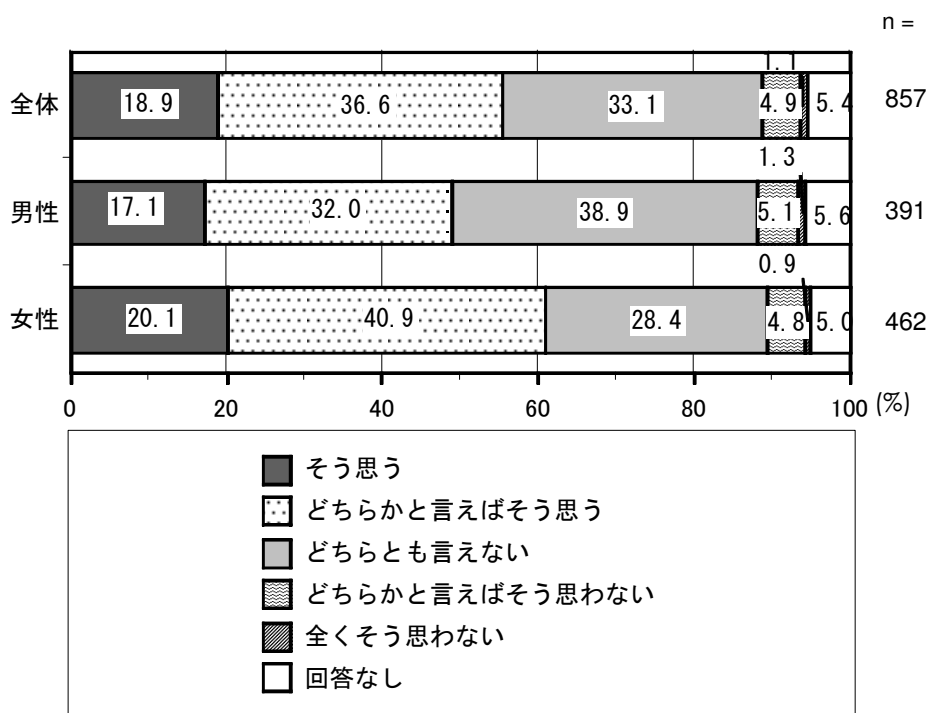
子育てしやすいまちであると評価している人は過半数をしめており、そう思わない人を 49.5 ポイントも上回っており、総じて大口町は、子育てしやすいまちとして認識されています。特に男性よりも女性の評価が高くなっています。

○総合的にみて大口町は、子育てしやすいまちかどうか尋ねたところ、「そう思う」が 18.9%、「どちらかと言えばそう思う」が 36.6%で合わせて 55.5%を占めています。これに対して、「全くそう思わない」が 1.1%、「どちらかと言えばそう思わない」が 4.9%で合わせて 6.0%となっており、子育てしやすいまちであると評価している人が、そう思わない人を 49.5 ポイントも上回っています。(図 3-5-1)。

【性別】

○性別でみると、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、男性が 49.1%に対して、女性が 61.0%となっており、男性よりも女性の方が子育てしやすいまちであると評価しています(図 3-5-1)。

図 3-5-1 性別「大口町における子育て環境の評価」



【同居の家族別（子供の有無別、年齢別）】

○同居家族別にみると、同居している家族の中に0歳児から大学生・大学院生等までの子どもがいる人の方が、そうでない人（前記のような同居人はいない）よりも、子育てしやすいまちであると評価している人が多くなっています（図3-5-2）。

○また、子どもがいる人の中でも、中学生や小学生の子どもがいる人やそのような子どものいる年齢層である35～40歳の年齢層における評価が高くなっています（（図3-5-3、図3-5-4）。

○この結果は、逆に言えば、世帯に子どもがいない人（若い年齢層の人や結婚していない人）に対して、子育てするまちとしての大口町の良さをより一層知ってもらう必要があることを示唆する結果であると捉えることもできます。

図3-5-2 同居家族別「大口町における子育て環境の評価」

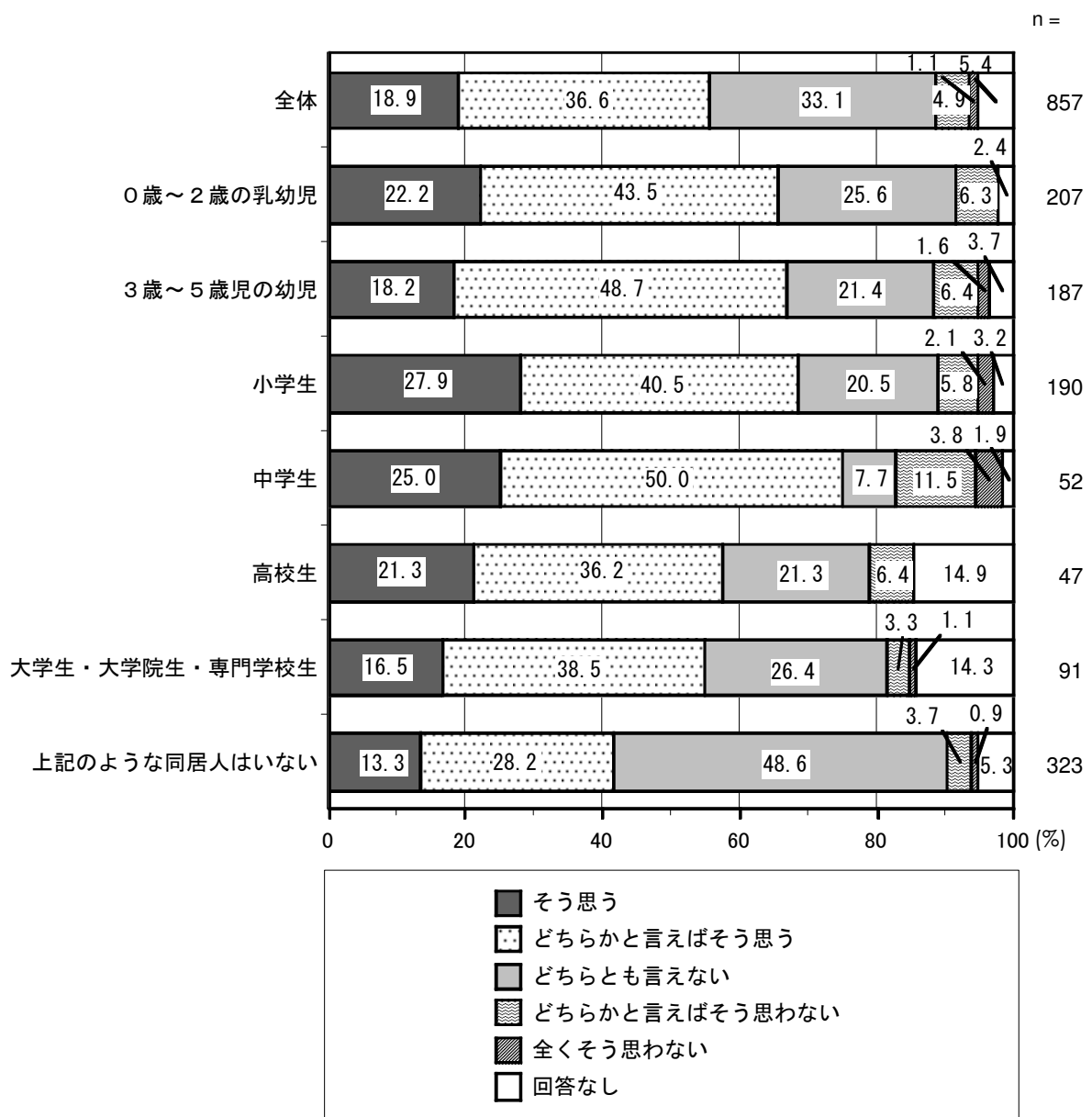


図3-5-3 子どもの有無別「大口町における子育て環境の評価」

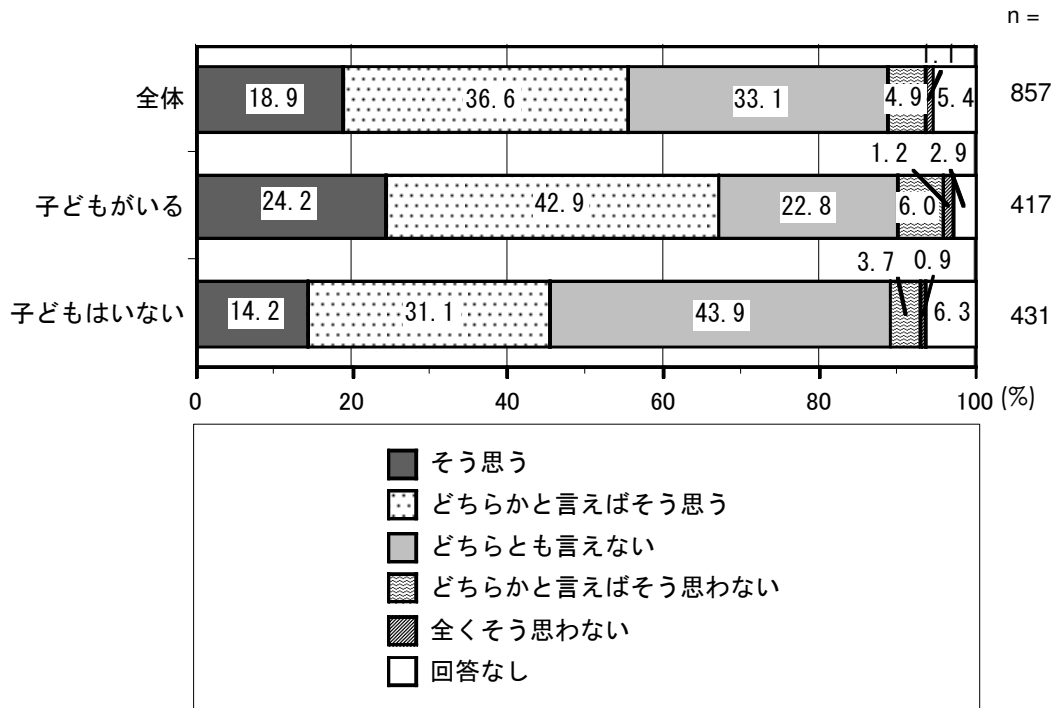
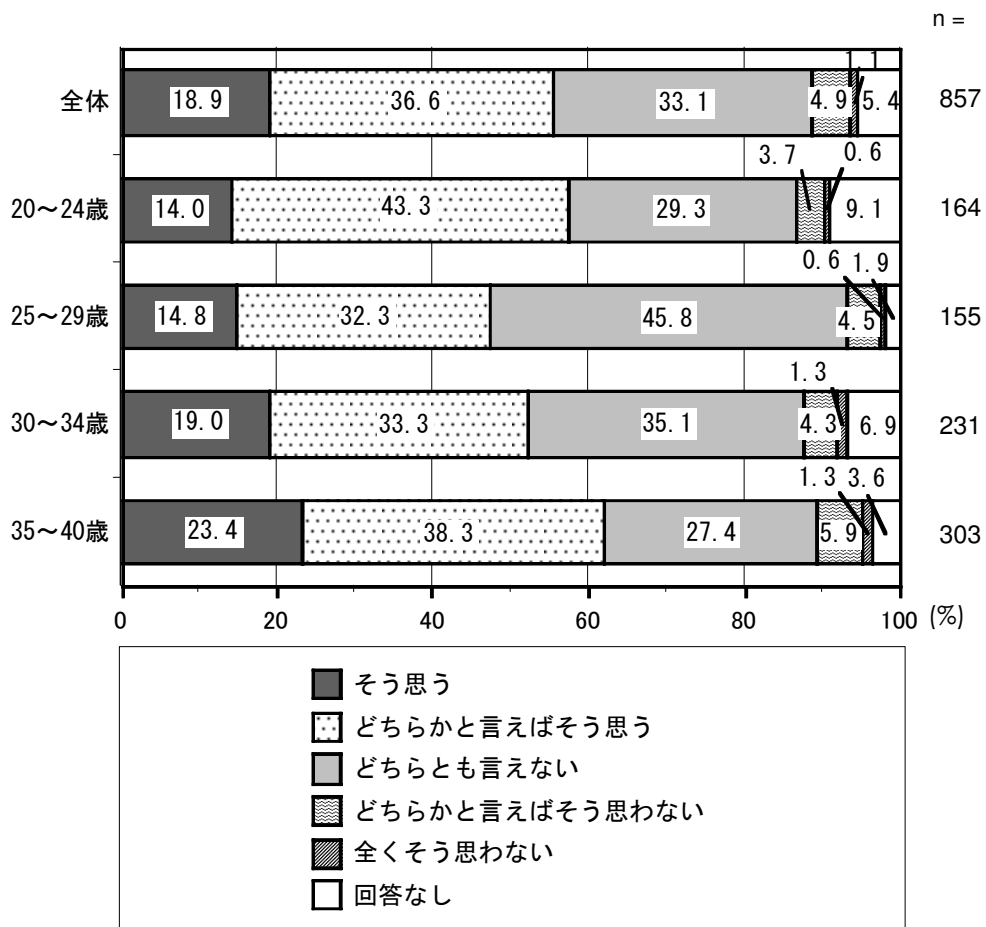
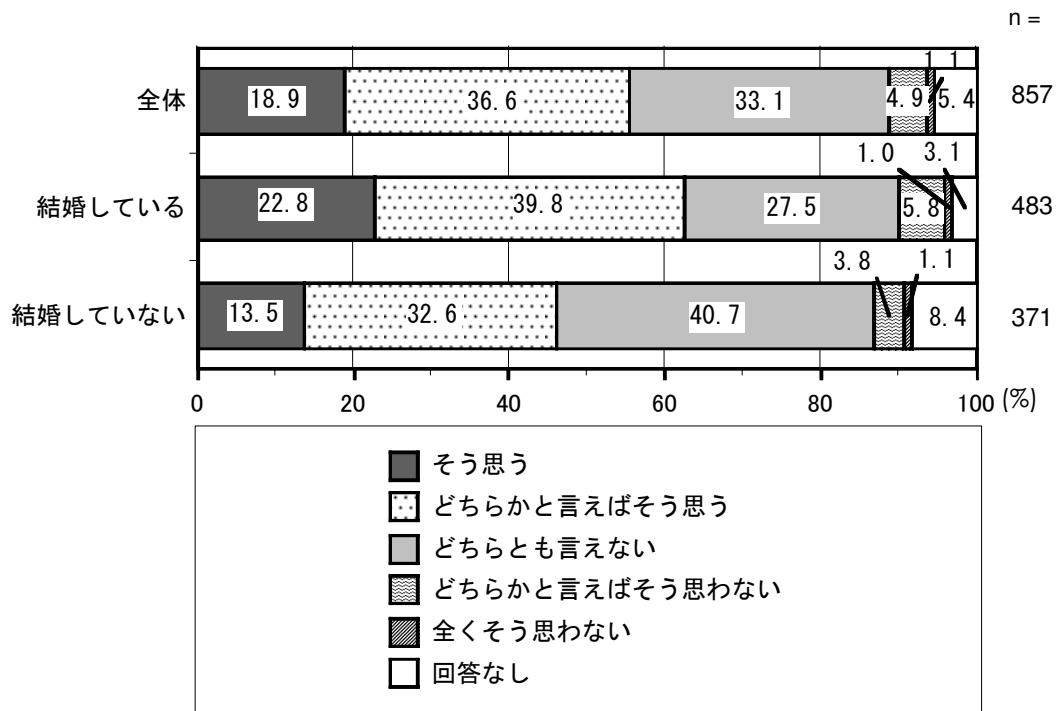


図3-5-4 年齢別「大口町における子育て環境の評価」



【参考】 図 3-5-5 結婚の有無別「大口町における子育て環境の評価」



(6) 子育てする上での負担や悩み (問 20)

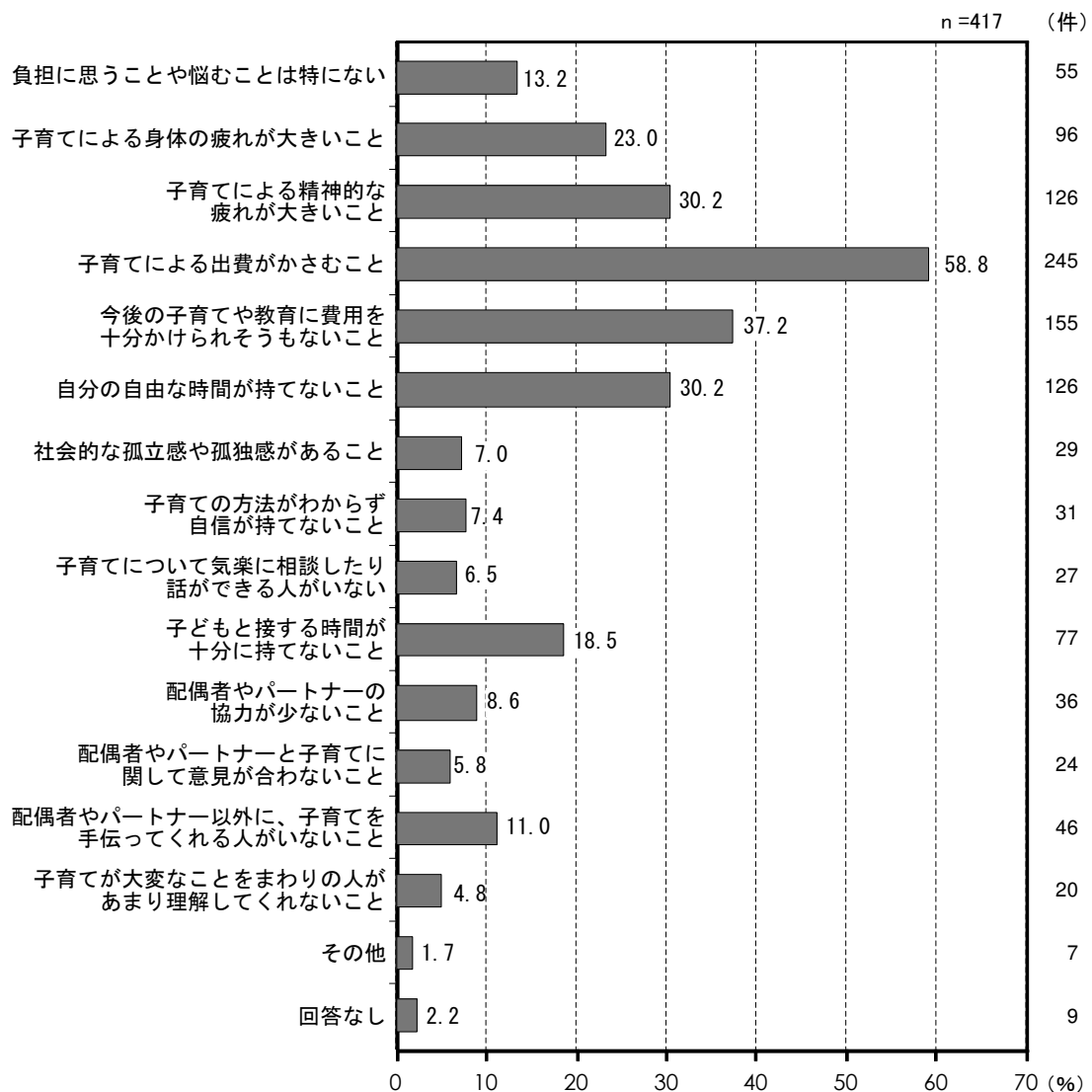
問 20 子育てする上で、現在、特に負担に思っていることや悩んでいることはどのようなことですか。
あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

「子育てによる出費がかさむこと」が最も多く、「今後の子育てや教育に費用を十分かけられそうもないこと」や「自分の自由な時間が持てないこと」、「子育てによる精神的な疲れが大きいこと」が続いています。経済面に関すること、時間的負担や精神・肉体的な負担に関することが主な負担や悩みになっています。

○問 15 で「子どもがいる」と回答した 417 人に対して、子育てする上での負担や悩みについて尋ねたところ、「子育てによる出費がかさむこと」が 58.8%と最も多くなっています。次いで、「今後の子育てや教育に費用を十分かけられそうもないこと」(37.2%)、「自分の自由な時間が持てないこと」(30.2%)、「子育てによる精神的な疲れが大きいこと」(30.2%)、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」(23.0%)が多くなっています。

○このように、経済面に関すること、時間的負担や精神・肉体的な負担に関することが主な負担や悩みになっています (図 3-6-1)。

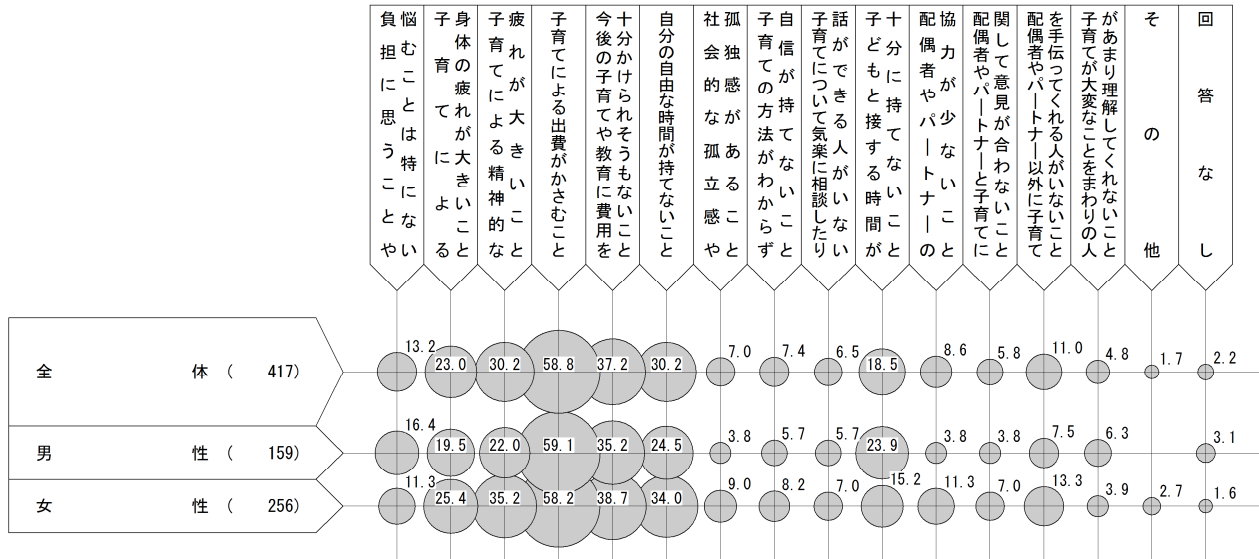
図 3-6-1 「子育てする上での負担や悩み」



【性別】

○性別でみると、男性では、「子どもと接する時間が十分に持てないこと」が全体値に比べて若干多く、女性では、「子育てによる精神的な疲れが大きいこと」ことが若干多くなっています（図3-6-2）。

図3-6-2 性別「子育てする上での負担や悩み」

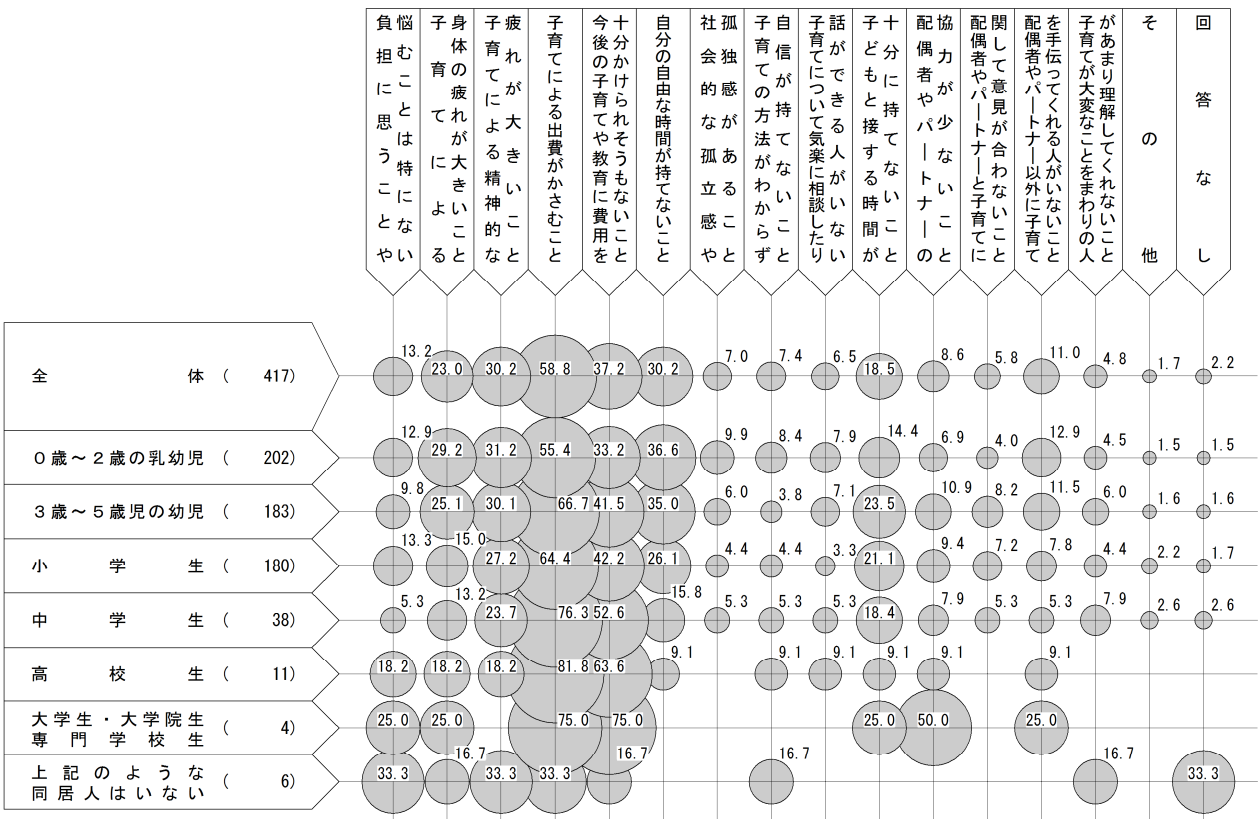


【同居の家族別】

○同居家族別にみると、「今後の子育てや教育に費用を十分かけられそうもないこと」や「子育てによる出費がかさむこと」といった経済面の負担や悩みについての回答割合は、特に、中学生や高校生、大学生等を同居家族に持つ世帯において目立って多くなっています。

○「0歳～2歳の乳幼児」がいる世帯では、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」や「自分の自由な時間が持てないこと」が全体値に比べて若干多くなっています。なお、「自分の自由な時間が持てないこと」については、こどもの年齢が上がるにしたがって割合が順次少なくなる傾向がみられます（図3-6-3）。

図3-6-3 同居家族別「子育てする上での負担や悩み」



(7) 将来の子どもの居住地 (問 21)

問 21 あなたは、将来、あなたの子どもにはどこに住んでももらいたいとお考えですか。

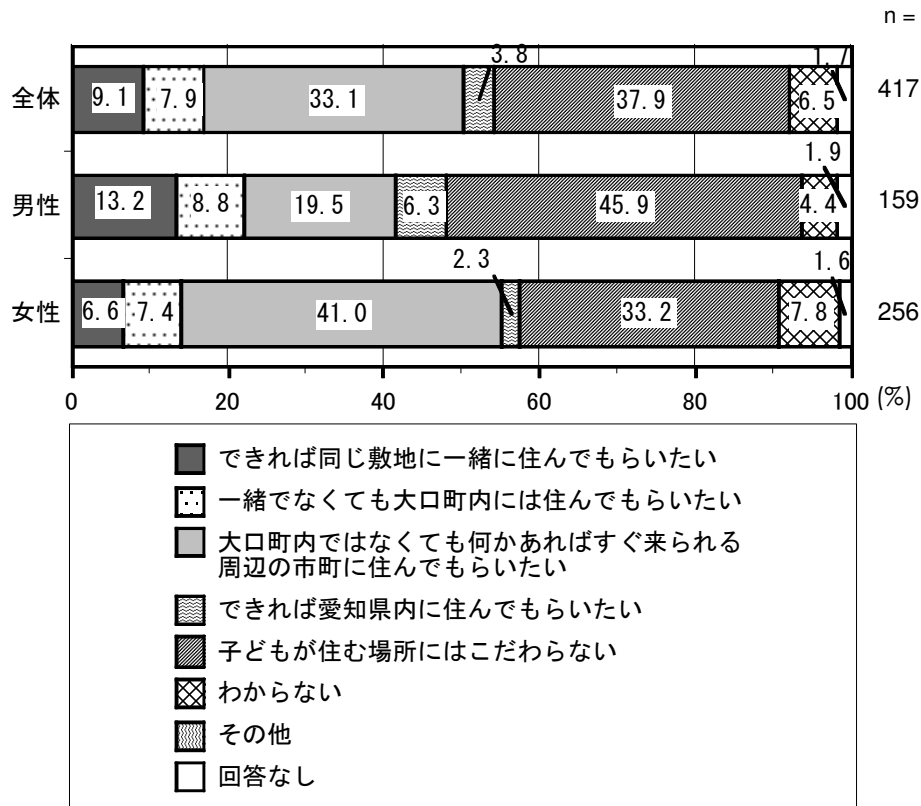
将来の子どもの居住地として希望する場所は、「子どもが住む場所にはこだわらない」が最も多くなっていますが、「町内ではなくても何かあればすぐ来られる周辺の市町に住んでももらいたい」をはじめ、50.1%の人が比較的身近なところに住んでももらいたいという意向を示しています。

○問 15 で「子どもがいる」と回答した 417 人に対して、将来、子どもにはどこに住んでももらいたいかを尋ねたところ、「子どもが住む場所にはこだわらない」が 37.9%で最も多くなっています。また、「町内ではなくても何かあればすぐ来られる周辺の市町に住んでももらいたい」が 33.1%となっており、「できれば同じ敷地に一緒に住んでももらいたい」(9.1%) や「一緒になくても町内には住んでももらいたい」(7.9%) などと合わせると、比較的身近なところに住んでももらいたいとする回答は 50.1%になり、子どもがいる半数の人が、子どもには比較的身近なところに住んでももらいたいという意向を示しています。

【性別】

○性別でみると、「町内ではなくても何かあればすぐ来られる周辺の市町に住んでももらいたい」については女性 (41.0%) の方が男性 (19.5%) を 21.5 ポイント上回っています。その分、女性では、「子どもが住む場所にはこだわらない」の回答が 33.2%と男性 (45.9%) よりも 12.7 ポイント下回っています (図 3-7)。

図 3-7 性別「将来の子どもの居住地」



第4章 仕事について

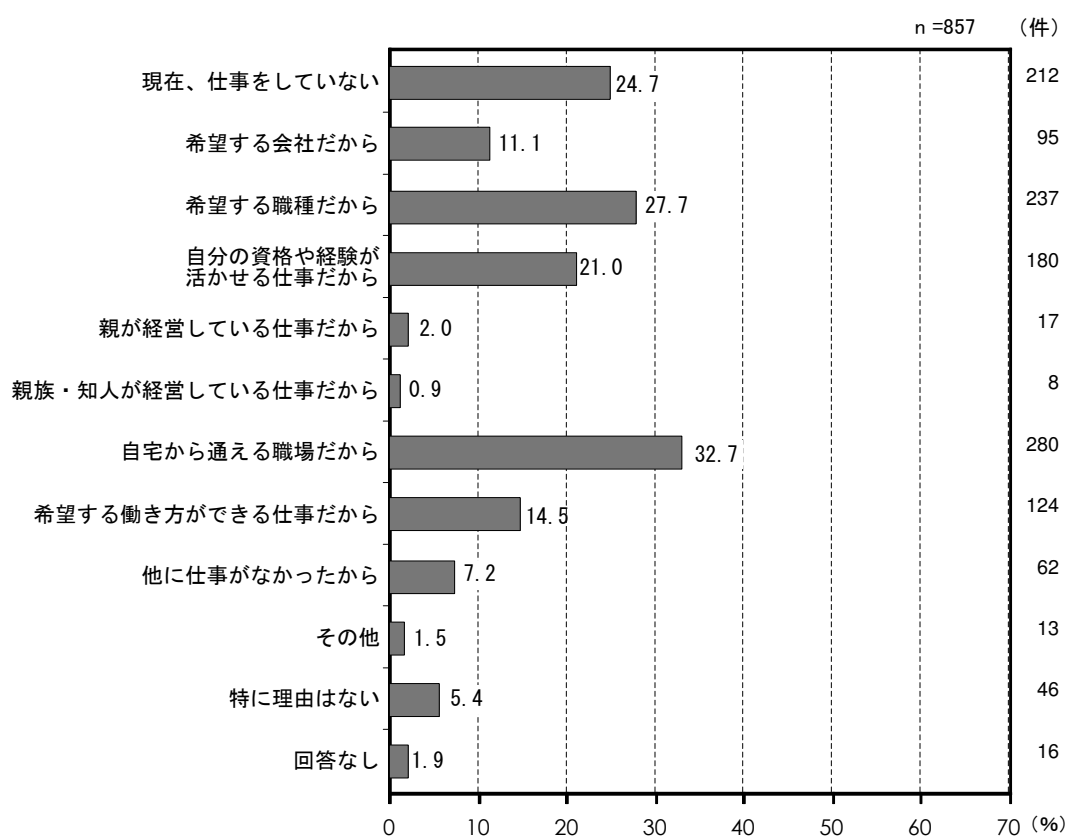
(1) 現在の仕事を選択した理由 (問22)

問22 現在従事している仕事を選択した主な理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

現在の仕事を選択した理由については、「自宅から通える職場だから」が最も多く、次いで、「希望する職種だから」や「自分の資格や経験が活かせる仕事だから」が多くなっています。

○現在の仕事を選択した理由については、「自宅から通える職場だから」が32.7%と最も多く、次いで、「希望する職種だから」(27.7%)や「自分の資格や経験が活かせる仕事だから」(21.0%)が多くなっています(図4-1-1)。

図4-1-1 「現在の仕事を選択した理由」



【性別】

○性別でみると、「希望する会社だから」や「希望する職種だから」については男性の方が、逆に、「希望する働き方ができる仕事だから」については女性の方が、若干多くなっていることが特徴としてみられます。
(図4-1-2)。

【年齢別】

○年齢別にみると、20～24歳では、「現在、仕事をしていない」が45.7%と多いこともあり、「希望する職種だから」を除いて、全般的に全体値に比べて回答割合が少なくなっています。25～29歳では、「希望する職種だから」(38.1%)が全体値に比べて多く、「自宅から通える職場だから」(25.8%)が若干少なくなっています。一方、35～40歳では、「自宅から通える職場だから」(25.8%)が若干多くなっています。
○総じてみると、年齢の違いによる選択の理由に大きな差はみられません(図4-1-2)。

図4-1-2 性別「現在の仕事を選択した理由」

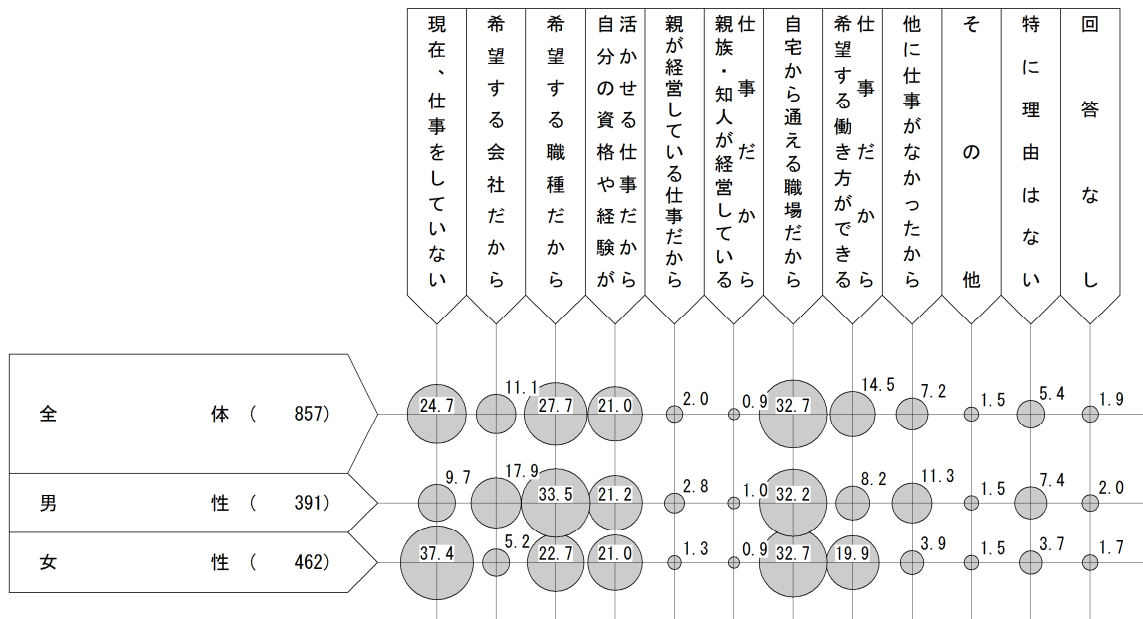
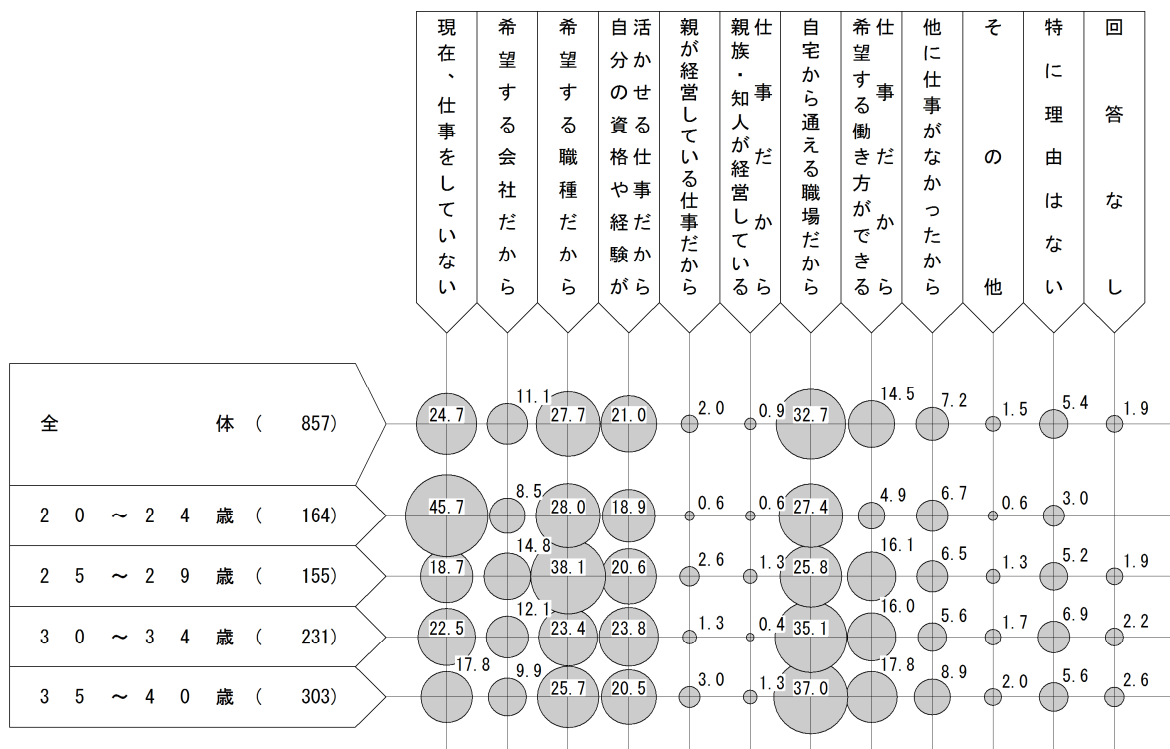


図4-1-3 年齢別「現在の仕事を選択した理由」



(2) 仕事に対する満足度 (問23)

問23 現在の「仕事」について、満足していますか。

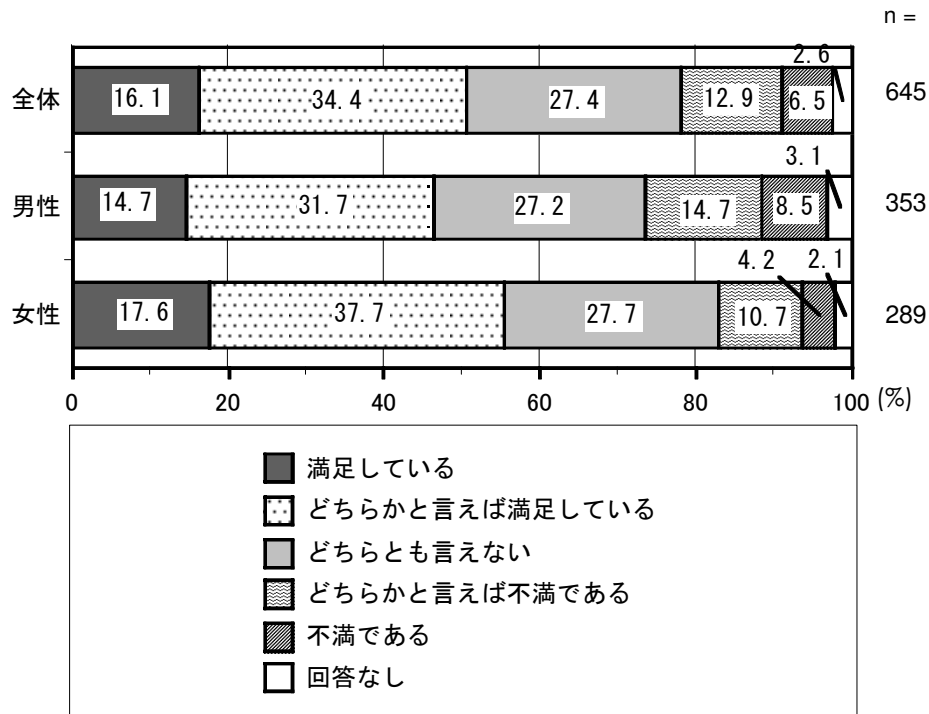
現在の仕事に対して、「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を合わせた割合が、「不満である」と「どちらかと言えば不満である」を合わせた割合を31.1ポイント上回っています。

○仕事をしているという645人に対して、仕事に対する満足度を尋ねたところ、「満足している」(16.1%)と「どちらかと言えば満足している」(34.4%)を合わせた割合は50.5%あり、「不満である」(6.5%)「どちらかと言えば不満である」(12.9%)を合わせた割合(19.4%)を31.1ポイント上回っています(図4-2-1)。

【性別】

○性別でみると、男性よりも女性の方が仕事に対する満足度が若干高くなっています(図4-2-1)。

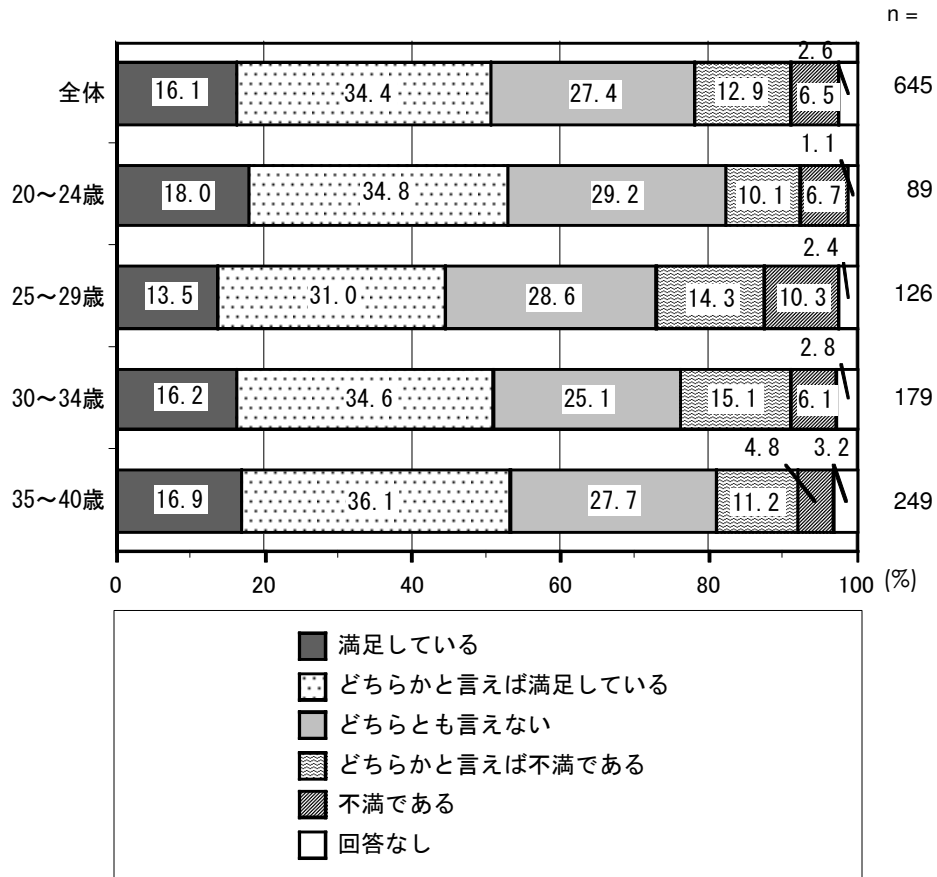
図4-2-1 性別「仕事に対する満足度」



【年齢別】

○「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を合わせた割合について、25～29歳で44.5%と、全体値に比べて若干少なくなっていますが、これ以外は、年齢層による大きな差はみられません（図4-2-2）。

図4-2-2 年齢別「仕事に対する満足度」



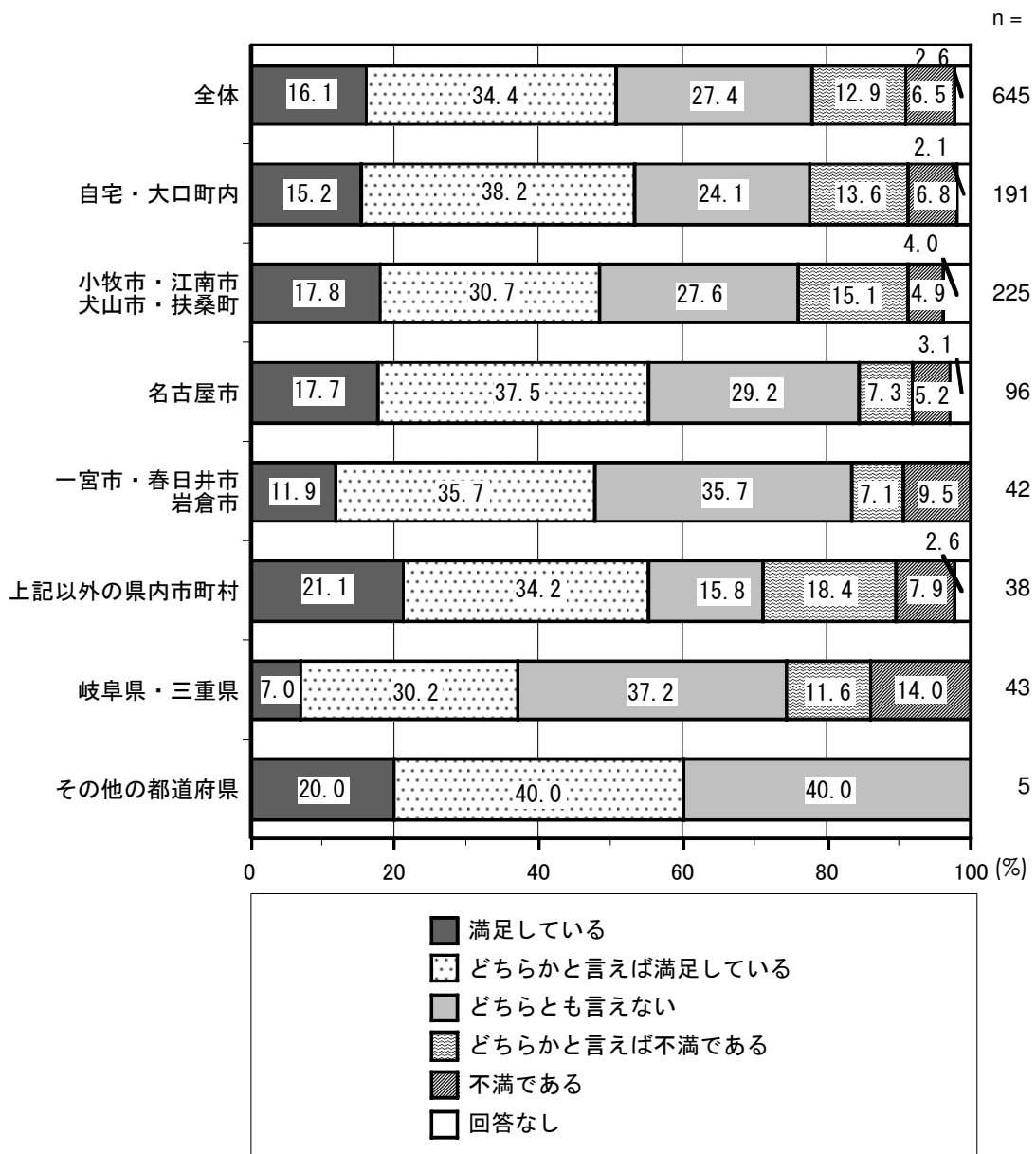
【勤務地別】

○「満足している」と「どちらかと言えば満足している」を合わせた割合と「不満である」と「どちらかと言えば不満である」を合わせた割合との差を求める方法で勤務地別の仕事に対する満足度についてみると、「名古屋市」では、42.7ポイント（17.7%+37.5%−7.3%−5.2%）であり、全体値の31.1ポイント（16.1%+24.4%−12.9%−6.5%）を上回っており、満足度が高くなっています。

○逆に、「岐阜県・三重県」では、11.6ポイント（7.0%+30.2%−11.6%−14.0%）と全体値よりも満足度が低くなっています。

○「自宅・大口町内」（33.0ポイント）や隣接自治体である「小牧市・江南市・犬山市・扶桑町」（28.5ポイント）、近隣自治体である「一宮市・春日井市・岩倉市」（31.0ポイント）については、概ね全体値と同程度の満足度になっています（図4-2-3）。

図4-2-3 勤務地別「仕事に対する満足度」



(3) 仕事に対する満足度の理由 (問24)

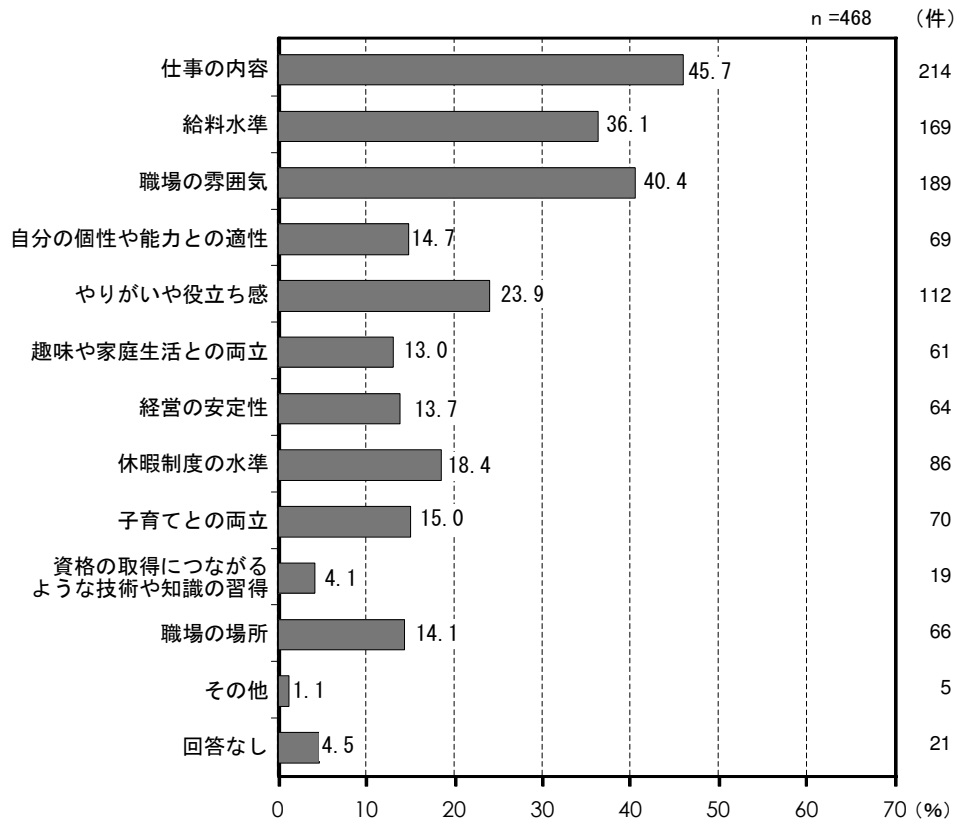
問24 問23で回答された現在の仕事に対する満足度(満足や不満)は、主にどのような事項が理由になっていますか。主なものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

仕事に対する満足度の理由については、「仕事の内容」が最も多く、「職場の雰囲気」や「給料水準」が続いて多くなっています。

仕事に満足しているという人では、「職場の雰囲気」や「仕事の内容」が多くなっており、一方で、仕事に不満であるという人では、「給料水準」や「休暇制度の水準」の割合が多くなっています。

○仕事に対する満足度の理由については、「仕事の内容」が45.7%と最も多く、「職場の雰囲気」(40.4%)や「給料水準」(36.1%)が続いて多くなっています。「やりがいや役立ち感」についても23.9%と比較的多くなっています(図4-3-1)。

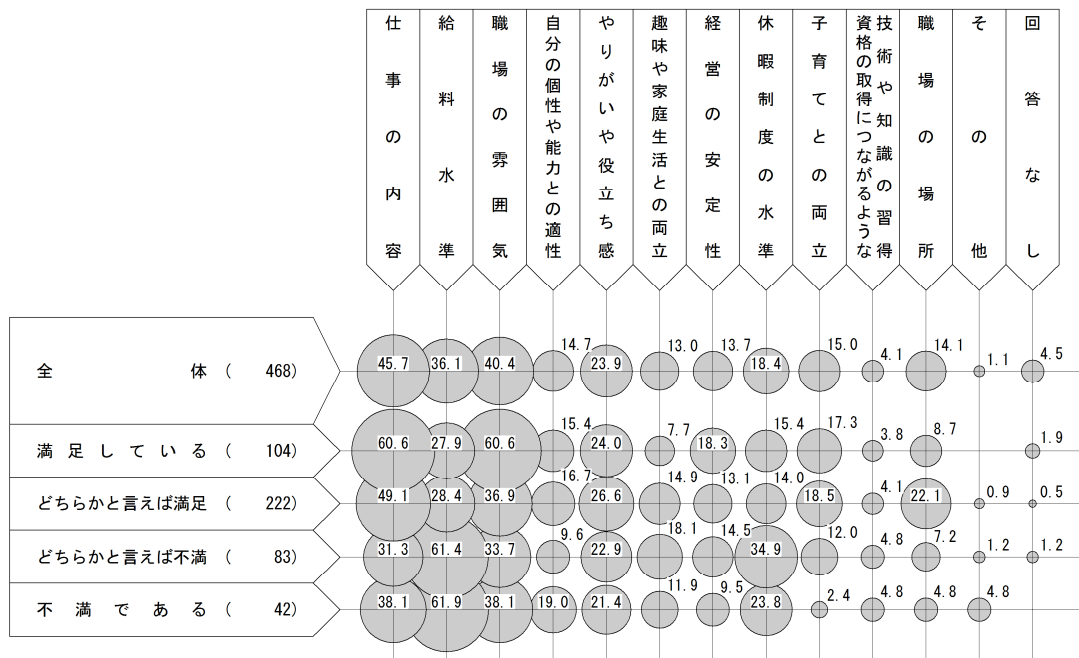
図4-3-1 「仕事に対する満足度の理由」



【仕事に対する満足度別】

- 仕事に対する満足度別にみると、「満足している」という人では、「職場の雰囲気」(60.6%)や「仕事の内容」(60.6%)が全体値に比べて多くなっています。
- 一方、「不満である」という人では、「給料水準」(61.9%)の割合が多くなっています。また、「休暇制度の水準」(23.8%)についても若干多くなっています。「どちらかと言えば不満」という人でも同様の傾向がみられ、「給料水準」(61.4%)と「休暇制度の水準」(34.9%)の割合が全体値と比べて多くなっています(図4-3-2)。
- このように、「職場の雰囲気」や「仕事の内容」が仕事に対する満足の要因になっていることと、「給料水準」や「休暇制度の水準」が仕事に対する不満の要因になっていることを示唆する結果になっています。

図4-3-2 仕事に対する満足度別「仕事に対する満足度の理由」



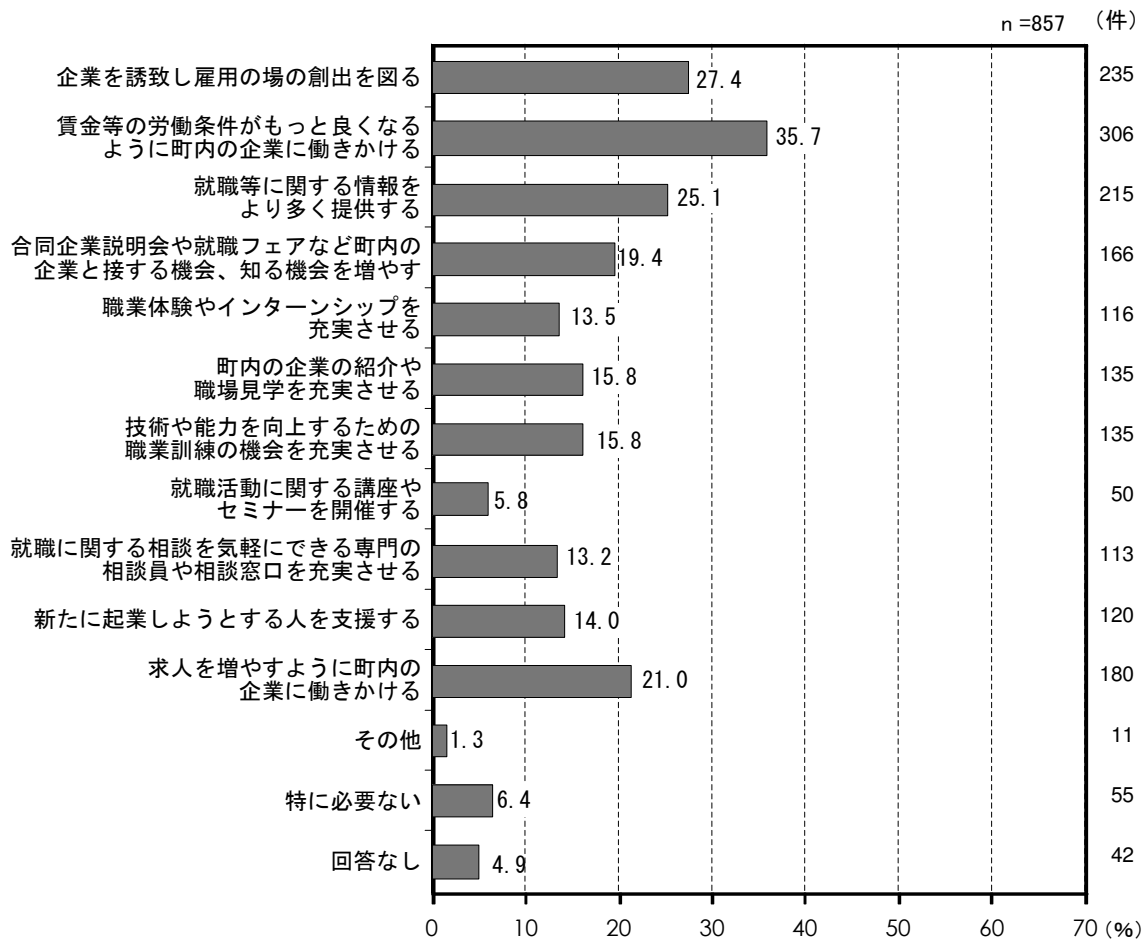
(4) 雇用機会等を充実するための取組（問25）

問25 大口町において雇用の機会や仕事の間を充実していくために、どのような取組が必要であると考えますか。あてはまるもの3つまで選んで番号に○印をつけてください。

「賃金等の労働条件がもっと良くなるように町内の企業に働きかける」が最も多く、次いで、「企業を誘致し雇用の場の創出を図る」や「就職等に関する情報をより多く提供する（インターネットや冊子などで）」が多くなっています。

○雇用機会等の充実を図っていくために必要な取組については、「賃金等の労働条件がもっと良くなるように町内の企業に働きかける」(35.7%) が最も多く、次いで、「企業を誘致し雇用の場の創出を図る」(27.4%) や「就職等に関する情報をより多く提供する（インターネットや冊子などで）」(25.1%)、「求人を増やすように町内の企業に働きかける」(21.0%) が多くなっています（図4-4-1）。

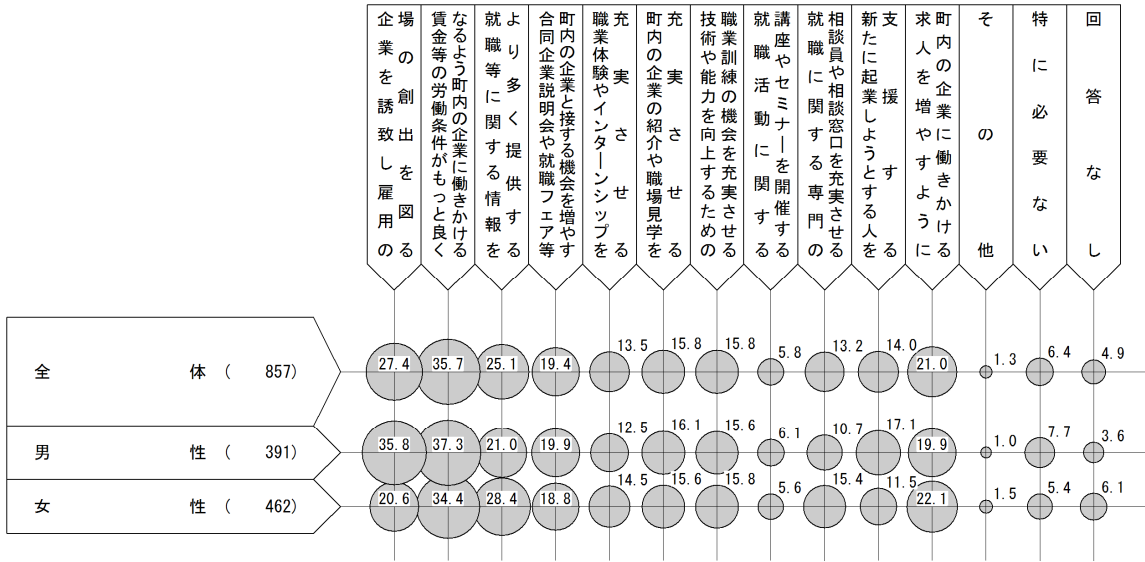
図4-4-1 「雇用機会等を充実するための取組み」



【性別】

○性別でみると、「企業を誘致し雇用の場の創出を図る」をあげた人は、男性 (35.8%) の方が女性 (20.6%) よりも多くなっていますが、全般的に、性別による大きな差はみられません (図 4-4-2)。

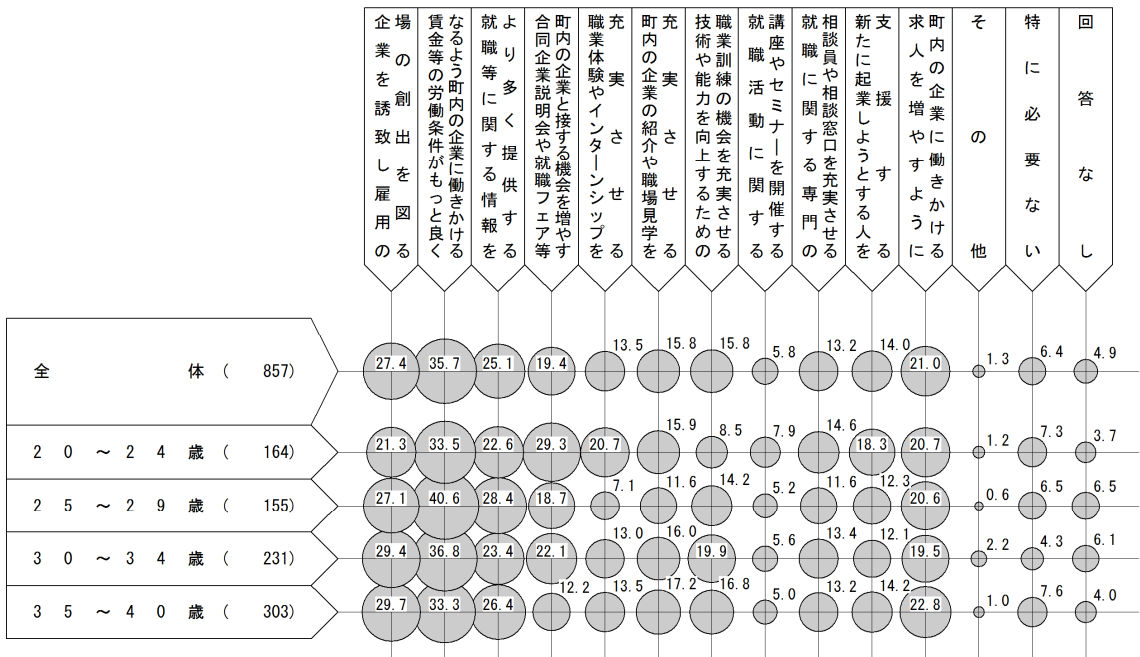
図 4-4-2 性別「雇用機会等を充実するための取組み」



【年齢別】

○年齢別にみると、20～24 歳において特徴的な結果になっています。
 ○具体的には、20～24 歳では、就職期を控えている人も多いこともあるため、「合同企業説明会や就職フェアなど、町内の企業と接する機会、知る機会を増やす」(29.3%) と「職業体験やインターンシップを充実させる (実施回数・期間や実施企業の拡大)」(20.7%) が全体値に比べて若干多くなっています。その一方で、「企業を誘致し雇用の場の創出を図る」(21.3%) と「技術や能力を向上するための職業訓練の機会を充実させる」(8.5%) は、全体値に比べて若干少なくなっています。(図 4-4-3)。

図 4-4-3 年齢別「雇用機会等を充実するための取組み」



第5章 大口町の住みやすさや定住意向について

(1) 大口町における住みやすさの評価 (問26)

問26 総合的にみて大口町は住みよいところだと思いますか。

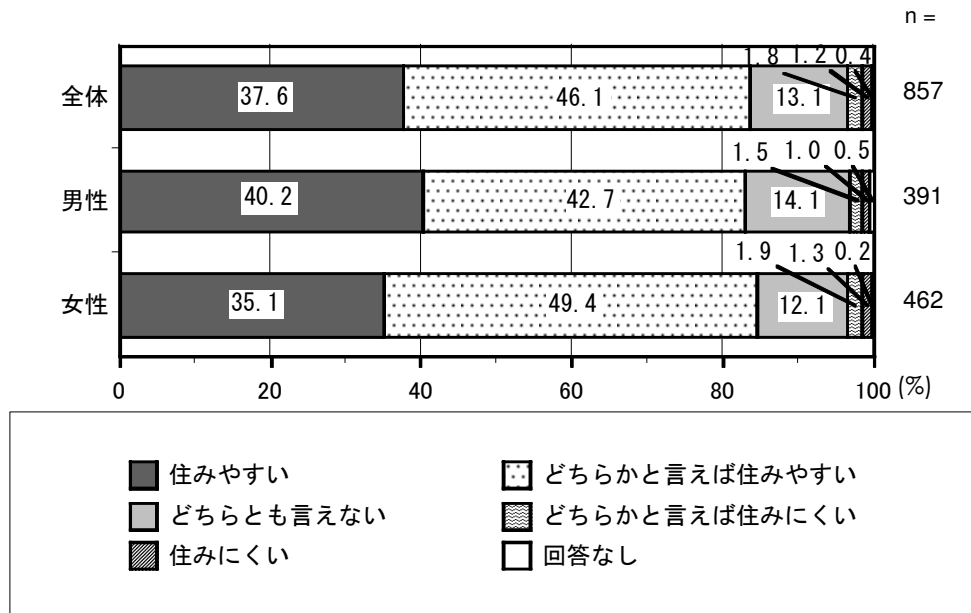
大口町に対して住みやすさを感じている人は、8割を超えています。

- 「住みよい」が37.6%、「どちらかと言えば住みよい」が46.1%となっており、これらを合わせた大口町に対して住みやすさを感じている町民の割合は83.7%となっています。
- 一方、「どちらかと言えば住みにくい」が1.8%、「住みにくい」が1.2%となっており、これらを合わせた大口町に対して住みにくさを感じている町民の割合は3.0%にとどまっています (図5-1-1)。

【性別】

○性別による有意な差はみられません (図5-1-1)。

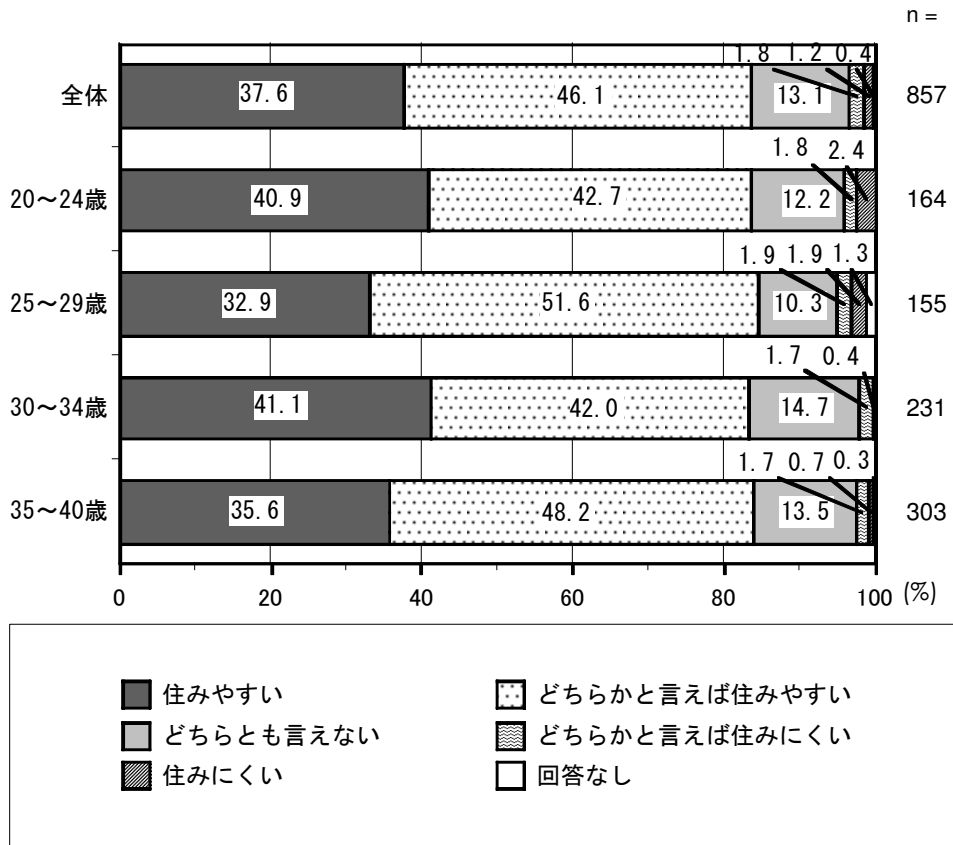
図5-1-1 性別「大口町における住みやすさの評価」



【年齢別】

○年齢別についても大きな差はみられません (図5-1-2))。

図5-1-2 年齢別「大口町における住みやすさの評価」



(2) 大口町への定住意向 (問27)

問27 あなたはこれからも大口町に住み続けたいと思いますか。

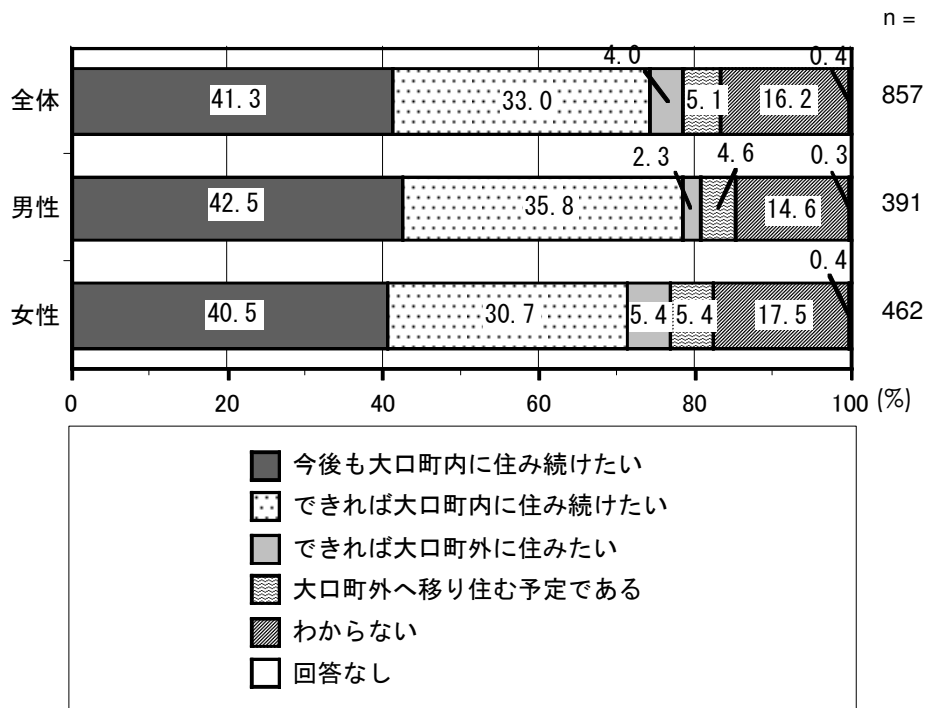
大口町に対して定住の意向を持つ人は、7割強を占めています。

- 「今後も大口町内に住み続けたい」が41.3%、「できれば大口町内に住み続けたい」が33.0%となっています。これらを合わせた大口町に対して定住の意向を持つ町民の割合は、74.3%となっています。
- 一方、「できれば大口町外に住みたい」が4.0%、「大口町外へ移り住む予定である」は5.1%で、これらを合わせた大口町から移転の意向を持つ町民の割合は9.1%となっています。

【性別】

○性別では、男性が78.3%、女性が71.2%となっており、男性の方が女性より若干多くなっています(図5-2-1)。

図5-2-1 性別「大口町への定住意向」

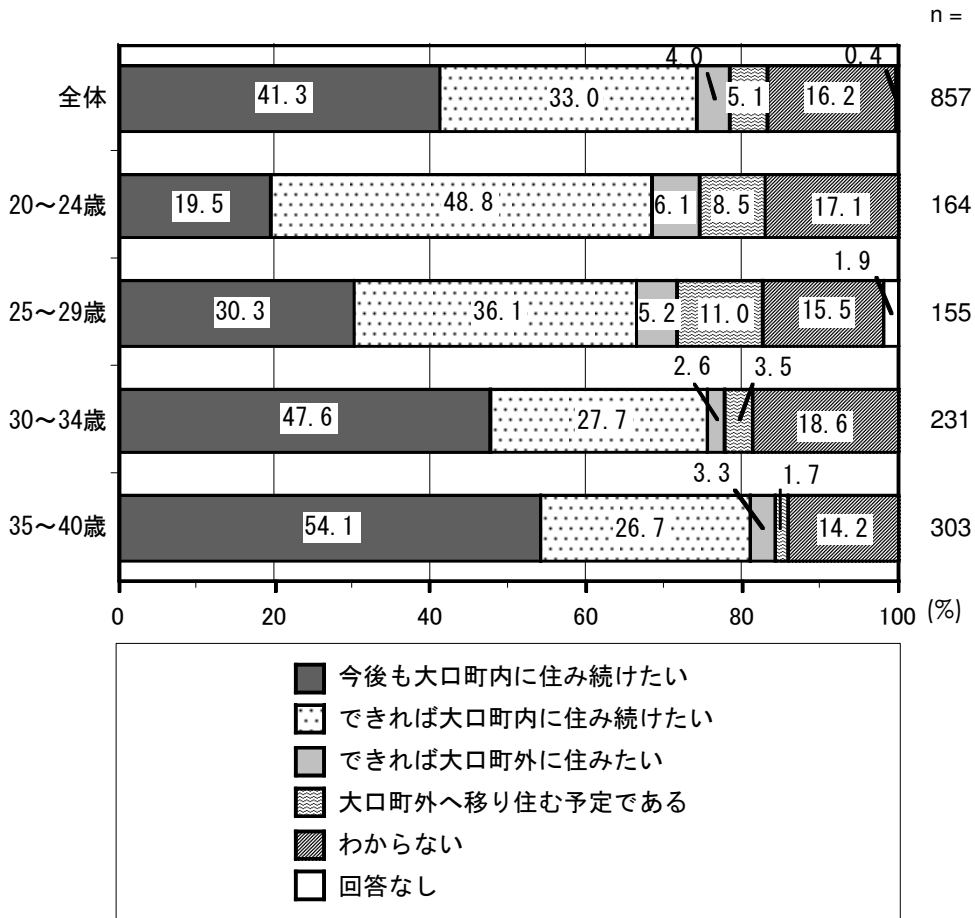


【年齢別】

○年齢別にみると、「今後も大口町内に住み続けたい」と「できれば大口町内に住み続けたい」を合わせた割合では、35～40歳が80.8%と最も多く、さらに、「今後も大口町内に住み続けたい」とする積極的な定住意向でも54.1%を示しています。

○「今後も大口町内に住み続けたい」とする人の割合は、年齢が上がるにしたがって多くなる傾向がみられます（図5-2-2）。

図5-2-2 年齢別「大口町への定住意向」



(3) 大口町から転出することになった場合の理由 (問 28)

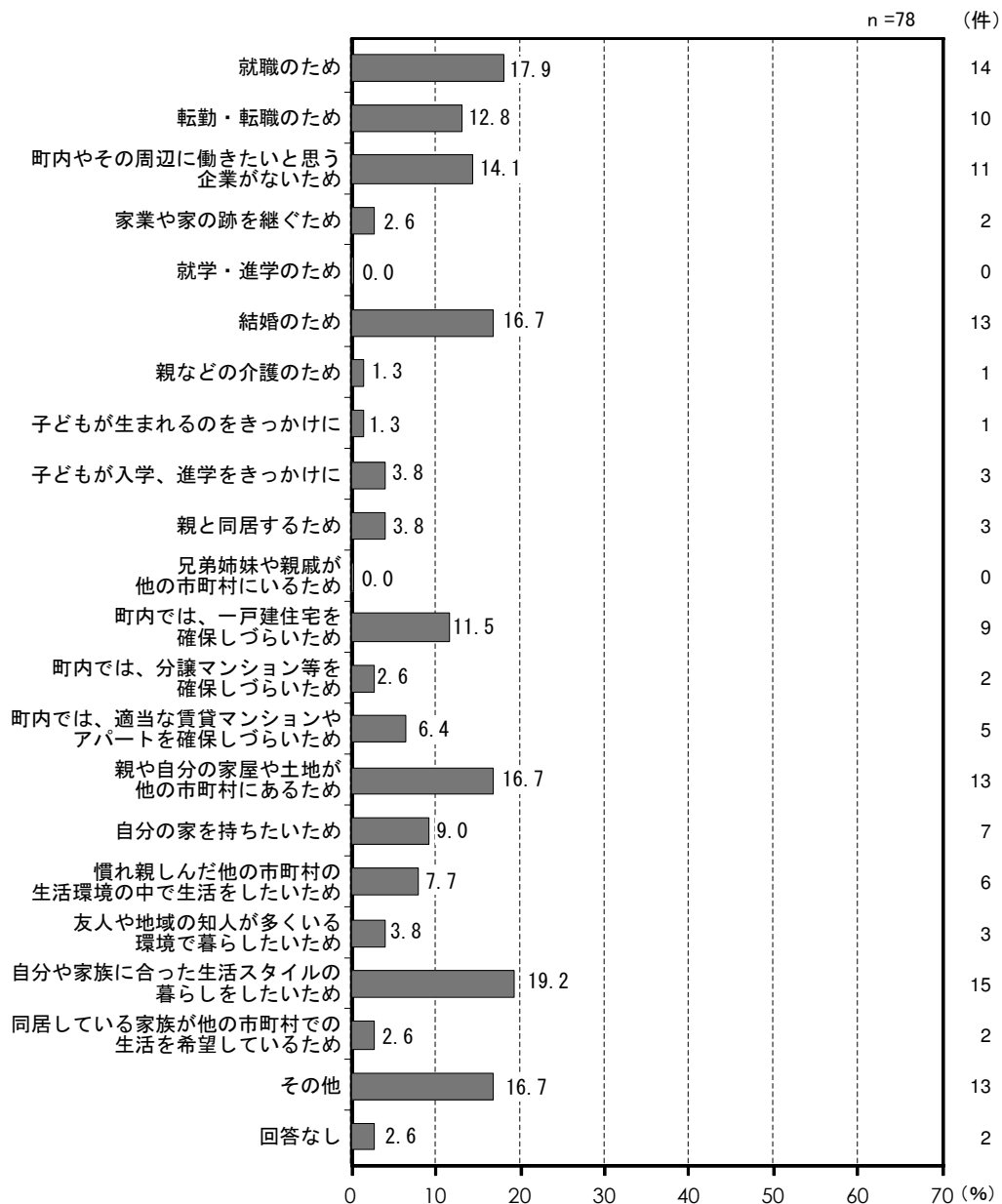
問 28 大口町から転出することになる場合、主にどのようなことが理由として考えられますか。主なものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

大口町から転出することになった場合の理由については、「自分や家族に合った生活スタイルの暮らしをしたいため」が最も多く、次いで、「就職のため」や「結婚のため」、「親や自分の家屋や土地が他の市町村にあるため」となっています。

○問 27 で、「できれば大口町外に住みたい」や「大口町外へ移り住む予定である」を回答した 78 人に対して、大口町から転出することになった場合の理由について尋ねたところ、「自分や家族に合った生活スタイルの暮らしをしたいため」(19.2% [15 人]) が最も多く、次いで、「就職のため」(17.9% [14 人]) や「結婚のため」(16.7% [13 人])、「親や自分の家屋や土地が他の市町村にあるため」(16.7% [13 人]) と、いずれも 2 割以下の回答となっています。

○このように、就職や結婚といったライフイベントに関する事項や家屋・家屋の町外所有状況など、町の政策では転出を抑制することが難しい事項が主な理由としてあがっています (図 5-3)。

図 5-3 「大口町から転出する場合の理由」



(4) 若い世代の移住・定住促進のために力を入れるべき事項 (問 29)

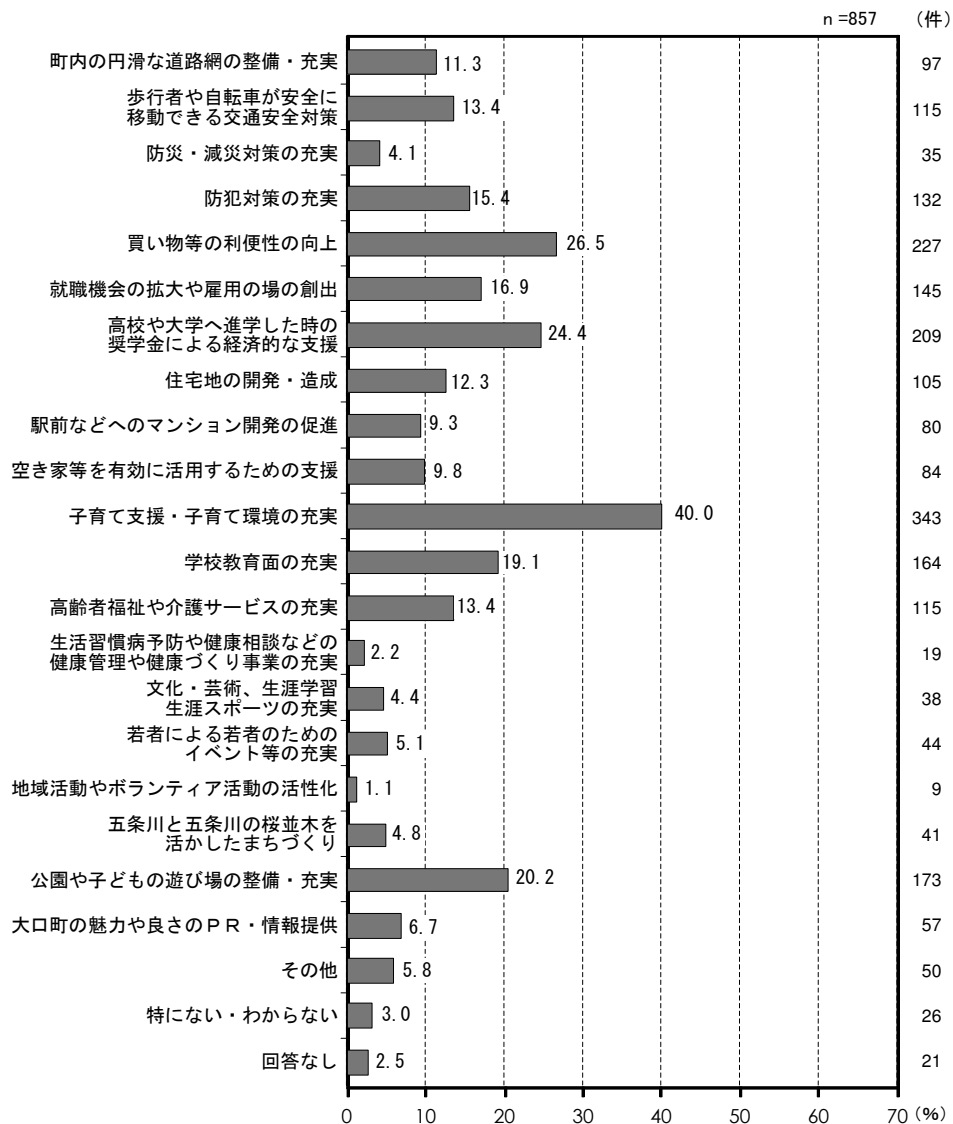
問 29 あなたは、大口町に多くの若い世代の人が移り住み、定住するようにするために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

若い世代を大口町内へ移住・定住させるために力を入れるべき事項については、「子育て支援・子育て環境の充実」が最も多く、次いで、「買い物等の利便性の向上」や「高校や大学へ進学した時の奨学金による経済的な支援」、「公園や子どもの遊び場の整備・充実」が多くなっています。

また、同居家族の中に乳幼児や幼児がいる世帯では、「子育て支援・子育て環境の充実」が、中学生や高校生がいる世帯では、「高校や大学へ進学した時の奨学金による経済的な支援」が多くなっています。

○若い世代を大口町内へ移住・定住させるために力を入れるべき事項については、「子育て支援・子育て環境の充実」が40.0%と最も多く、次いで、「買い物等の利便性の向上」(26.5%)、「高校や大学へ進学した時の奨学金による経済的な支援」(24.4%)、「公園や子どもの遊び場の整備・充実」(20.2%)が多くなっています。(図5-4-1)。

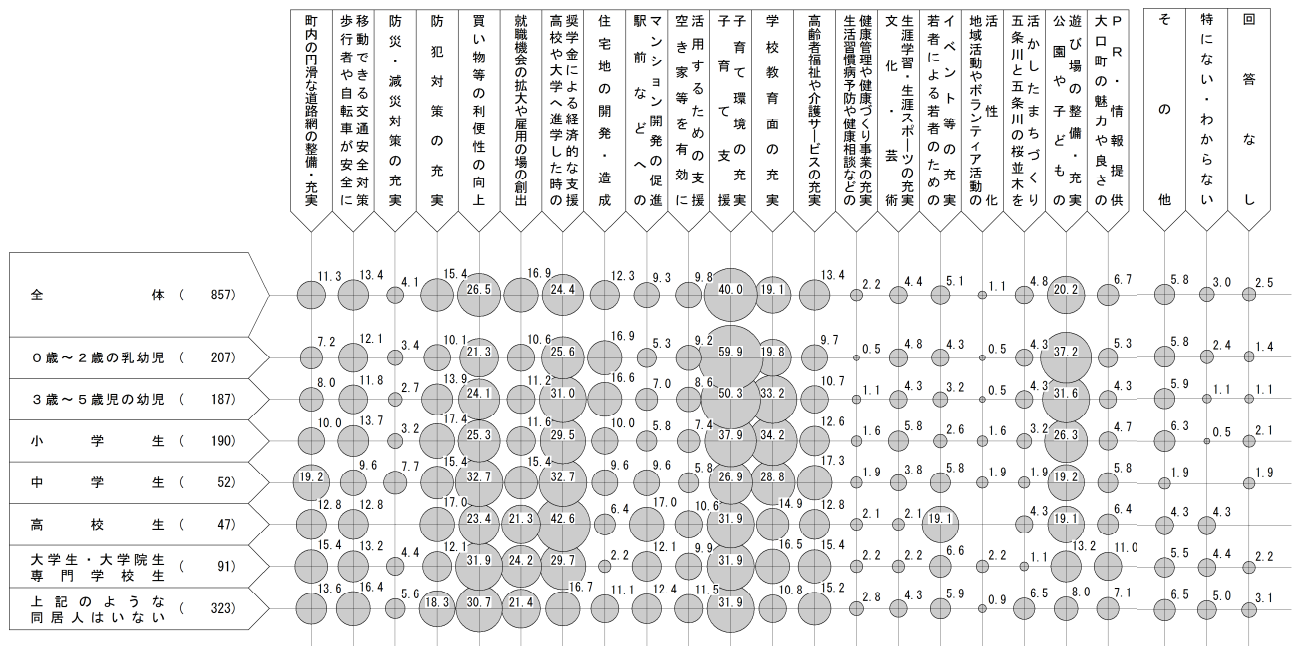
図5-4-1 「若い世代の移住・定住促進のために力を入れるべき事項」



【同居家族別】

- 同居家族別でみると、「子育て支援・子育て環境の充実」については、同居家族の中に0歳～2歳の乳幼児のいる世帯 (59.9%) や3歳～5歳児 (小学校入学前まで) の幼児がいる世帯 (50.3%) において多くなっています。
- 「公園や子どもの遊び場の整備・充実」についても、0歳～2歳の乳幼児がいる世帯 (59.9%) や3歳～5歳児の幼児がいる世帯 (31.6%) において多く、また、小学生がいる世帯でも若干多くなっています。
- 「高校や大学へ進学した時の奨学金による経済的な支援」については、高校生がいる世帯 (42.6%) で特に多くなっています。また、中学生や小学生、3～5歳の幼児がいる世帯でも若干多くなっています。
- 「学校教育の充実」については、特に、小学生のいる世帯 (34.2%) や3歳～5歳児 (小学校入学前まで) の幼児がいる世帯 (33.2%) から強く望まれています。
- なお、「買い物等の利便性の向上」については、中学生がいる世帯 (32.7%) や大学生・大学院生・専門学校生がいる世帯 (31.9%) で若干多くなっています。また、「就職機会の拡大や雇用の創出」については、大学生・大学院生・専門学校生がいる世帯 (24.2%) で、「若者によるイベント等の充実」については、高校生がいる世帯 (19.1%) で、それぞれ若干多くなっています (図5-4-2)。

図5-4-2 同居家族別「若い世代の移住・定住促進のために力を入れるべき事項」



【参考】表 5-4 カテゴリ「その他」内訳

カテゴリその他の内容	件数
公共交通機関の充実。	21
子育て世帯への地域活動の負担軽減。	3
飲食店を増やす。	3
街灯等を整備する。	3
障害児に対する支援。	2
他市と合併する。	2
図書館の整備。	2
古い慣習の撤廃。	2
大型ショッピングモールの誘致。	2
ライブなどを開催する。	2
自然環境の保護。	1
過疎化対策。	1
学校、保育所施設の整備。	1
駅周辺の整備。	1
賃貸住宅への補助。	1
若者向けの施設の充実。	1
娯楽施設を増やす。	1
観光を考慮して、テーマパーク等の建設。	1
合計	50

■調査票

若い世代が住みやすいまちに関するアンケート

●アンケートご協力をお願い●

日頃より大口町の町政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、本町では、『みんなで進める自立と共助のまちづくり』を基本理念として掲げた第6次大口町総合計画に基づいて町政運営を進めてきました。また、全国的に人口減少や少子高齢化が進んでいる中、本町では、住みやすいまちづくりを進めるための単独（計画）づくりをスタートさせたところです。

そこで、この度、若い世代の方々にとってより一層住みやすいまちづくりを進めていくための基礎資料を得ることを目的に、町民の皆さんを対象にアンケートを実施することになりました。

このアンケートは、平成27年11月1日現在、大口町内にお住まいの20歳～40歳の方の中から、無作為に約2500人の方を選ばせていただき、お願いするものです。ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理しますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたりすることは一切ありません。

つきましては、将来の大口町のあり方を考えていく上で大切なアンケートですので、ご多忙のところ大変申し訳ありませんが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年11月

大口町長 鈴木 雅博

■ご記入にあたって■

1. このアンケートは、宛名のご本人がお答えください。事情によって、ご本人が回答できない場合は、ご家族の方が本人に代わってご回答ください。
2. 設問への回答について、特に記載のない場合は、**該当する項目を1つ選んで、番号に○印**をつけてください。
3. ご記入いただいたアンケート用紙は**平成27年12月10日(木)**までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、ポストに投函してください。
4. アンケートについてのご質問やお問い合わせは、下記までお願いいたします。

A あなたやあなたのご家族などについておたずねします。

問1 あなたの性別・年齢をお教えてください。

●性別

- | |
|-------|
| 1. 男性 |
| 2. 女性 |

●年齢（※平成27年11月1日現在の年齢でお答えください。）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 3. 30～34歳 |
| 2. 25～29歳 | 4. 35～40歳 |

問2 あなたの職業は何ですか。

- | | | |
|-------------------|-----------------------|----------------|
| 1. 農業 | 5. パートタイマー・派遣業の非正規雇用者 | 8. 家事専従（主婦・主夫） |
| 2. 自営業・自由業 | 6. 失業中（求職中） | 9. 無職 |
| 3. 会社員（商店等の勤務も含む） | 7. 学生 | 10. その他（_____） |
| 4. 公務員・団体職員 | | |

問3 あなたの勤務地（働いているところ）又は通学しているところはどこですか。

- | | | |
|---------|---------|-----------------------------------|
| 1. 自宅 | 7. 犬山市 | 11. 前記1～10以外の愛知県内の市町村（市町村名→_____） |
| 2. 大口町内 | 8. 春日井市 | 12. 岐阜県（市町村名→_____） |
| 3. 名古屋市 | 9. 岩倉市 | 13. 三重県（市町村名→_____） |
| 4. 一宮市 | 10. 扶桑町 | 14. 愛知県・岐阜県・三重県以外の都道府県 |
| 5. 小牧市 | | （都道府県名：_____市市区町村名：_____） |
| 6. 江南市 | | ※仕事も通学もしている場合は勤務地を優先してください。 |

問4 あなたは、現在、どの地区（行政区）にお住まいですか。

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-----------|
| 1. 秋田 | 3. 大屋敷 | 5. 河北 | 7. 上小口 | 9. 下小口 | 11. さつきヶ丘 |
| 2. 豊田 | 4. 外坪 | 6. 余野 | 8. 中小口 | 10. 垣田 | |

問5 あなたがお住まいの住宅の種類は、次のうちどれですか。

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 一戸建ての持ち家（あなたまたは配偶者の所有） | 7. 町営・県営等公営住宅 |
| 2. 一戸建ての持ち家（実家・親の家） | 8. 社宅・寮・宿舍 |
| 3. 一戸建て・長家建ての借家 | 9. 間借り |
| 4. 分譲マンション | 10. その他（具体的に_____） |
| 5. 賃貸アパート等（建物が2階建以下） | |
| 6. 賃貸アパート・マンション等（建物が3階建以上） | |

問6 あなたは、大口町にお住まいになって何年ぐらいになりますか。

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1. 3年未満 | 3. 5年以上10年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 2. 3年以上5年未満 | 4. 10年以上20年未満 | 6. 30年以上 |

問7 あなたの世帯のタイプは次のどれに該当しますか。

- | | |
|--|--|
| 1. 単身世帯 | 6. 3世代同居世帯のうち「あなたや配偶者の親+あなたや配偶者+子ども」からなる世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯（あなたと配偶者） | 7. 3世代同居世帯のうち「あなたや配偶者の祖父母+あなたや配偶者の親+あなたや配偶者」からなる世帯 |
| 3. 1世代世帯（夫婦のみの世帯を除く、例：「兄弟のみの世帯」や「姉妹のみの世帯」など） | 8. 4世代以上同居世帯 |
| 4. 2世代同居世帯のうち「あなたや配偶者+子ども」からなる世帯 | 9. その他（具体的に：_____） |
| 5. 2世代同居世帯のうち「あなたや配偶者+あなたや配偶者の親」からなる世帯 | |

A

あなたやあなたのご家族などについておたずねします。

問1 あなたの性別・年齢をお教えてください。

●性別

- | |
|-------|
| 1. 男性 |
| 2. 女性 |

●年齢（※平成27年11月1日現在の年齢でお答えください。）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 3. 30～34歳 |
| 2. 25～29歳 | 4. 35～40歳 |

問2 あなたの職業は何ですか。

- | | | |
|-------------------|-----------------------|----------------|
| 1. 農業 | 5. パートタイマー・派遣業の非正規雇用者 | 8. 家事専従（主婦・主夫） |
| 2. 自営業・自由業 | 6. 失業中（求職中） | 9. 無職 |
| 3. 会社員（商店等の勤務も含む） | 7. 学生 | 10. その他（_____） |
| 4. 公務員・団体職員 | | |

問3 あなたの勤務地（働いているところ）又は通学しているところはどこですか。

- | | | |
|---------|---------|-----------------------------------|
| 1. 自宅 | 7. 犬山市 | 11. 前記1～10以外の愛知県内の市町村（市町村名→_____） |
| 2. 大口町内 | 8. 春日井市 | 12. 岐阜県（市町村名→_____） |
| 3. 名古屋市 | 9. 岩倉市 | 13. 三重県（市町村名→_____） |
| 4. 一宮市 | 10. 扶桑町 | 14. 愛知県・岐阜県・三重県以外の都道府県 |
| 5. 小牧市 | | （都道府県名：_____ 市区町村名：_____） |
| 6. 江南市 | | ※仕事も通学もしている場合は勤務地を優先してください。 |

問4 あなたは、現在、どの地区（行政区）にお住まいですか。

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-----------|
| 1. 秋田 | 3. 大屋敷 | 5. 河北 | 7. 上小口 | 9. 下小口 | 11. さつきヶ丘 |
| 2. 豊田 | 4. 外坪 | 6. 余野 | 8. 中小口 | 10. 垣田 | |

問5 あなたがお住まいの住宅の種類は、次のうちどれですか。

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 一戸建ての持ち家（あなたまたは配偶者の所有） | 7. 町営・県営等公営住宅 |
| 2. 一戸建ての持ち家（実家・親の家） | 8. 社宅・寮・宿舍 |
| 3. 一戸建て・長家建ての借家 | 9. 間借り |
| 4. 分譲マンション | 10. その他（具体的に_____） |
| 5. 賃貸アパート等（建物が2階建以下） | |
| 6. 賃貸アパート・マンション等（建物が3階建以上） | |

問6 あなたは、大口町にお住まいになって何年ぐらいになりますか。

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1. 3年未満 | 3. 5年以上10年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 2. 3年以上5年未満 | 4. 10年以上20年未満 | 6. 30年以上 |

問7 あなたの世帯のタイプは次のどれに該当しますか。

- | | |
|--|--|
| 1. 単身世帯 | 6. 3世代同居世帯のうち「あなたや配偶者の親+あなたや配偶者+子ども」からなる世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯（あなたと配偶者） | 7. 3世代同居世帯のうち「あなたや配偶者の祖父母+あなたや配偶者の親+あなたや配偶者」からなる世帯 |
| 3. 1世代世帯（夫婦のみの世帯を除く、
例：「兄弟のみの世帯」や「姉妹のみの世帯」など） | 8. 4世代以上同居世帯 |
| 4. 2世代同居世帯のうち「あなたや配偶者+子ども」からなる世帯 | 9. その他（具体的に：_____） |
| 5. 2世代同居世帯のうち「あなたや配偶者+あなたや配偶者の親」からなる世帯 | |

問8 あなたと同居している家族全員の人数は、何人ですか。**あなた自身も含めた家族人数**をご記入ください。

●あなた自身を含めた家族人数

人

※あなたお1人だけの場合は、「1」を記入してください。

問9 あなたと同居している家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。**あなた自身も含めて回答**してください。あてはまるものを**すべて**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 0歳～2歳の乳幼児 | 5. 高校生 |
| 2. 3歳～5歳児（小学校入学前まで）の幼児 | 6. 大学生・大学院生・専門学校生 |
| 3. 小学生 | 7. 1～6のような同居人はいない |
| 4. 中学生 | |

B 結婚についておたずねします。

問10 あなたは結婚していますか。

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. 結婚している⇒問14へ | 3. 結婚していない |
| 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている | 4. 離別・死別した |

問11 あなたは、将来、結婚・再婚したいと思いますか。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 既に婚約している | 4. 一生結婚・再婚するつもりはない |
| 2. できるだけ早く結婚・再婚したい | 5. わからない |
| 3. いずれは結婚・再婚するつもりである | 6. その他 (_____) |

問12 あなたが結婚していない理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを**すべて**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 適当な相手にめぐり合わないから | 8. 仕事（学業）にうちこみたいから |
| 2. 自由や気楽さを失いたくないから | 9. まだ若すぎるから |
| 3. 結婚後の生活資金が足りないと思うから | 10. 仕事が忙しすぎるから |
| 4. 必要性を感じないから | 11. 住宅のめどが立たないから |
| 5. 結婚資金が足りないから | 12. 親や周囲が同意しないから |
| 6. 趣味や娯楽を楽しみたいから | 13. その他 (_____) |
| 7. 異性とうまくつきあえないから | |

問13 【問11で「2. できるだけ早く結婚したい」「3. いずれは結婚するつもりである」と回答された方におたずねします。】

あなたは、婚活をしていますか。

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 現在、婚活をしている | 3. 特に婚活をしていない |
| 2. 以前は婚活をしていたが、現在はしていない | 4. その他 (_____) |

問14 あなたは、行政による結婚支援として、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるもの **3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

1. 出会いの場づくり・婚活イベント
2. 結婚に関する相談
3. 結婚祝い金の支給（結婚資金の補助）
4. 新婚用の住宅提供、家賃補助
5. 交際術、ファッション、マナー講座の開催
6. 結婚観・人生観等について講座の開催
7. その他（具体的に：_____）
8. 特に必要ない

C 子ども・子育てについておたずねします。

問15 あなたには、現在、お子さんがいますか。お子さんがいる場合は、何人のお子さんがいますか。

1. 子どもはいない（0人）
2. 子どもがいる → 人

問16 あなたは、将来的に何人ぐらい子どもが欲しいと考えていますか。既にお子さんがいるという方は、今いるお子さんの数と合わせて全員で何人のお子さんが欲しいですか。理想的な子ども数をご記入ください。

1. 現在、子どもはいないし、将来的に子どもが欲しいとは考えていない（0人）
2. 現在、子どもはいないが、将来的には欲しい → 人
3. 現在、子どもはいるが、今の子ども数でよい
4. 現在、子どもがおり、さらに欲しい → 人 ※既にいるお子さんの数を含めた理想の子ども数をご記入ください。

問17 【問15と問16で、理想とする子ども数よりも、現在の子ども数が少ない方におたずねします。】

理想とする子ども数よりも、現在の子ども数が少ないのは、どのような理由からですか。**主な理由を3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1. これからまだ産むつもりであるため | 10. 地域の教育環境が十分でないため |
| 2. 子育てにかかる経済的負担が大きい | 11. 子どもがのびのびと育つ環境でないため |
| 3. 子育てにかかる精神的な負担が大きい | 12. 配偶者やパートナーが望まないため |
| 4. 子育てにかかる肉体的な負担が大きい | 13. 配偶者やパートナーがいないため、できそうなため |
| 5. 自分や夫婦の仕事に支障が出てくるため | 14. 子どもができない（できなかった）ため |
| 6. 自分や自分の配偶者との生活を楽みたい | 15. その他（ _____ ） |
| 7. 年齢的な理由で出産・育児が難しい | 16. 特に理由はない |
| 8. 家が手狭であるため | |
| 9. 地域の保育サービス（保育所や一時預かりなど）が十分でないため | |

問18 あなたは、子どもを産み育てやすい環境を整えるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるもの**5つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 安心して妊娠、出産、子育てができる環境の充実 |
| 2. 妊産婦、乳幼児の健康診断や保育指導など母子保健サービスの充実 |
| 3. 不妊治療の支援の充実 |
| 4. 子育てに関する情報の提供・相談体制の充実 |
| 5. 乳児保育や一時保育、病児保育など多様な保育サービスの充実 |
| 6. 地域住民が子どもを一時預かるなど、子育て家庭を手助けする仕組みづくり |
| 7. 子育てサークルなど親同士が交流・相談し合うことができる場の充実 |
| 8. 学校の放課後に子どもを預かる学童保育（放課後児童クラブ）の充実 |
| 9. 児童手当の拡充 |
| 10. 子どもの医療にかかる費用が無料になる年齢の拡大（※現在は、中学生まで無料） |
| 11. 授業料の助成などの奨学事業の充実 |
| 12. 多子世帯への支援（子どもが3人目以上の助成・優遇制度） |
| 13. 子育てしながら働き続けられる職場環境の改善についての企業への働きかけ |
| 14. 子育て期でも身近な地域で働けるような求人情報の提供や起業支援 |
| 15. 男性が育児に参加しやすくする制度（育休制度等）の普及 |
| 16. 子育てに向いている安価で優良な賃貸住宅に関する情報の提供、入居支援 |
| 17. 安心して子どもを遊ばせることができる広場・公園などの整備 |
| 18. 文化・芸術体験やスポーツ体験、自然体験、社会体験など、子どもに対する多様な体験機会の提供 |
| 19. 子どもが犯罪、交通事故などから守られる安全・安心な地域環境の形成 |
| 20. 子連れで利用しやすい施設（公共施設、店舗）やまちの環境整備の推進 |
| 21. その他（具体的に： _____ ） |
| 22. 特になし |

問19 総合的にみて大口町は、子育てしやすいまちだと思いますか。

- | | | |
|-----------------|--------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらとも言えない | 4. どちらかと言えばそう思わない |
| 2. どちらかと言えばそう思う | 5. 全くそう思わない | |

【問20と問21については、「子どもがいる」という方がご回答ください。「子どもがいない」という方は、問22にお進みください。】

問20 子育てする上で、現在、特に負担に思っていることや悩んでいることはどのようなことですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 負担に思うことや悩むことは特でない |
| 2. 子育てによる身体の疲れが大きいこと |
| 3. 子育てによる精神的な疲れが大きいこと |
| 4. 子育てによる出費がかさむこと |
| 5. 今後の子育てや教育に費用を十分かけられそうもないこと |
| 6. 自分の自由な時間が持てないこと |
| 7. 社会的な孤立感や孤独感があること |
| 8. 子育ての方法がわからず、自信が持てないこと |
| 9. 子育てについて気軽に相談したり、話ができる人がいない |
| 10. 子どもと接する時間が十分に持てないこと |
| 11. 配偶者やパートナーの協力が少ないこと |
| 12. 配偶者やパートナーと子育てに関して意見が合わないこと |
| 13. 配偶者やパートナー以外に、子育てを手伝ってくれる人がいないこと |
| 14. 子育てが大変なことをまわりの人があまり理解してくれないこと |
| 15. その他（具体的に：_____） |

問21 あなたは、将来、あなたの子どもにはどこに住んでもらいたいとお考えですか。

- | |
|--|
| 1. できれば同じ敷地に一緒に住んでもらいたい |
| 2. 一緒になくても大口町内には住んでもらいたい |
| 3. 大口町内ではなくても何かあればすぐ来られる周辺の市町に住んでもらいたい |
| 4. できれば愛知県内に住んでもらいたい |
| 5. 子どもが住む場所にはこだわらない |
| 6. わからない |
| 7. その他（具体的に：_____） |

D 仕事についておたずねします。

問22 現在従事している仕事を選択した主な理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 現在、仕事をしていない ⇒問25へ | 7. 自宅から通える職場だから |
| 2. 希望する会社だから | 8. 希望する働き方ができる仕事だから |
| 3. 希望する職種だから | 9. 他に仕事がなかったから |
| 4. 自分の資格や経験が活かせる仕事だから | 10. その他（具体的に：_____） |
| 5. 親が経営している仕事だから | _____ |
| 6. 親族・知人が経営している仕事だから | 11. 特に理由はない |

問23 【現在仕事をしている方におたずねします。】現在の「仕事」について、満足していますか。

- | | | |
|-------------------|--------------|------------------|
| 1. 満足している | 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえば不満である |
| 2. どちらかといえば満足している | 5. 不満である | |

問24 問23で回答された現在の仕事に対する満足度（満足や不満）は、主にどのような事項が理由になっていますか。主なものを**3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 仕事の内容 | 7. 経営の安定性 |
| 2. 給料水準 | 8. 休暇制度の水準 |
| 3. 職場の雰囲気 | 9. 子育てとの両立 |
| 4. 自分の個性や能力との適性 | 10. 資格の取得につながるような技術や知識の習得 |
| 5. やりがいや役立ち感 | 11. 職場の場所 |
| 6. 趣味や家庭生活との両立 | 12. その他（ _____ ） |

問25 大口町において雇用の機会や仕事の間を充実していくために、どのような取組が必要であると考えますか。あてはまるものを**3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 企業を誘致し雇用の場の創出を図る |
| 2. 賃金等の労働条件がもっと良くなるように町内の企業に働きかける |
| 3. 就職等に関する情報をより多く提供する（インターネットや冊子などで） |
| 4. 合同企業説明会や就職フェアなど、町内の企業と接する機会、知る機会を増やす |
| 5. 職業体験やインターンシップ [※] を充実させる（実施回数・期間や実施企業の拡大） |
| 6. 町内の企業の紹介や職場見学を充実させる（実施回数や受入企業数の拡大） |
| 7. 技術や能力を向上するための職業訓練の機会を充実させる |
| 8. 就職活動に関する講座やセミナーを開催する |
| 9. 就職に関する相談を気軽にできる専門の相談員や相談窓口を充実させる |
| 10. 新たに起業しようとする人を支援する |
| 11. 求人を増やすように町内の企業に働きかける |
| 12. その他（具体的に： _____ ） |
| 13. 特に必要ない |

※インターンシップ：学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度

E 大口町の住みやすさや定住意向等についておたずねします。

問26 総合的にみて大口町は住みよいところだと思いますか。

- | | | |
|------------------|--------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 3. どちらとも言えない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 2. どちらかといえば住みやすい | 5. 住みにくい | |

問27 あなたはこれからも大口町に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 今後も大口町内に住み続けたい | 3. できれば大口町外に住みたい |
| 2. できれば大口町内に住み続けたい | 4. 大口町外へ移り住む予定である |
| | 5. わからない |

↓
問28へ

問28 【問27で3、4のいずれかをお答えの方にお伺いします。】

大口町から転出することになる場合、主にどのようなことが理由として考えられますか。主なものを**3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 就職のため | 14. 町内では、適当な賃貸マンションやアパートを確保しづらいため |
| 2. 転勤・転職のため | 15. 親や自分の家屋や土地が他の市町村にあるため |
| 3. 町内やその周辺に働きたいと思う企業がないため | 16. 自分の家を持ちたいため |
| 4. 家業や家の跡を継ぐため | 17. 慣れ親しんだ他の市町村の生活環境の中で生活をしたいため |
| 5. 就学・進学のため | 18. 友人や地域の知人が多くいる環境で暮らしたいため |
| 6. 結婚のため | 19. 自分や家族に合った生活スタイルの暮らしをしたいため |
| 7. 親などの介護のため | 20. 同居している家族が他の市町村での生活を希望しているため |
| 8. 子どもが生まれるのをきっかけに | 21. その他（具体的に：_____） |
| 9. 子どもが入学、進学をきっかけに | |
| 10. 親と同居するため | |
| 11. 兄弟姉妹や親戚が他の市町村にいるため | |
| 12. 町内では、一戸建住宅を確保しづらいため | |
| 13. 町内では、分譲マンション等を確保しづらいため | |

問29 あなたは、大口町に多くの若い世代の人が移り住み、定住するようにするために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを**3つまで**選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1. 町内の円滑な道路網（自動車）の整備・充実 | 12. 学校教育面の充実 |
| 2. 歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策 | 13. 高齢者福祉や介護サービスの充実 |
| 3. 防災・減災対策の充実 | 14. 生活習慣病予防や健康相談などの健康管理や健康づくり事業の充実 |
| 4. 防犯対策の充実 | 15. 文化・芸術、生涯学習、生涯スポーツの充実 |
| 5. 買い物等の利便性の向上（日常生活に必要な商業の振興） | 16. 若者による若者のためのイベント等の充実 |
| 6. 就職機会の拡大や雇用の場の創出（既存企業の振興や新たな企業誘致、起業支援） | 17. 地域活動やボランティア活動の活性化 |
| 7. 高校や大学へ進学した時の奨学金による経済的な支援 | 18. 五条川と五条川の桜並木を活かしたまちづくり |
| 8. 住宅地の開発・造成 | 19. 公園や子どもの遊び場の整備・充実 |
| 9. 賃貸アパート等の整備の促進 | 20. 大口町の魅力や良さのPR・情報提供 |
| 10. 空き家等を有効に活用するための支援（空き家等の賃貸情報の提供、改修支援） | 21. その他（具体的に：_____） |
| 11. 子育て支援・子育て環境の充実 | 22. 特にない・わからない |

ご協力ありがとうございました。記入漏れ等がないかご確認の上、平成27年12月10日（木）までに返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。